文教厚生常任委員会での質問 抜粋（要約）

進路指導のあり方について

（古賀千景参議院議員の自衛隊差別発言を受けて）

一般質問の動画は⇒



中村：今月 15 日の参議院決算委員会において、立憲民主党の古賀千景参議院議員から「自衛隊に行く子どもたちって、経済的に厳しい子どもたちが行くんですよ。豊かな子どもたちは自衛隊とかなりませんよ。」 との発言があった。
私は、この発言を単なる失言とは思っていない。過去約 30 年、小中学校の教員として教壇に立ち、さらに教職員組合の役員も務めてきた人物が、長年の教師経験を通じて形成した自衛隊に対する認識なのだと理解している。
そして、私がこの発言の中で特に罪深いと思うのは、「豊かな子どもたちは、自衛隊とかになりませんよ。」の「とか」の部分である。「○○とかならない。」そう言われた側は、そしてそのご家族は、またその職業に就くために頑張っている学生たちは、どう感じるだろうか？「○○とか」という言葉の中には、その職業そのものを低く見る意識、差別意識が含まれている。長年教育現場に身を置いた元教師による今回の発言を、進路指導の観点から、教育委員会としてどのように受け止めておられるのか？

学校教育課長：県の教育委員会の立場としては申し上げることはない。

中村：問題はなかったとお思いか？

学校教育課長：現職の教員が、そういった発言を万が一する、ということがあれば、それは問題だと考える。

中村：教師も人間である。政治的信条もあれば、国家観もあり、職業観もある。だからこそ私は、教師自身が「自分の価値観が、知らず知らずのうちに生徒の進路選択に影響を与えていないか」、常に自問自答する姿勢が必要だと思う。
そこでお尋ねするが、県立学校における就職に関する進路指導について、特定の職業を差別せず、生徒が希望する職業について、適切なアドバイスができているのか？



古賀参議の発言のもととなった「まるわかり!日本の防衛」

学校教育課長：高校においては、担任だけでなく、教科担当者や学年主任、部活動の顧問など、様々な立場の教員が生徒と関わる中で、学校全体がチームとして進路指導を行っている。

中村：教育長、ぜひ最後にひとこと。

教育長：子どもたちが自ら自分らしく自分の進路を選んでいける、大人が何かゆがめることがないように、逆に子どもたちの選択肢を広げるような、そういう働きかけということを常に大切にしながら進路指導に当たっていきたい。

その他、下記等についても質問
- ◎通級指導教室について
- ◎不登校児童支援について

佐賀県議会議員

中村圭一 活動報告

令和８年６月定例会 vol.26

まさに夏本番！



今のところ豪雨による大きな被害はなく、このまま出水期が過ぎてくれることを祈りながら、6月定例会の閉会を迎えました。

今議会では、ホルムズ海峡が封鎖されたことによるナフサ不足が大きく取り上げられました。「仕事はあるのに、材料の調達ができずに仕事ができない。このままでは夏を越せないかも？」という切実な声。多くの議員にも寄せられたその声に応えるため、県では新たな融資制度「中東情勢対応緊急対策資金」を新設しました（限度額3,000万円、保証利率 0.2%）。現在、材料不足は解消してきているようですが、材料の価格は高止まりのままだとお聞きします。融資の対象となる事業者の方々には、制度の活用をご検討いただければと思います。

また、国政調査の結果を受け、県議会の選挙区ごとの定数配分について、議会内で議論が重ねられました。本会議での採決まで持ち込まれましたが、公職選挙法が認める「特別な事情」(※)を適用し、唐津市・玄海町選挙区を１減せずに６のまま、鳥栖市を１増せずに３のまま、で来春の選挙を迎えることとなりました。多数決で決まったこと。受け入れて選挙に臨みたいと思います。

そして議会最終日、前号で提出を目指すとしていた、交通事故等による被害を受けた胎児に係る法整備を求める意見書については、全議員の賛同を得て国に対して提出することができました。

さて、梅雨が明けたとたんに猛暑続き。鳥栖山笠も終わり、まさに夏本場です！これからも容赦なく暑い日が続くと思いますが、夏バテ、熱中症など、くれぐれもお気をつけいただきながらお過ごしください。

（※）今回の唐津市・玄海町選挙区の「特別な事情」とは、合併、面積、過疎、有人離島、原発など。

6月補正予算の主要事項一覧 ⇒

物価高騰対策の交付金一覧 ⇒

ご意見ご要望は
携帯 090-2522-3944
E-mail ddonenak@kumin.ne.jp

Photo Gallery

4/19 旭地区での県政報告会



地元旭地区の皆様を対象に県政報告会を開催。県民の間でも意見が分かれる西九州新幹線と県立大学について私見も交えてご報告。工事が始まったアサヒビール烏栖工場や地域の課題である豪雨対策などについても。ご参加いただいた皆様に心から感謝。
アンケートの結果を見ると、新幹線の賛成が思ったより多く、県立大学の賛成が思ったより少ない印象。

【アンケート結果】
新幹線のフル規格化（佐賀駅ルート）に賛成　78%
県立大学の創設に賛成　40%

4/29 好天に恵まれた宿の鉦浮立



昭和の日。毎年この日は宿の鉦浮立。
一度途絶えた伝統行事を復活させたのが、今から37年前の平成元年とのこと。
一度止まったものを動かすには大きな力が必要。たぶんお謡を担当されていた先輩方の時代。その当時の熱意、そして今も変わらぬ熱意に心からの敬意。太鼓を担当した小学校中学年くらいの男の子、親子三世代で参加していたその子が「今日はおじいちゃんとお父さんがカッコよく見えた」と直会でマイクを渡され一言。おじいちゃんとお父さんは、さぞ直会のお酒が美味しかっただろうな〜。

5/31「女性の集い」を開催





コロナ禍などもあって実に7年ぶりの女性の集い。いつもの新幹線、県立大学のほか、ナフサ不足、奨学金返還支援、水道料金の減免などについてご報告。その後昼食を召し上がって頂いているテーブルを回りながら、ご意見・ご要望などを拝聴。「楽しかったよ」と言っていただいた○×クイズ、全員での記念撮影まで計2時間。ご参加くださった皆様、本当にありがとうございました！

6/29 佐賀大学で意見交換



特別委員会で佐賀大学を訪問。佐賀県出身者の入学者数が全体の約25%なのに対し、福岡県からは約50%も。卒業後の県内就職者数の確保につなげるためにも、佐賀県からの受験生の合格率（今は約40%）を上げることが重要であると再認識。卒業生の県内就職率（医学部、教育学部除く）は約17%。そこから佐賀県出身者だけを抽出すると何%なのか？これは県立大学創設の是非を判断する際に大いに参考になる数字。後日頂いたデータによると約31%だった。予想していたより低い。



6/27 向門市長の市政報告会

向門市長の市政報告会に参加。市長に就任されてから約3年半。この間に行ってこられたこと、これから行おうとされていることなど、分野ごとに詳しいご報告を拝聴。参加された皆様も、市政の今と未来についてよく理解いただけたのでは。未来に向かって力強く歩みを進める鳥栖市を、県と国がしっかりと後押ししていくよう活動することが、県議としての自分の役目だと改めて強く認識。

7/7 国交省の事務次官を訪問

国土交通省の水嶋事務次官を訪問。FGTを断念した責任を重く受け止め、これまで佐賀県の事情に最大限配慮しながら、西九州新幹線の全線フル規格化を目指してこられた水嶋次官も、今国会が閉会すれば退任される予定。水嶋次官ほど情熱をもって佐賀県と向き合ってこられた方は、国交省の中には存在しない。次官退任後の西九州新幹線が心配だという質問に対し、次官から、自分が退任後もしっかりと次の次官に引き継ぐ、自分が民間人になっても協力は惜しまない、退任するまでの間で何かしらの結果を残す、という心強いお言葉をいただいた。大詰めを迎えている次官と知事との協議。この報告がお手元に届く頃には何かしらの成果がでていることを期待。



一般質問 抜粋（要約） 令和8年2月定例会

一般質問の動画は⇒

1 九州新幹線西九州ルートについて



中村：新鳥栖―武雄温泉間の整備を巡る議論では、財政負担、在来線の利便性、地域振興策など、多くの重要論点が指摘されている。しかしながら、これらの議論は依然として抽象的な段階にとどまり、具体的な条件や数値を伴った検討には、全く踏み込めていない。なぜか？それは具体的なルートや前提条件を仮定として設定しないから。仮定の議論は、県の最終判断を拘束するものではなく、むしろ県て、仮定の設定そのものを回避することは、県民への必要な情報提供の機会を逸し、議論の深化を阻害していると言わざるをえない。

知事：フル規格での整備の案、相当困難だが…水嶋次官（国交省の事務方トップ）との協議、交渉をしている。この中では（議員が言うような）仮定の話も含め、様々な観点から意見交換をさせていただいている。

中村：知事は、水嶋次官との間で「両方で合点がいったことも多々ある」と発言されている。合点がいったこととは何なのか？

知事：できる限りいろいろな話ができるように、筆記者も入れず、二人だけでいろいろな話をしている。交渉している話というのは、その都度表に出すことは難しい。

以前はマスコミを入れた「フルオープン」の場でしか国交省と協議しなかった知事。隔世の感を覚えると同時に、知事の本気度も感じた質疑応答だった。

2 シベリア抑留という歴史的悲劇を授業で取り上げることについて

中村：戦後のシベリア抑留は、1945年の終戦後も約60万人の日本人が、旧ソ連により、何年もの間拘束され、酷寒の地での過酷な労働や飢え、劣悪な収容環境の中で、その約1割、6万人が亡くなられたという、歴史的な悲劇。この史実を授業で取り上げるにあたり、特定の国や民族への憎悪を助長することなく、また一方的な自己否定的歴史観にも陥らないことが重要である。また、シベリア抑留の教育は、教師の歴史認識や指導力に大きく依存する側面がある。授業を行う前段階として、しっかりとした教員研修も行うべきだと思うが？



東京にある帰還者たちの記憶ミュージアム（HPより）

教育長：戦争や戦乱をはじめ、歴史的な事象を教材として取り扱う際は、教員自身の価値観や歴史的評価を教え込まないこと、そして、児童生徒が偏った考え方に陥らないようにすることは極めて重要。未来を担う子供たちが平和を守り、つないでいく力を育めるよう、平和に関する教育に今後ともしっかりと取り組んで参りたい。

3 県警察の信頼回復のために

中村：（DNA型鑑定不正事件によって失った）県民からの信頼は、反省とか、決意とかでは回復できないと考える。県警察として、しっかりと目に見える形での「取り組み」を行うことで、県民からの信頼の回復に努めていただきたい。それが、今、警察本部長を務めておられる福田本部長の、大げさに言うと天命であると思うが？

県警本部長：県警察の信頼回復のための取り組みが求められていることは十分に認識している。今後も警察本部長として責任をもって取り組みを続けていく。

佐賀県議会議員

中村圭一 活動報告

令和８年２月定例会 vol.25

２期目の任期も残り１年に



雨の影響で今年の桜は短かった印象ですが、皆様はお花見の機会は持てましたか？私は、去年は入院していて全く桜を見ることができなかったことを思い出しながら、母と妻と一緒に田代公園の桜を楽しむことができました。

しかし、１年はあっという間ですね。この１年間で、戻らなくてもいい体重も、すっかり元通り。県議会議員の２期目の任期も、残すところあと１年となりました。

ここ２年間は、政策部（県立大学などの重要施策）、総務部（財政や人事など）、警察本部（県民の命と安全、DNA型鑑定の不正事件など）を所管する総務常任委員会の委員長を務めました。大変でしたがいい経験をさせて頂きました。４月21日から始まる臨時議会で、最後の１年間に所属する委員会が決まります。その委員会の中で、また与えて頂く立場で、県政発展のために議論（提案）して参ります。

いつも申し上げるのですが、皆様の声が私の活動の原動力です。最後の１年も、どうぞご意見・ご要望をお寄せくださいますようお願い申し上げます。また、春が過ぎれば、いよいよ出水期です。豪雨災害が今年もないよう祈りながら、ご挨拶と致します。


「とす弥生・桜まつり」での巫女舞（満開の桜に囲まれて）

２月定例会で可決された補正予算・当初予算の主要事項一覧 ⇓

補正予算　当初予算

ご意見ご要望は
携帯 090-2522-3944
E-mail ddonenak@kumin.ne.jp

Photo Gallery

3/4 総務常任委員会で質問



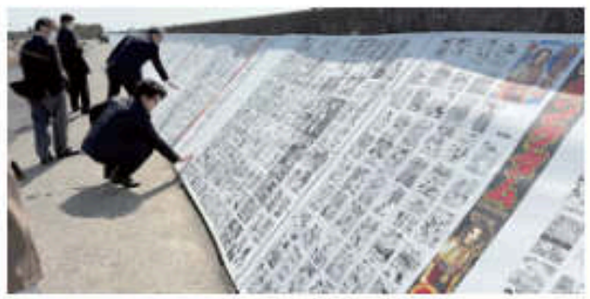
委員長席から自席に移動し、付託議案に関して質問。取得し易くするために生理休暇をフェムケア休暇に名称変更する条例改正案に対して。名称を変えても職員の意識が変わらなければ意味がなく、職員の意識改革が第一と指摘。また、フェムケアは、生理、妊娠、出産、更年期など幅広く含む言葉。であれば、休暇も生理だけでなく幅広く認めるよう要望。その他、県立大学の詳細設計に係る予算についても質問。当初設置の予定がなかった売店については、前向きに検討する旨の答弁が。

3/5 キングダム X(駆ける) 佐賀県



基山町出身の原泰久先生による超人気漫画「キングダム」。私も大ファン。その「キングダム」と佐賀県がコラボ。総務常任委員会で佐賀空港と干潟よか公園そばの防波堤を視察。空港では原先生直筆のイラストとサインを発見。防波堤にはコミックス１～７７巻の全てを原寸大で展示。３月末までの来場者数 16 万人の約７割が県外からとのこと。昨年度のゴジラとのコラボなど、様々な企画で佐賀県を全国に売り込んでいる担当課に敬意。





4/4 次の議会での意見書提出に向けて

交通事故によって被害を受けた胎児にかかる法整備の必要性について東京で研修。昨年５月、交通事故で亡くなった妊娠９か月の妊婦さん。そのお腹から助けられたものの、重篤な障害が残った女児（日七未ちゃん）。２４時間体制での医療的ケアが必要。しかし、刑法上は、胎児は人ではなく母体の一部。被害者とは認められない。お腹の中でどんなに成長していても。胎児はいつから人なのか？意見は分かれるのだろう。しかし、亡くなった妊婦さんの父（生まれた女児のケアを続ける祖父）の切実な訴えを聞き、少なくとも医療の進歩に法律が追い付いていない実態について、国民的な理解を得なければとの思いに。地方の議会からも、意見書などの形で、なんとか国を動かしたい。



５月で一才になる日七未ちゃん（祖父より）

交通事故等による被害を受けた胎児に係る法整備を求めるオンライン署名 ⇒

4/9 アサヒビール工場の起工式

アサヒビール㈱鳥栖工場の建設がようやく始まる。その起工式に、家から歩いて参加。



工場の完成イメージ図（アサヒビールより）

ビール、缶チューハイ、ノンアルコール飲料など、年間約２億９千万リットルの生産を想定しているとのこと。「東アジアを中心とした海外市場への輸出にも挑戦していく」との社長のご挨拶も。神事の後の直会では、テーブルが一緒になった常務（生産本部長）さんに、鳥栖市との間で防災協定を結んでほしいと打診。「是非に」とのお言葉を頂いたことを、後日市長に報告。

3/18 武雄アジア大学の内覧会

今年度に開学した武雄アジア大学。その校舎の内覧会に参加。期待の高さの表れか、学校側の想定を遥かに超える約300人が参加。地域に開放された図書館やカフェテリア、透明性のある教室などが特徴とのこと。このピカピカの校舎で学ぶ学生を羨ましく思っていたところ、ショッキングなニュースが。今年度の入学者数が 37 人のみ（定員 140 人のわずか 26.4%）だったとのこと。県からも武雄市を通して 6.5 億円を補助している武雄アジア大学。議会としの責任を自覚しながら、大学の今後を注視していく。





大学の外観（武雄アジア大学 HP より）

決算特別委員会での質問 抜粋（要約）

※決算委員会の主たる目的は、税金が適切に使われているか、事業の成果が出ているかなどを確認し、課題を翌年度以降に活かすこと。

1 肥前鹿島駅エリアプロデュース事業について



中村：事業の目的は？

答弁：目的は地域づくり。鹿島・太良地域の本物の地域資源をゆっくり、じっくり味わうスローツーリズムを楽しめるエリアをつくっていくこと。

中村：決算説明報告書のP.13に記載されているとおり、この事業によって鹿島・太良地域への人の流れを拡大させ、鉄道等の公共交通の利用促進を図ることも目的のひとつである。
目的があれば、その目的に合わせた目標がある。でなければ、PDCA（計画・実行・評価・改善）ができない。本事業の目標値は？

答弁：地域づくりというプロジェクトの性質に鑑み、…指標をもってこのプロジェクトを評価することは難しいと考える。

中村：県は特急「かささぎ」の一日上下14本の維持をJR九州に要望している。であれば、肥前鹿島駅の利用者の数とか、肥前鹿島駅から博多駅間の鉄道利用者の数などを目標値として設定すべきだと思うが？

答弁：繰り返しになるが、このプロジェクトは地域づくりが目的なので、（目標値は設定しないが）公共交通利用の促進にもつながるように意識はしながらやっていく。



肥前鹿島駅周辺の完成予想図

事業の目標値も持たずに、8年間という年月、総額53.2億円という税金を費やすことに対し、強い疑問を持ち質問したのだが…。

その他、以下5項目についても質問

- ○令和6年度決算について
- ○防災・減災等の取り組みについて
- ○デジタルSAGA官民共創セミナーについて
- ○私学助成について、障害者雇用について。

質問の議事録は ⇒

質問の動画は ⇒

佐賀県議会議員

中村圭一 活動報告

令和7年11月定例会 vol.24

明日に希望が持てる日本、そして佐賀へ



急転直下の解散総選挙により、予定よりひと月遅れてのご報告となりました。改めまして、皆様、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

本年は60年に一度の丙午（ひのえうま）、火のエネルギーが非常に強い年で、物事を一気に進めたり、新しい流れを生み出す力を持つ年だと言われています。

まさにそういう年に、高市早苗総理は、かつて昭和の時代がそうであったように、「明日に希望が持てる日本、将来に夢が抱ける日本」をつくると、強く公言されています。そういう日本へと再び向かう転換の年になるよう、私も地方の現場で微力を尽くしていく決意です。

しかし、日々の暮らしの安定がなければ夢も希望もなかなか持てません。昨年末には、18.3兆円という大規模な補正予算が国会で成立しました。令和8年度の国、県、市の本予算も、まさにこれから審議されます。昨年11月に改選された市議さんたちと連携し、皆様の声を活かしながら、より実効性のある物価高対策などの経済対策になるよう取り組んで参ります。

本年が皆様にとって、健やかで、充実した一年になりますよう心からお祈りし、ご挨拶とさせていただきます。



頼りになる地元の消防団（ほんげんぎょう）

11月定例会で可決された補正予算の主要事項一覧 ⇒

ご意見ご要望は

携帯 090-2522-3944

E-mail ddonenak@kumin.ne.jp

Photo Gallery



11/20 はがくれの塔へ

戦後 80 年の節目の年、神道議員連盟の有志で、沖縄県糸満市の平和祈念公園内にある「はがくれの塔」へ。沖縄戦での 914 柱を含む、佐賀県の戦没者約 28,000 柱を、県神道政治連盟の皆様とともに慰霊。「降神の儀」の際に急にブワッーと吹いた風を、今も忘れられない。



12/10 麓刑務所の視察

委員長を務める総務常任委員会で、九州で唯一の女性刑務所、麓刑務所へ。全国の矯正施設（刑務所）職員の制服や、佐賀錦を使用した小物入れ製作など、受刑者のみなさんの刑務作業や職業訓練を視察。麓刑務所は、大規模災害時に刑務所を市民の避難所として使用させていただくという災害協定を鳥栖市との間で締結されている。心から感謝。



受刑者のみなさんの食堂



1/26 与那国町議会が鳥栖へ



与那国町議会のみなさんが、台湾有事の際の一次避難所となる鳥栖市民体育館を視察。一昨年に開催された国スポのおかげで、市民体育館にも空調が。寒さにはあまり慣れておられないみなさん、少し安心した表情に。しかし、子どもたちの学校のこと、高齢者のお世話のことなどなど、やはり心配や疑問はたくさん。今後も継続して丁寧にコミュニケーションをとっていくことが大事。



与那国島から見える台湾（与那国町観光協会より）

2/7 麓地区の文化祭でごあいさつ

自身が旭地区のまち協会長だった時、文化祭で（いつも）詐欺師役を演じた防犯劇。その時の練習、大道具小道具づくり、本番でのお客さんの笑い声。今でも昨日のことのよう。文化祭は、それを創り上げていく仲間との絆を強め、楽しんでいただく地域の皆様との和を広げていく、地域にとって大切な行事。
今年が 49 回目だとのこと。50 回、60 回、100 回と続けていってほしい。



手話をしながらの歌う「手のひらを太陽に」



防犯劇での詐欺師役（2020 年）

11/12 県立大学について質問

令和 11 年 4 月の開学を目指して準備が進む県立大学。その基本設計が示されたことを受け、設置を計画しているオールジェンダートイレや、逆に設置を計画していない学食や売店について質問。年齢、性別、障害の有無などに関わらず、すべての人にやさしいいデザイン「ユニバーサルデザイン」を謳うのであれば、オールジェンダートイレではなく、ユニバーサルトイレ（多目的トイレ）にすべき。また誰でも財布を気にすることなく利用できる安くてボリュームのある学食や、校外にちょっと買い出しに、とはいかない車椅子の方などのための売店も設置すべき。執行部からは「真摯に検討する」旨の答弁が。



予定地に立って受ける基本設計の説明



一般質問　抜粋（要約）　令和７年９月定例会

1 メディアリテラシー(※)教育について

(※) メディアリテラシーとは：　テレビ・新聞・インターネット・SNS など、あらゆるメディアからの情報を正しく理解し、見極め、活用する力



中村：内閣府の調査によると、10代の約８割が毎日 SNS を利用しており、そのうち６割以上がニュースも SNS から得ているというデータがある。また総務省の調べでは、フェイクニュースを見抜けなかった若者が４割を超える、という結果も出ている。更に心配なのは、今や各種選挙の結果にも大きく影響を与えているアルゴリズムである。SNS でいうところの「アルゴリズム」とは、各ユーザーに、どのような投稿を、どの順番で、どのくらいの頻度で表示するかを決めるルールや仕組みのことを指すが、この「アルゴリズム」が SNS 利用者の興味や関心に基づいた情報ばかりを表示することで、異なる意見や価値観に触れにくくなるという「フィルターバブル」という現象が社会問題化している。特に成長期の子どもたちにとっては、自ら考える力を阻害する重大なリスクである。
・・・・今後、メディアリテラシー教育の重要性が益々高まっていくことは間違いないと思うが、教育委員会として、今後どのように取り組んでいくのか？

教育長：AI やメタバースの進化に見られるように、技術革新のスピードが速い情報社会において、学校での教育内容もそれに対応したものにしていくことが必要だと考えている。・・・将来にわたり、子どもたちが情報を主体的かつ的確に判断、活用し、豊かな社会生活を送ることができるように、情報活用能力を育む教育の充実に努めていく。

中村：今、児童たち、生徒たちのメディアリテラシーの水準がどの辺りにあるのか？どういうところが弱いのか、逆に強いのかということを把握するために、ぜひ実態調査をしていただきたいと思う。「実態調査をお願いします。」という質問をしても、すぐに「はい、分かりました。」という答弁にはならないと思うので、「実態調査をすることを検討いただけるか？」とお尋ねする。ご答弁を。

教育長：ICT 活用教育をどのように進めていくかという議論の中で、どういったことが有効なのか考えてみたい。

2 九州新幹線西九州ルートについて

中村：知事は、最近になって、「議員が国に対して意見することは意義がある。」とか「議員から国に対して何かを提案することはあってもいい。」などの答弁をされている。（西九州新幹線全線フル規格化の障壁となっている県の財政負担の問題などについて）国から解決策を示させるために、議員の働きを期待されているということか？



当時の高市政調会長に新幹線整備に関して要望（4 年前）

知事：無理がある国のスキーム自体を考えなければならない。・・・議員各位においても、国に対して、また与党に対して様々なものを訴えていただくことは大変意義がある。なので、大変期待している、と申し上げておきたい。

佐賀県議会議員

中村圭一

令和７年９月定例会

vol.23

活動報告

新しい総理が誕生。鳥栖市議会も新たに。



科捜研を視察した後の囲み取材

去る 10 月 21 日、第 104 代の内閣総理大臣に、高市早苗衆議院議員が選出されました。高市総理は、「日本列島を強く、豊かに。」というスローガンを掲げ、所得向上と消費拡大による経済の好循環、物価高対策と中小企業支援、大胆な戦略的投資による力強い経済成長などの施策に、ワーク・ライフ・バランスという言葉を（ご本人は）捨てて取り組まれています。高市総理の誕生を長年切望していた多くの同志と一緒に、地方から総理の取り組みを後押ししていく決意です。

さて、９月定例会では、付託議案とは別に、佐賀県警察科捜研職員による DNA 型鑑定における不正行為が大きな問題となりました。ひとりの職員による、実に７年以上にわたっての計 130 件もの不正行為。委員長を務める総務常任委員会では不正の現場である科捜研も視察。最終的には、佐賀県議会の全会一致で、独立性、透明性、専門性を備えた第三者による調査などを求める決議を可決。それを受け、現在は、（まったくの第三者ではないですが、）警察庁による特別監察が行われているところであり、その結果の報告を待ちたいと思っています。

今日は 11 月 10 日の月曜日。昨日、鳥栖市議会議員選挙が告示されました。定数の 22 議席を、現職 15 名、新人 11 名の計 26 名が争っています。新たに選ばれる市議の皆様としっかりと連携・協力しながら、鳥栖をもっと元気にしていきます！

９月定例会で可決された補正予算の主要事項一覧 ⇒

ご意見ご要望は

携帯 090-2522-3944

E-mail ddonenak@kumin.ne.jp

Photo Gallery

8/18 高校生と県議との意見交換会



唐津の高校生と県議会議員で、「若者の政治参加」をテーマに意見交換。日頃不安に思っていること、不便に思っていること、不満に思っていることなど、みんなで話し合って、何かひとつでも市（又は県）に対して要望してみる。その要望が実現してまちが良くなった。自分たちで変えた。そんな経験をすると政治を身近に感じてもらえるかも。もちろん叶わない要望もあると思うけれど、それもまたひとつの経験。私からはそう提案。





9/21 佐賀県警の科捜研を視察

佐賀県警の科捜研職員によるDNA型鑑定における不正行為（7年間で130件！）が発覚し、全国的に大きな問題に。警察に関する一般行政を所管する総務常任委員会で佐賀県警内の科捜研を視察。視察後に委員長として受けた報道機関の囲み取材では、「県警察の職員が誇りを持って仕事をしておられること。県警察が再発防止に真剣に取り組んでおられること。それらはよく理解できた。しかし県民、国民からの信頼回復のためには、第三者による検証がやっぱり必要だと思う。」と発言。

10/8&25 戦後80年の節目の年に・・・

「想い・記憶を未来につなぐ」をテーマに行われた佐賀県主催の戦没者追悼式（10/8）に参列し、鳥栖市の遺族を代表して献花。改めて考える。未来につなぐという想いとは？記憶とは？



鳥栖市でも行った戦没者追悼式（10/25）で会長式辞。遺児の記憶のほとんどが、戦後の生活の苦しさ。しかし、語り継ぐのはそれだけでいいのか？（愛する家族、ふるさと、そして日本という美しい国を守るために尊い命を落とされた）ご英霊への感謝の思いも伝え継いでいかなければ、真の意味での「平和の大切さ」は伝わらない。そう強く思う。



10/9 委員会の隣県視察（生成AI）

総務常任委員会で、福岡市の天神にある㈱QTnetを訪問。自治体においてChatGPTなどの生成AIを活用するメリット（業務の効率化、住民サービスの向上、職員の創造的業務へのシフトなど）について詳しくご説明を拝聴。また個人情報や機密情報の取り扱いなどの注意点についても。生成AIは「知の革命」だと改めて実感。同時に、生成AIは「頼る」のではなく、「使う」ことが大事だとも。





10/12 村田八幡神社の浮立

次男が村田町少年野球で一緒にプレーしていて、当時この浮立に参加していた子。逞しい大人になって、キリっと着物を着た彼が見守る先には、太鼓を叩く、その子の子！
時の流れの早さを感じるとともに、地域の伝統文化が、現代でも脈々と受け継がれていることになんだか感動。



10/21 台湾有事と与那国島

九州・沖縄防衛議連の総会を今年は佐賀県で開催。元陸幕僚長の岩田清文氏による防衛講話は、国際情勢の激変と我が国の安全保障について。「あるかどうか？」ではなく「いつあるのか？」という議論がなされている台湾有事。その台湾有事が即日本有事であるということを、よくよく理解させていただいた。







また台湾有事が発生した際に、佐賀市と鳥栖市に避難してこられることになる与那国島のみなさん。その与那国島の伝統芸能公演が11/2に佐賀駅前で。有事はあってはならない。でもこれも貴重なご縁。与那国島のみなさんとの交流をもっと深めていきたい。

一般質問　抜粋（要約）　令和６年 11 月定例会

1 SAGA2024国スポを終えて



①佐賀県の成績について

中村：国スポにおいて２位だったという成績について、県はどのように分析、評価されているのか？

局長：「SAGA2024」国スポでは目標としていた天皇杯獲得にはあと少しのところで届かなかったが、男女総合成績２位という結果だった。東京に肉薄し、冬季を除く本大会では１位の成績を達成した。全ての競技で、成年、少年、男子、女子、選手一人ひとりが佐賀の代表として最後まで諦めずに全力で戦う姿は、県民に大きな感動を与えてくれたと思っている。

②SAGA スポーツメンターについて

中村：知事は SAGA スポーツメンターの皆さん方にずっと佐賀にいてほしい、佐賀に住み続けてほしい、SSP 構想(※) をみんなで実現したいと強く思っておられるが、SAGA スポーツメンターの国スポ後の動向は？

局長：SAGA スポーツメンターは、本県が掲げる SSP 構想の取組に共感し、佐賀で活躍したい、頑張りたいという思いのある社会人アスリート。スポーツメンターという競技力の高い成年選手が身近に存在することは、少年選手の競技力のみならず、多くのアスリートや指導者にもいい影響を与えてくれた。現在、国スポ後の動向について各メンターに意向調査を行っているところだが、多くの方々が佐賀での活動を継続したいと、佐賀の子供たちの指導に携わりたいという意向を持たれている。今後もそれぞれの方々の人生設計、競技人生を尊重しながら、スポーツメンターにとっても、佐賀の子供たちにとっても、そして、ひいては本県の SSP 構想にとっても、よりよい形で活動が継続できるよう取り組んでいく。

③市町の取り組みについて

中村：国スポはあくまでも通過点。「SAGA2024」をきっかけに、地域にスポーツが根づくような取組を新たに始めようとしている市町もある。SSP 構想を掲げる県にとっても、市町のこうした取り組みは重要だと思うが、県は市町とどのように連携していこうと考えておられるのか？



局長：市町と競技団体との橋渡しや、アスリートや指導者の地元定着に向けた県のアスリート就職支援制度の活用など、市町の意欲や取組方針に応じた支援を行っていく。…SSP 構想をより推進し、佐賀から世界標準のスポーツ文化をつくっていく上で、それぞれの地域でスポーツが様々な形で根づくことは大変重要である。市町の意欲を後押しし、形にしていきたい。

(※) SSP（SAGA スポーツピラミッド）構想：世界に挑戦する佐賀ゆかりのトップアスリートの育成を通じてスポーツ文化（する、観る、支える、育てる、稼ぐ）の裾野を拡大し、さらなるトップアスリートの育成につながる好循環を確立することで、スポーツのチカラを活かした人づくり、地域づくりを進めるプロジェクト。

佐賀県議会議員

中村圭一

令和7年2月定例会・令和7年6月定例会

vol.22

活動報告

貴重な初めての体験



新年号から実に７か月ぶりの活動報告になります。

２月定例会の最中に不注意から腰を痛め、治療のため整形外科へ。その通院の途中で腰をかばってバランスを崩し、足まで捻挫。

１週間後、ギプスの中の捻挫した足が化膿して腫れあがっていることが発覚。緊急入院して膿を取り除く手術をしたのが３月下旬。自身のお尻の皮膚を移植する手術も経て、退院したのが４月中旬。

しかし腰痛は全く改善する気配なし。家族に何度も勧められてやっと受けたMRI検査と血液検査によって、腰痛の原因が化膿性脊椎炎であることが判明！緊急手術が必要となり、福岡の病院へ救急車で移動。手術は無事に済み、その後の抗生剤の点滴治療を経て、５月下旬にようやく退院。この間に様々な形でご迷惑をおかけした関係各位に心からお詫び申し上げます。

活動報告を発行できなかった言い訳が長くなりましたが、入院、全身麻酔、手術、車椅子、救急車など、いろいろな初体験をさせていただきました。また、看護師、准看護師、看護助手などの皆さんのお仕事の大変さ（過酷さ）を、実体験として理解することもできました。これらの貴重な体験を、必ず今後の活動に活かしていきます。

９月定例会の開会が９月10日。それが終わると決算特別委員会、そして一息つく間もなく11月定例会と続きますが、皆様の負託に応えるべく、そして経験を生かすべく、しっかりと働いて参ります。

まだまだ暑い日が続きます。どうぞご自愛ください。

令和7年2月定例会で可決された当初予算の主要事項一覧 ⇒

令和7年6月定例会で可決された補正予算の主要事項一覧 ⇒

ご意見ご要望は

携帯 090-2522-3944

E-mail ddonenak@kumin.ne.jp

Photo Gallery



2/22 県政報告会を開催

田代中学校区の皆様を対象に県政報告会を開催。三連休の初日、また寒い中にご参加くださった皆様に心からの感謝。お聞きしたご意見・ご要望、ご協力頂いたアンケートの結果が今後の活動の原動力に！

3/6 委員長として鳥栖市を視察

5千万円の予算（県 3/4、市 1/3）をかけて、今年の10月頃に鳥栖駅東側エリアでイベントを開催するという予算案。その審査の過程





で現地を視察。サンメッセの会議室で鳥栖市のご担当から趣旨等の説明を受け、イベント会場となる駅前広場へ。鳥栖市長のお出迎えをいただき、サロンパスアリーナの内部も見学させていただいた。

6/25 常任委員会はYouTubeで生配信

6月定例会も終盤戦。この日は委員長を務める総務常任委員会の質疑。翌日は午前中質疑で、午後は佐賀県消防学校にて、消防職員の初任科教育訓練の状況を視察。本会議の一般質問だけでなく、常任委員会、特別委員会もYouTubeで視聴可能。検索ワードは「佐賀県議会」と「委員会」で大丈夫。ぜひ一度ご視聴ください。



6/29 炎天下のどろんこ大会

高田町・安楽寺町ＪＡ青壮年部主催の「どろんこ大会」に参加。田んぼに素足で入る時の「ヌルッ、ズブズブ」という感覚。泥だらけになって行う綱引きなどのゲーム。子どもたちにとって忘れられない体験になったはず。
また、田植えも体験し、その晩食べたご飯は、より一層美味しく感じられたのでは。猛暑の中、汗だくになりながら動き回られていたスタッフの皆さん、本当にお疲れ様でした！





7/12 なんとか参加できた鳥栖山笠

退院から1か月半。まだ山車の上でがぶられるのは無理。今年は本部の苦情処理係を拝命。2日間とも苦情もなく、落とし物がひとつあっただけ。それもすぐに解決。写真は所属する秋葉町浮立会の山車が町内回りをしているところ。山車の上には子どもたち。来年は一番山だ！

7/15 県民環境部に要望



建設予定の産業廃棄物の最終処分場に関して、地元の区長さんたちが県に要望書を提出。手続きに瑕疵がなければ設置許可を出さなければならないという法律に則り、県が5月に設置を許可。「設置」はしても、地元住民の理解を得ることなしに「稼働」されることがないよう、許可権者である県に強く要望。それを受けた県からは、「地元の皆さんのご理解が何より大事である」旨の発言あり。今後も地域の皆様と伴走していく。



7/29 鳥栖体操クラブを訪問

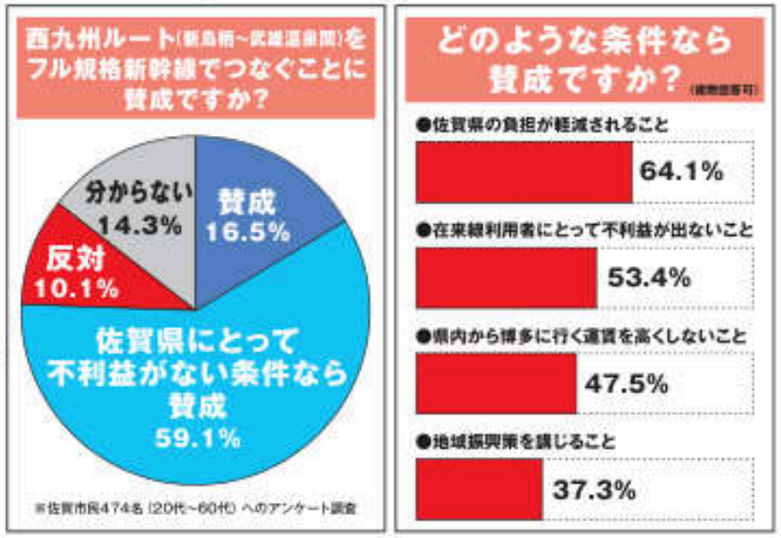


酷暑の夏。鳥栖体操クラブを訪問し、高校総体を目前に控えた選手たちを激励。クラブの練習場には空調設備がない。夏場には軽く40℃を超え、熱中症や（汗による）怪我の危険性を抱えながら練習。そのため、試合シーズンの一番大事な時期に、長時間の質の高い練習ができない。練習場に空調設備がないこと。これは選手の安全の問題であり、競技力の問題でもある。SSP構想（裏面に説明）を掲げ、競技力の向上を目指している佐賀県に、改めて私からも相談したい。

一般質問 抜粋（要約）

1 九州新幹線西九州ルートについて

中村：佐賀県と佐賀市の有志議員で企画し、調査機関に依頼して行ったアンケート調査の結果（右パネル参照）で少なくとも明らかになったのは、新鳥栖―武雄温泉間をフル規格で整備することによって一番影響を受ける佐賀市民は、フル規格新幹線にYESと言うのかNOと言うのか、それを判断するための材料、判断材料を求めているということ。そこで質問に入る。



①佐賀県の財政負担について

中村：アンケート調査で一番多かった佐賀県の財政負担の軽減について。去る10月1日の新幹線特委において、国交省鉄道局の足立審議官に対し、「属地主義という今のルールの下では、長崎県の負担はゼロ。それだと誰も納得しない。長崎県側も佐賀県だけに負担させる訳にはいかないと思っておられるはず。今の法律でそうなっているのであれば、その法律を改正して例外を設けるべきだ。」という私の問いに対し、足立審議官は、一鉄道局の一存でできるものではないと前置きされた上で、・・・・そういう時、その場が来ればしっかりと検討したい旨のご発言をいただいた。法律を作るのは国会、国会議員である。・・・・佐賀市民が求める判断材料を示すために、佐賀県の負担を可能な限り軽減するための手段、法改正をはじめとした有効な手段の提案を、そちら（与党や国交省）側からしてくるよう求めるべきだと思うが？

部長：新鳥栖―武雄温泉間は、在来線利用以外に合意されたものはない。・・・・議員が言われたようなこと（県の財政負担の軽減策）は、合意を変えたいと思っている側（与党や国交省）が提案してくるのが筋である。

②在来線の利便性の確保について

中村：アンケート調査で2番目、3番目に多かった、いわゆる在来線の利便性の確保について。JR九州の古宮社長の定例会見（10/28）でも理解できるとおり、西九州新幹線が全線フル規格になっても、ニーズがある特急の「かささぎ」と「みどり」は残る。そして、西九州新幹線が全線フル規格になったら、快速を走らせることもできる。なぜなら、「リレーかもめ」が新幹線になってダイヤに空きができるから。また、普通列車も今までどおり。なぜなら、鳥栖―佐賀間は、一日当たりの通過人員が平均28,000人というドル箱路線だから。以上のように、西九州新幹線が全線フル規格になっても、在来線が今より不便になるとは私は全く思わない。しかし、地域交流部長が（前9月定例会にて）言われたように、確かに何も確約されたものはない。だからこそ、・・・・フル規格整備後の在来線の具体的なあり方についてJR九州との話し合いに入るべきである。話し合いの先に約束がある。決して逆ではない。いかがか？



部長：JR九州が、これまでの合意と異なってフル規格を求めている訳である。したがって在来線をどうするかということ、これはJR九州から提案されるのが筋である。

③部長答弁を受けての再質問

中村：国、もしくは与党から、そしてJR九州から「協議をしよう」との提案があれば、それについては「受ける」ということでいいのか？再度確認する。

部長：私ども佐賀県はいつでも門戸を開いている。

佐賀県議会議員

中村圭一 活動報告

令和6年度 11月定例会 vol.21

昭和100年、戦後80年の年頭に思う



皆様、あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願い申し上げます。

令和7年の今年は、昭和で数えるとちょうど100年、そして戦後80年という大きな節目の年となります。

自身が生まれ、青春時代を過ごした昭和を懐かしく思うとともに、自分たちがそうだったように（そうさせてもらっていたように）、今を生きる若者たちが、将来に夢や希望が持てる社会にしていかなければならないと、反省とともに強く思わされます。

また、戦後80年ということは、遺児も一番若くて80歳です。これからは、鳥栖市遺族連合会の会長である私も含め、戦没者の孫の世代が、戦争の悲惨さやご英霊への感謝の思いを語り継いでいかなければなりません。その責任の重さも痛感しています。

50代の半ばの私でも、まだ「若手」と言われる世界に身を置いていますが、健康に留意しながら、大きな節目の今年一年、与えて頂いている職責を全うして参る所存です。

皆様方の今年一年のご健勝、ご多幸、そしてそれぞれの分野でのご活躍を、また災害のない一年となるよう心から願い、新たな年のはじめのご挨拶とさせていただきます。



旭小学校のグラウンドで行われた新年の伝統行事「ほんげんぎょう」

11月定例会で可決された補正予算の主要事項一覧⇒

ご意見ご要望は
携帯 090-2522-3944
E-mail ddonenak@kumin.ne.jp
ホームページアドレス
https://www.nakamurakeiichi.com/

Photo Gallery



豪雨の際に真っ先に冠水する県道中原鳥栖線の儀徳交差点の付近（アンダーパス箇所）

11/15 鳥栖市長と一緒に要望



鳥栖市内の県道整備について、鳥栖市長と市選出の県議３名（全員）で、県庁の担当部を訪問し要望。テーブルに大きく広げた図面を見ながら、今後の事業計画などについての説明を聴取。特に県道中原鳥栖線の下野交差点から西側の整備計画を、目に見える形で進めるよう強く要望。

11/16 河内大山祇神社のライトアップ

美しくライトアップされた木々を愛でながら聴くジャズ。ゆっくりと流れる時間。年々充実していくステージイベントを、たくさん集まった皆さんも堪能されたのでは。
地元河内町をはじめとした関係者のみなさん、今年もありがとうございました！



11/24 創立 70 周年の駐屯地



目達原駐屯地の創立 70 周年記念行事に参加。隊列を組んで青空に向かって飛び立っていくヘリコプター隊。有事や災害に備え、日々厳しい訓練を行っておられる隊員の皆様に心からの感謝と敬意。



有事といえば、台湾有事の際の、沖縄県先島諸島の住民の皆さんの避難先を佐賀県が担当。その実際の受け入れ先は、佐賀市と鳥栖市になる見込み。交通の便がよく、全国住みよさランキングでも常に上位の鳥栖市。当然の担いであると思う。万が一の有事の際に備え、今から先島諸島の皆さんとの交流を深めていきたい。

12/11 ゴジラのダムアート

委員長を務める総務常任委員会の現地視察で、岩屋川内ダム（嬉野市）へ。佐賀県とほぼ同じ“かたち”のゴジラとのコラボレーション。その一環としてのダムアートを見ようと、県内外から10,000人以上が来られているとのこと(当日現在)。「佐賀県かたち観光大使」として、ゴジラには大いに佐賀県の魅力を全国に向けて発信してほしい。しかし、佐賀県の形がゴジラに似ていると、最初に誰が気付いたのだろう？





12/19 オイスカの研修生との交流

パプアニューギニア、東ティモール、ウズベキスタン、フィジー、モンゴルなどなどから日本に農業技術を学びに来ている研修生たち。彼らを佐賀県農業大学校に招き、最先端の農業実習施設などを見学してもらう。その後の交流会では、研修生たちの披露する歌とダンスで大盛り上がり。日本で学んだ技術で、それぞれの祖国に貢献するのだという決意（使命）を持った研修生たち。彼らの、全てを学び取ろうとする真剣さと、苦労を吹き飛ばす陽気さに、逆にこちらが大切なものを学ばせていただいた。





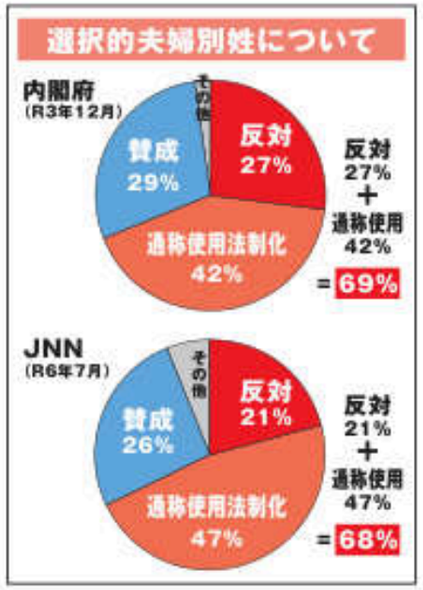
12/23 おめでとう！鳥栖工業高校駅伝部！

全国高校駅伝大会で、実に 34 年ぶりに入賞（7 位）を果たした鳥栖工業高校駅伝部。その駅伝部が新鳥栖駅に凱旋し、急遽そこで簡単なセレモニーが行われることになったとのこと。家から車で 10 分、まだ間に合うと私も新鳥栖駅へ。凱旋報告をする選手たちの誇らしげな、それでいて次を見据えているようなキリっとした顔を見て、強さの秘密を見た気が。選手の皆さんおめでとう！そしてもっと上を目指して頑張ってください。



一般質問 抜粋（要約）

1 旧姓使用の拡大について



中村：アンケート結果（右図）が示すとおり、国民の多くが「旧姓の通称使用の法制化」、つまりは夫婦別姓制度を維持したままでの旧姓使用の更なる周知や拡大を望んでおられる。・・・・高市早苗元総務大臣は、大臣在職中に総務省に関わる法令を全部チェックして、あらゆる届け出、資格、制度について「旧姓の併記でOK」になるよう、実に1,142もの手続きを変えられた。同じように、県民が県に対して申請や届け出等をされる際に、旧姓でも手続きができるように、行政手続のあり方の徹底的な見直しを、佐賀県でも行っていただきたいと思うが？

部長：行政手続きには法令で定められているものが多くあるという側面はあるが、県においても近年、運転免許証、パスポート、教員免許状等の手続において旧姓の併記を可能とした。今後も社会の動向などをよく見据えながら、情勢に応じた対応を検討していく。

2 水素社会の推進について

部門ごとのCO2排出割合（R3年度）

	佐賀県	全国	差
産業部門	33%	38%	−5
運輸部門	33%	19%	+14
業務その他部門	16%	19%	−3
家庭部門	18%	16%	+2
エネルギー転換部門	—	8%	—

中村：エネルギー消費に伴う二酸化炭素の排出量を全国と比較すると（左図）、県内では、運輸部門の排出割合が14ポイントも多く、また、産業部門と並んで最も多い割合を占めている。その佐賀県でカーボンニュートラル（※）を実現していくには、運輸部門において排出されている二酸化炭素の削減、具体的には大型トラックなどの輸送車両が使用する燃料の脱炭素化について、優先度を高めて取り組む必要があると考える。大型トラックなどの脱炭素化を進めるためには、燃料として水素を利用することが有望視されており、国においては、今年5月に、いわゆる水素社会推進法が公布されている。こうした点を踏まえ、輸送部門の二酸化炭素排出量が多い佐賀県だからこそ、他県に先駆け、水素社会の推進に取り組むべきだと思うが？

部長：本県では、平成27年度に乗用車の水素ステーションを佐賀市内に誘致し、公用車として燃料電池自動車を率先して導入するなど、自動車が排出する温室効果ガスの削減に向けて積極的に取り組んできた。今後は、水素社会推進法に基づく国の施策の動向に留意しつつ、県内の輸送用車両の運行状況の分析などを実施する。運輸部門の脱炭素化に向けて、必要な時期に必要な取り組みを実施できるよう検討を進めていく。



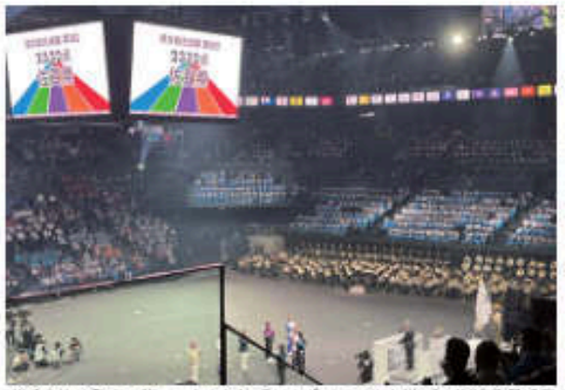
（※）カーボンニュートラルとは：
温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡にさせて実質的な排出量をゼロにすること。

佐賀県議会議員

中村圭一 活動報告

令和6年度9月定例会 vol.20

SAGA2024が成功裏に閉幕！

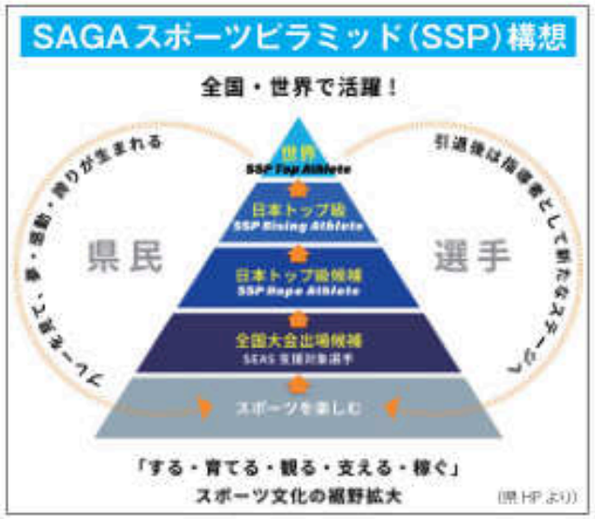

総合2位の発表の際に、大きな拍手とスポットライトを浴びる佐賀県選手団

10月下旬に行われた衆議院議員選挙の影響で、いつもより一か月遅れての発行となりました。その選挙での自民党への厳しい審判を党の一員として重く受け止め、県政発展のために、与えて頂いている職責を真摯に全うしていく決意を新たにしています。

さて、準備に準備を重ねてきたSAGA2024国民スポーツ大会（10/5～15）と全国障害者スポーツ大会（10/26～28）が成功裏に閉幕しました。地元の熱い声援を背に大活躍した佐賀県選手団は、近年1位に君臨し続ける東京都には惜しくも及ばなかったものの、堂々の総合2位という成績でした。選手、サガンティア（ボランティア）、そして県の担当部署をはじめとしたすべての関係者の皆様、本当にお疲れ様でした！

しかし、これで終わりではありません。むしろこれからが本番。国スポ・全障スポを契機に、競技力が佐賀に根付くよう、また障害者スポーツの裾野が広がるよう、今後更にSSP構想（左図）の推進に取り組んでいくことが重要です。その推進状況を注視しながら、私も少しでもお役に立てるような働きをして参りたいと思っています。

さすがに寒い日が多くなってきました。お風邪など召されぬようお気をつけください。また今年はこれが最後の活動報告となります。気が早いですが、皆様にとって良い年末年始となりますことを心よりお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



9月定例会で可決された補正予算の主要事項一覧⇒

ご意見ご要望は
携帯 090-2522-3944
E-mail ddonenak@kumin.ne.jp
ホームページアドレス
https://www.nakamurakeiichi.com/

Photo Gallery

8/11 頑張れサガン鳥栖！



サガン鳥栖対浦和レッズの試合を観戦。この日は鳥栖市市政施行 70 周年記念鳥栖市民 DAY で、来場者は約 15,000 人。結果は惜しくも引き分け。そして11月下旬の今、残念ながら J2 への降格が確定。ホームタウンが J リーグで最も小さなサガン鳥栖。逆によく連続して13 年間も厳しい J1で戦ってくれたとも思う。また J1 目指して頑張って。これからも応援しています!!

9/7 基里地区で県政報告会



休日の夕刻、多くの皆様にお集まりいただき県政報告会を開催。基里地区では、6 月に開通した小郡鳥栖南スマート IC の周辺 34 ヘクタールの開発が進行中。それによるメリットを最大限に、(無くはない) デメリットを最小限にしていくことが政治の役目だと申し上げ、ご要望やご心配を拝聴。また、西九州新幹線や県立大学などについても議論の状況をご報告。最後にはアンケート調査もご協力いただき、心からの感謝。

10/1 新幹線特委で質問



国交省鉄道局の足立審議官を参考人として招致して開かれた新幹線問題対策等特別委員会で、自民党会派を代表して質問。長崎県側の費用負担のあり方、新幹線の江北駅設置の（物理的な）可能性、幅広いルート帯での環境アセスの実施などについて質問。西九州新幹線の全線フル規格化に向けた、佐賀県との今後の議論のベースになるやり取りができたのではないかと思う。

10/5 SAGA2024 の開会式



天皇皇后両陛下にご臨席賜り、SAGA2024 が開会。天候不順によりブルーインパルスの飛行は中止になったものの、国体から国スポに名称変更後の最初の大会にふさわしい開会式だったと評価いただけたよう。佐賀県の大選手団がお揃いの水色のユニフォーム姿で入場した際(写真)には、会場には割れんばかりの大歓声が。その夜の奉迎提灯行列には約3,500人が参加。我々に合わせるように、ホテルの窓越しに提灯を振ってくださった両陛下に感激。下写真は、衆議院議員の岩田さんを先頭に佐賀西高校のグラウンドに向かう提灯行列。

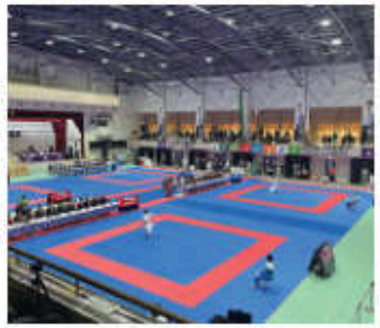


10/12 SAGA2024 は鳥栖でも！



鳥栖市では、少年男子のサッカー、少年女子のバレーボール、そして空手道の競技を開催。我が家からもサガンティア(※)として参加したその空手道(写真) では、佐賀県が天皇杯(男女総合優勝)と皇后杯(女子総合優勝) を見事に獲得！

(※) サガンティアの募集ポスター (県 HP より)



10/22 全羅南道(韓国)との議員交流



韓国の全羅南道から来訪された 8 名の議員さんたちを、超党派の 9 名の県議でお迎えし意見交換。私からは、国際交流はボトムアップが大事だと思っている旨、一言ごあいさつ。全羅南道の合計特殊出生率は 0.97 人 (佐賀県は 1.46 人) だとのこと。それでも国内で 1 位 (韓国平均 0.72 人) だそうで、お隣韓国の少子化は日本よりも深刻なのだと理解。日本もそうなる前に本当になんとかしなければ。。。

10/24 三浦先生の叙勲のお祝い



東京で秘書を務めていた元参議院議員の三浦一水先生の叙勲の祝賀会。大恩ある先生のお祝いの会で、光栄にも乾杯の音頭を。懐かしい面々(仲間たち)も含め、熊本県の政財界のみなさんと大いに懇談。架け橋には程遠くとも、佐賀と熊本をつなぐ一本のロープにはなりたい。

佐賀県議会議員

中村圭一 活動報告

令和６年度８月定例会

vol.19

5/18 ふるさと麓地区で県政報告会を開催!!



２月に改修竣工したまちづくり推進センターをお借りして、生まれ育った麓地区での県政報告会を開催。休日の夕刻、またサガン鳥栖の試合前の時間帯にも関わらず、約６０名の地域の皆様にお集まいただき、心から感謝申し上げます！その場でいただいたご意見・ご要望、そしてお答えいただいたアンケート結果（下表）を、今後の活動の原動力にさせていただきます。

※次回の県政報告会は、９月７日（土）18時から、基里まちづくり推進センターで開催予定。お近くの皆様、ぜひご参加ください！

アンケート結果

①西九州新幹線の未整備区間（新鳥栖～武雄温泉）について

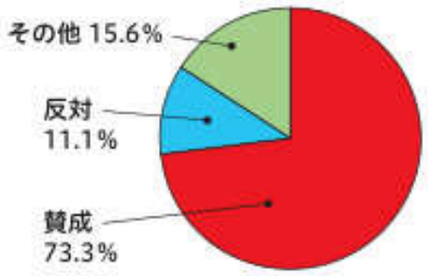


②県立大学の設置について



※アンケート実施後の７月下旬、設置場所が佐賀市内に決定。「鳥栖市じゃなくても賛成」という人がどれくらいなのか？。

③県内就職すれば返済免除の奨学金制度について



※大学（県内・県外）に進学する佐賀県の若者向けの奨学金。
※大学卒業後に県内企業に就職すれば、奨学金の返済は免除。中長期的には免除額以上のメリットが佐賀県に。
※県外に就職の場合は普通に返済。「学びたい若者の支援」という奨学金制度本来の目的は達成。
※若者の県内定着（産業界の人材確保）を目的とするなら、県立大学設置よりもこちらの奨学金制度の方が、対象の人数は10倍以上、（個人的試算では）費用対効果も約５倍。

総務常任委員長として



総務常任委員長として初めて迎えた６月定例会。令和８年度に開校予定の武雄アジア大学（仮称）を支援する補助金（約6.5億円）などの付託議案を採決し、委員長としての役目を無事に果たすことができました。

そしてこの梅雨、大きな豪雨災害がなかったことに胸を撫でおろし、鳥栖山笠やまつり鳥栖で真っ黒に日焼けした肌の色が戻るのを待っていると、今度はもう９月定例会です。

その９月定例会では、県立大学の建設予定地が決定した（下図参照）ことに伴う予算案の、議会への上程が見込まれています。そうなれば、所管である総務常任委員会で審査することになります。そしてその予算案の可否が、即ち県立大学設置に対する「議会の意思」となります。

議案が付託される総務常任委員会の委員長としての重責に、今から身の引き締まる思いです。と同時に、ひとりの議員として、今を生きる県民の皆様の思いをしっかりと受け止めつつも、５０年後の佐賀県の姿も予想しながら議論を尽くし、最終的な是非の判断をしたいと思っています。

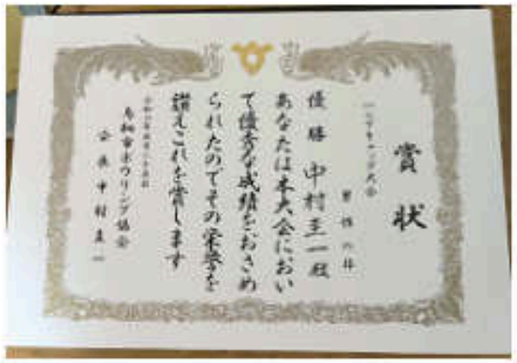
お盆を過ぎてもまだまだ暑い日が続きます。くれぐれもご自愛くださいますようをお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



６月定例会で可決された補正予算の主要事項一覧⇒

ご意見 ご要望は
携帯 090-2522-3944
E-mail ddonenak@kumin.ne.jp
ホームページアドレス
https://www.nakamurakeiichi.com/

Photo Gallery


賞状

優勝 中村三一様
あなたは本大会において優秀な成績をおさめられたのでその栄誉を讃えこれを賞します

5/25 ボウリング大会で優勝！

烏栖市ボウリング協会主催のハンディキャップ大会。過去の成績から、59 ものハンデをもらった上に、数年に一度の 200 越えが一日で 2 回も出て、なんと自分から自分への賞状を頂くことに! いい思い出になりました (^^)
SAGA2024（国スポ）のボウリング競技は 10/7 ～ 11 に佐賀市内のボウルアーガスで。選手の皆さん、頑張ってください！



6/30 笑顔はじける「どろんこ大会」

高田町、安楽寺町などの共催による「どろんこ大会」にお招きいただいた。恐る恐る田んぼに入る子どもたちも、一度入ってしまえば大はしゃぎ。どろ綱引きやウナギのつかみ取りなど、大人になっても懐かしく思い出すような貴重な体験になったのでは。運営の皆様に心からの敬意。





7/10～12 総務常任委員会で四国へ

総務常任委員会で 2 泊 3 日の県外視察。新幹線を岡山で降り、四国をバスで移動しながら、計 5 か所を視察。高知工科大学（県立）では、佐賀県立大学設置の是非の判断を控えた委員の皆さんから、大学設置の経緯、現在の運営状況、卒業生の県内就職率などなど、予定時間を大幅に超過して多くの質問が。

岡山市の㈱白獅子では、VR※コンテンツを使った防災減災の取り組みを体験。初めての VR、しかも災害の体験に、思わず声を上げたり、のけ反ったり。これは是非佐賀でも。

※VR（バーチャル・リアリティ）とは：コンピューターによって創り出された仮想空間を現実であるかのように疑似体験



7/20 戦没者追悼式で式辞

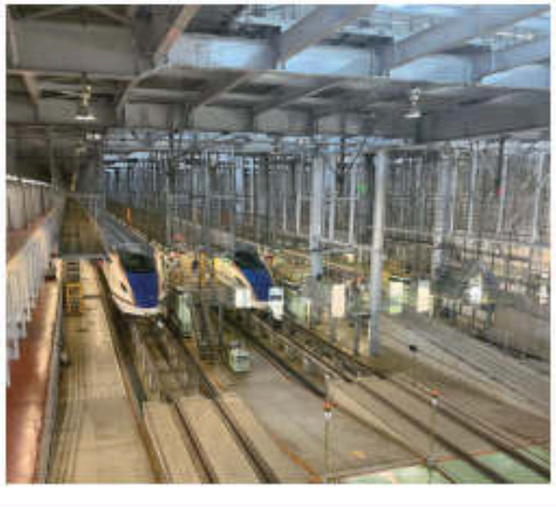


去年から始めた烏栖市と遺族会の共催による追悼式。遺族会会員とその家族だけでなく、多くのご来賓の皆様にもご参列いただいた。遺族会会長として心からの感謝。「戦争を知らない世代が、また戦争を始める」という言葉。それが史実なのであれば、戦争の悲惨さやご英霊への感謝の思いを次代に語り継いでいく、という我々遺族会の使命は重い。「平和の語り部」を育成するという今年から始めた遺族会の事業を成し遂げていかなければ。

7/20～21 烏栖山笠で締め込みデビュー

YouTube の動画を何度も観て、悪戦苦闘しながら初めて巻いたさらしと締め込み。その姿で今年も秋葉町の山車の上に。太っている方が様になるのだそうで、多くの人に「似合ってるよ」と言っていただいた (^-^;
２日間とも好天に恵まれ、顔もお尻も見事に真っ赤っ赤。
写真はタイムを競う祇園旗廻り。





7/24～26 新幹線特別委員会で北陸へ

北陸も猛暑。３月中旬に金沢～敦賀間が開業した北陸新幹線などを視察。㈱ハピラインふくい（並行在来線の運営会社）では、特急がなくなって空いたダイヤを活かし、一日９本運行している快速列車が大好評だとのこと。これまでは特急か普通の二択。それが今は新幹線、快速、普通の三択に。新幹線が通れば在来線が不便になる？そうとは限らない実例。
写真は白山総合車両所で整備中の新幹線。

一般質問 抜粋（要約）



1 西九州新幹線の分岐駅について

中村：知事は、「南回りルートであれば協議する価値はあると思うし、我々はその舞台に既に立って協議する準備を整えている」とまで発言されている。知事の思われている南回りルートの分岐駅はどこなのか？端的に、新鳥栖駅なのか、そうでないのか？

知事：分岐駅の議論にまで至っていない。

中村：南回りルートの分岐駅が新鳥栖駅ではないことは誰もが分かっている。あえて知事にお尋ねしたのは、知事が南回りルートに前向きな発言をされるたびに鳥栖市民を傷つけていていること、そのことを知事には自覚してほしかったから。

2 県立大学について

中村：県立大学設置の一番の目的が、人口流出対策と産業界の人材確保だというのであれば、その効果を数字で示して、それを分かりやすいみんなの旗印にすべきだ。その思いから費用対効果の数字を算出すべきだと申し上げてきた。・・・・そして今回、ようやく「県立大学の開学による消費・生活活動の誘発効果」という試算が出された。そこで確認だが、何度も「三重県のように・・・・」と言及してきた三重県では、外部の専門家に約一千万円で依頼し、そこが約半年かけて費用対効果の報告書をまとめられている。一方、佐賀県ではどのようにされたのか？誰が、どれくらいの予算と時間をかけて試算をされたのか？

部長：職員が一か月半程度の時間をかけて試算をした。予算はかけていない。

中村：設置場所が違えば、当然結果としてでてくる数字も違ってくる。だから三重県ではいくつかのエリアごとに費用対効果を試算されている。佐賀県の今回の試算は設置場所をどこだと仮定して算出されたのか？

部長：特定の地域を想定した審査はしていない。

中村：要はまともな調査もしていない。設置場所も設定していない。県立大学設置ありきのスタッフが、自分たちが選んできた計算式に、自分たちが選んだ数字を当て込み、出てきた数字を公表した。残念ながら、それではみんなの旗印にはなり得ない。中立とは言わないが、冷静な第三者である専門家に依頼し、再度費用対効果を出し直すべき。

3 交通事故対策について



中村：（パネルを示しながら・・・・）警察庁の交通事故統計情報のオープンデータを航空地図に落とし込んだものがある。全国すべての地域を確認することが可能で、今回は県都佐賀市の地図を用意した。・・・・こういうデジタルマップを作って、それを広く県民の皆様に見ていただく。そうすれば、ご自分の住まわれている地域のマップを見ながら、「やっぱりここで事故が多いのか！もっと気を付けよう。」とか、「えっ、こんなところで事故が多発しているのか！知らなかった！今後気を付けよう。」などと思っていただけるはず。今後の交通事故を防いでいく上でとても有効であると思うが、いかがか？

警察本部長：議員から提案のあった交通事故発生マップは、県民の交通安全意識の向上を図る上で有効であるため、既存の地図アプリを活用し、すべての人身事故を網羅した佐賀県版マップの作成を、まさに現在前向きに検討しているところ。

中村：交通事故デジタルマップを活用することで、・・・・交通事故の防止につなげていっていただきたい。

佐賀県議会議員

中村圭一 活動報告

令和５年度２月定例会 vol.18

出水期※を控えてのお願い

※出水期：梅雨などの集中豪雨、台風が起きやすい時期（6月～10月）



昨年４月の改選から早１年。残り３年、初心を忘れず、信念を曲げず、県政の課題に真摯に取り組んで参ります。

さて、遅咲きの桜もあっという間に散り、ゴールデンウィークを過ぎれば、いよいよ今年も出水期に突入します。

去年７月の豪雨では、筑後川本川の水位が高くなり、本川を守るための支川の排水ポンプ停止（運転調整）まで、あと23cmのところまで増水しました。仮に運転調整になっていたら、内水氾濫により周辺一帯は見る見るうちに浸水したでしょう。まさに危機一髪でした。

災害時に人命を守るためには、国・県・市によるハード整備はもちろんですが、住民の皆さんに、災害を「自分ごと」として考え、いち早く主体的に安全な避難行動をとっていただくことが重要です。

県の災害時の情報伝達ツールに、「防災ネットあんあん」というスマートフォンアプリがあります。このアプリでは、市が出す避難情報、県内各地の浸水情報、内水監視カメラの画像、道路の通行止め箇所の情報などをリアルタイムで確認することができます。

もちろん、このアプリ以外にも、様々な形で情報の伝達は行いますし、逃げ遅れが発生した場合に対応するため、県と市町、そして実動機関とが連携・協力しながら訓練を重ねてもいます。しかし、ぜひ皆様には、「防災ネットあんあん」を活用することで、自らの命を守る「自助」を心がけていただくよう、出水期を前に心からお願いし、ご挨拶と致します。

スマートフォンアプリ「防災ネットあんあん」

iPhoneをご利用の方　Androidをご利用の方

２月定例会で可決された令和６年度当初予算の主要事項⇒

ご意見ご要望は
携帯 090-2522-3944
Email ddonenak@kumin.ne.jp
ホームページアドレス
https://www.nakamurakeiichi.com/

Photo Gallery

1/15~18 議員連盟での台湾視察



佐賀県議会日台友好促進議員連盟（計21名）で台湾へ。北（台北市）から南（高尾市）まで南下しながら計11か所を訪問。最初に訪問したタイガーエア台湾には、佐賀便の増便を要望。台南市では、八田與市記氏が建設を監督した烏山頭ダムへ。



今でも台湾の人々の尊敬を集める八田氏。氏の功績を称えて建てられた銅像の前で記念撮影（左写真）。大歓迎を受けた台南市議会の議員さんたちとは、同じ「みかん」の産地としての交流や、若者や女性の政治参画など、忌憚のない意見交換も（上写真）。

【募金活動などへのご協力のお願い】

4月3日に台湾の東部沖で発生した地震によって犠牲になられた方々へのお悔やみと、被害に遭われた方々へのお見舞いを衷心より申し上げます。日本で災害が起こった際に、真っ先に支援してくださるのが台湾の皆様です。募金活動などへのご理解とご協力、よろしくお願い申し上げます。 **日本赤十字社「2024年台湾東部沖地震救援金」のサイト→**

2/2 好生館との意見交換会



佐賀県医療センター好生館と県議会との年に一度の意見交換会。令和4年度の好生館の決算と運営状況についてご説明を受けた後に質疑応答と館内視察。私からは、AIやロボットの導入状況についてお尋ね。写真は、能登地方の応援から帰ってきたばかりの、救急医を乗せて救急現場に向かうことができるドクターカー。



2/4 下野排水機場の視察

令和3年夏の豪雨によって浸水し停止してしまった排水ポンプ。その修理と建物の浸水防止工事が完了した下野排水機場を、旭地区まちづくり推進協議会の皆さんと一緒に視察。今年もいよいよ出水期を迎える。今年は大きな被害が出ませんように。

2/24 麓まちづくり推進センターが改修竣工



改修竣工記念式典と、その直後から行われた麓地区の文化祭へ。式典の最後には餅まきも！

リニューアルされたセンターが、地域のみなさんによる「自発の地域づくり」の拠点として大いに活用されること、そしてその結果としてみなさんの絆が益々深まることを心から祈念。

3/12 介護用機械を体験



文教厚生常任委員会の現地視察で、鹿島市にある「ゆうあいビレッジ」（介護老人保健施設やグループホームなど）を訪問。

職員が安心して安全に働け、利用者も安全で安心にケアを受けられるけられるためのノーリフトケア（抱え上げない介護）。

私の体重でも全く平気、安心安全でした(^^)



3/17 県道烏栖朝倉線の開通式

止みそうで止まない雨の中行われた、小郡烏栖南スマートICへのアクセス道路の開通式。7月には供用開始されるスマートICの周辺34haの開発も計画されている。この地域の活力を新たなスマートICを通して九州全体へと波及させていきたい。

くす玉の紐を引くのは人生初（写真）。

3/21 委員長の代理を務めた特別委員会

副委員長を務める新幹線問題対策等特別委員会では、新鳥栖～武雄温泉間の整備のあり方、県の取り組む姿勢などについて質疑が。県は長崎県、JR九州との協議の場を設けるとのこと。「やっとか」というのが率直な感想だが、そこでの協議の進展に期待。

午後には委員長の代理として委員長席にも。



文教厚生常任委員会での質問 抜粋（要約）

1 こども誰でも通園制度について



中村：全ての子育て家庭を対象とした新たな制度として、こども誰でも通園制度の創設が掲げられている。…実施にあたって保育現場にどのような影響が生じるのか、県の認識等について伺う。

答弁：県内の多くの園で人材が不足する中で、…現場の負担が増えることが想定される。また、地域によっては、就学前児童数の動向や保育ニーズなど状況が異なることから、制度の本格導入にあたっては地域の実情に応じて柔軟に取り組んでいただけるような制度設計が必要と考えている。

2 保育士の人材確保について

中村：保育の現場は絶対的に人員が不足している。しかし（こども誰でも通園制度など）保育士の責任はますます重くなる。このままではパンクしてしまう。県として何ができるのか、何をしていただけるのか、答弁を求める。

答弁：県としては、人材確保には処遇改善が最も重要と考えている。保育士の給与は他の産業と比較して低い水準であり、抜本的な改善をする必要がある。このため、県では今後も引き続き国に対して政策提案を行い、更なる処遇改善を働きかけて参りたい。

中村：保育に関しては、県としてできることは限られているかもしれない。しかし、国と市町の間にいるからこそできること、やるべきことがあると思う。今後もできる限りの役割を果たしていただきたい。

3 放課後児童クラブにおける防災対策について

中村：放課後児童クラブは学校よりも長い時間を過ごす子どもにとって大切な場所。…近年、県内でも自然災害が多発、激甚化しており、放課後児童クラブの運営中に避難場所への避難や、クラブでの待機、保護者への安全な引き渡しなどの対応が必要になることも想定される。各市町での防災マニュアルの整備や避難訓練の実施状況、非常時の備蓄状況などを把握されているか？

答弁：防災マニュアルの整備率は 94.1%、避難訓練の実施率は 95.5%。非常所の備蓄についても、義務はないが、事前の備えとして望ましいものに非常時の持ち出し袋が挙げられており、CSOの支援により、県内でも一部の市町に導入されている。

中村：マニュアルはあっても、災害時に（マニュアルに沿って）実際に行動することが大事。そこのところまでのフォローをぜひお願いしたい。

4 放課後児童クラブの人材確保について

中村：放課後児童クラブを利用する子どもは増加を続けており、市町によっては待機児童も発生している。…放課後児童支援員等の人材確保が必要だが、賃金が見合わず、担い手の確保が困難な状況となっている。先ほどの保育士同様、指導員の処遇改善が強く求められているところだが、県として何ができるのか、何をしていただけるのか？

答弁：放課後児童支援員等の処遇を改善し、必要な人材を確保することは、保護者の就労を支え、子どもたちの健全な育成のためも重要だと認識している。…市町に国庫補助を活用いただけるよう、制度の周知や財政支援を行っている。…放課後児童クラブで働く魅力や仕事の内容について幅広く県民に周知するために、ハンドブックの作成や就労説明会の開催など、県としても放課後児童クラブの支援員の確保や定着に向けた取り組みを行っている。今後も引き続き、市町や関係団体と連携しながら、子どもたちが安心して放課後を過ごすことができるようしっかりと取り組んで参りたい。



中村：今後もではなく、これまで以上に、ぜひよろしくお願いしたい。

佐賀県議会議員

中村圭一 活動報告

令和５年度 11 月定例会 vol.17

県政史上初の「再議」



新年あけましておめでとうございます。
本年もよろしくお願い申し上げます。

令和６年は、元日の能登半島地震からはじまり、羽田の航空機事故、小倉北区の火災など、痛ましいニュースが続きました。お亡くなりになられた方々へのお悔やみ、そして被害に遭われた多くの皆様へのお見舞いを心より申し上げます。

予定を一日延長して 12 月 21 日に閉会した昨年の定例会では、予想どおり県立大学設置にかかる 800 万円の予算が争点となりました。この 800 万円は県立大学設置の是非を諮る予算案だと思っている旨の知事発言により、「今議会で決めないといけないのか！」と議会の緊張感は一気に高まりました。

その後、繰り返された長時間に及ぶ公式・非公式な議論の結果、県立大学の設置を判断するための材料がまだ足りていないという理由で、議会としてこの800万円の予算を否決しました。

しかし、それに納得がいかない知事により、県政史上初となる「再議」が求められました。再議になると、通常の過半数（1/2）ではなく、議会側にとってよりハードルの高い 2/3 以上の数が必要になります。結果、その高いハードルを越えることはできず、知事の思惑どおり、一転して 800 万円の予算案は認められることになりました。

歴代の知事が一度も抜くことのなかった「再議」という刀を抜いてまで通す議案だったのか？議員の誰も県立大学の設置に頭から反対している訳ではなく、ただ総額 200 億円もの費用をかけてつくる大学を認めるには、まだ判断材料（費用対効果など）が足らず、それらを出すために必要な予算を含めて、次の議会（2 月）に再度提案すべきだと言っているだけなにのも関わらず。

しかし結果は結果。それを受け止め、一般質問など議員に与えられた機会を通して、更に議論を深めていきたいと思っています。

最後に、本年が皆様にとって幸多い一年となりますよう心から祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

ご意見 ご要望は
携帯 090-2522-3944
Email ddonenak@kumin.ne.jp
ホームページアドレス
https://www.nakamurakeiichi.com/

Photo Gallery

11/26 県政報告会



烏栖地区・烏栖北地区の皆様を対象に県政報告会を開催。貴重なお休みの日にも関わらずご参加いただいた皆様に心からの感謝。前回（旭地区）に続いて今回もたくさんのご意見を拝聴。アンケート用紙にご記入くださったものを含め、しっかりと整理し、今後の活動のベースに。

11/27 東京出張



午前中に銀杏並木を通り靖国神社に参拝。午後は西九州新幹線の未整備区間（新鳥栖～武雄温泉）に関する佐賀県と国交省の協議の進展のため、与党PTの国会議員、国交省の担当局を訪問。ピクリとも動いていない現状を打開し、スケジュール感を持って協議を進めるよう努めていただけることを確認。成果のある出張だった。

12/3 駐屯地創立記念行事



目達原駐屯地創立６９周年の記念行事に参加。日本を取り巻く安全保障環境は厳しさを増し、自然災害も年々頻発化、激甚化している。そのような中、厳しい訓練を積みながら日々活動いただいている自衛隊隊員の皆様に心からの感謝。自分も防衛協会の一員として、県民の自衛隊に対する理解促進、防衛意識の高揚などに務めていきたい。

12/10 まち協の餅つき



基里地区まち協主催の餅つきにお呼ばれ。区長会は地元産のもち米を蒸す係。餅つきの補助は消防団。つき上がったお餅を丸めるのは（たぶん）食改さんたち。それぞれの持ち場でみんなが活躍。参加した子どもたちは大喜び。国際色も豊か。ずっと続いてほしい素晴らしい取り組みだと思う。

12/11 いのちのセミナー



佐賀市内で行われた「いのちのセミナー」に参加。産むことを決断されると、不思議と環境が整っていくというご講話。決して十分ではないかもしれないが、行政やボランティア団体などには、子どもを産み育てていく上での様々な支援がある。子どもを産むという決断をされた時、今まで見えなかったものが見えるようになり、聞こえなかった声が聞こえるようになる。そういうことなのかなと思った時に、政治の果たすべき役割も見えたような気が。

12/18 特別委員会の視察



副委員長を務める新幹線問題対策等特別委員会で、官民一体となって開発が進む長崎駅周辺を視察。オープンを間近に控えたマリオットホテルでは、一泊30万円のスイートルームの中も見学。人口減少が止まらない佐賀県、そして県都佐賀市。県、市、そしてＪＲをはじめとした民間企業が一体となって取り組めば、この長崎駅周辺のように、佐賀県全体にも効果が波及するような事業ができるはず。なぜマイナス面ばかりを見るのだろう。

12/30 正月飾り



秋葉町浮立会の皆さんと一緒に秋葉神社の正月飾り。前もって用意していた竹灯籠を並べ、しめ飾りを交換し、門松を設置。初詣に来られる地域の皆さんには、温かいおでんも振舞う予定とのこと。そして大晦日の夜から予報通りの雨。その中での参拝者のお迎えと振舞い、本当にお疲れ様でした。

1/7 消防出初式と二十歳の式典





旧市庁舎の解体工事が完了していない今年は、場所を市民体育館内に変更して行われた消防出初式。火災だけでなく、災害（特に水害）時の対応など、地域住民の安心安全の最前線で活動していただいている消防団の皆さんに心からの敬意と感謝。

午後は「二十歳の式典」に来賓出席。成人が18歳になってからは「成人式」ではなくこう呼ぶように。外国人留学生の「自由には責任が伴うことを自覚して行動する」「これからは自分が祖国の両親を支えていく」などの決意の挨拶に、会場からは大きな拍手が。

一般質問　抜粋（要約）

1 西九州新幹線の分岐駅は新鳥栖駅のはずだが？

中村：フル規格での整備を決断するという場面になった際には、フル規格化によって影響を受けることになる関係市町の事前の了承を得られるのか？

知事：これだったらという一定の案が導き出された場合においては、県議会や市町とも協議しながら進めていく。

中村：・・・・鳥栖市は新幹線の分岐駅は新鳥栖駅であるということを前提にまちづくりを行ってきたし、これからもそれに変わりはない。・・・・鳥栖市の意見も(事前に)よくよく聞いていただきたいと知事に要望しておく。


改選後初の一般質問

2 県立大学について（費用対効果）

中村：県立大学の設置については、最大 200 億円の建設費や運営にかかる恒常的な費用負担(約2億円/年）が見込まれている。県立大学設置に係る費用対効果、いわゆる B/C がどうなるのかが、県立大学設置の是非を議会が判断する際の大きな要素のひとつとなると考えるが？

部長：大学は人づくりの場。費用対効果についてはなじまないと考えている。

中村：ここに９月 16 日付の伊勢新聞のコピーがある。読み上げるが、「三重県は・・・・県立大学設置の新たな費用対効果を示した。・・・・費用対効果は従来の試算結果から悪化。委員からは新設に消極的な声が相次いだ。・・・・」このように、少なくとも三重県では費用対効果の数値が、大学設置の是非を判断する際の、ひとつの大きな材料となっているが？

知事：大学の費用対効果というのはまだピンときていない。・・・・ただ、そういったことに関しては、意識しながら仕事を進めさせていただきたい。

3 県立大学について（奨学金制度）

中村：県立大学設立の一番の目的である「人口減少問題への対応」をより効果的に行っていくためには、県立大学卒業後に県内企業に就職した場合に返済を減免する奨学金制度の創設が、大学設置とセットであるべきと考えるが？

部長：・・・・保護者負担のあり方、県内企業への就職支援のあり方と併せて、引き続き検討していく。

4 鳥栖地区の内水対策について

中村：近年の豪雨時はいつも、本年７月の九州北部豪雨においても、・・・・県道久留米基山筑紫野線が真っ先に冠水し、真木町交差点から赤井手交差点までの区間が通行止めになる。・・・・また、県道中原鳥栖線においても、JR の下を通る箇所が、豪雨のたびに冠水する。・・・・鳥栖市は、九州の陸上交通の要衝であり、市内の幹線道路の機能が、冠水によりマヒする事態は避けなければならない。そこで、鳥栖地区の内水対策について、これらの道路の冠水対策も含め、県はどのように取り組んでいかれるのか尋ねる。


航空地図を使って質問

答弁：久留米基山筑紫野線の冠水対策は、道路単独で考えるのではなく、・・・・地元鳥栖市を中心として地域全体の内水対策として検討する必要がある。県道中原鳥栖線の市道への迂回の問題については、・・・・道路利用者が安全に通行できるように、国、そして鳥栖市と連携して、迂回の案内を行う。

佐賀県議会議員

中村圭一 活動報告

令和５年度９月定例会　vol.16

県立大学が議論の中心に！

９月定例会では、直前に出された「県立大学構想（素案）」が議論の中心となりました。

佐賀県が設立を検討している県立大学とは・・・

背景・課題	佐賀県は４年制の大学が全国で最も少なく、８割以上が県外の大学へ
大学のイメージ	IT と経営がベースの理文融合型の４年制大学
設置場所	企業や研究機関などとの連携、通学の利便性などを考慮
学校の規模	入学定員 200 ～ 300 名（収容定員 1000 名程度）
建設費	150 ～ 200 億円（県が全額を負担）
運営費	約 16 億円 / 年（うち県の負担は約２億円 / 年）

私も一般質問の中で：

※議会が大学設立の是非を判断するために必要な費用対効果（B/C）の算出
※大学設置の候補地を項目ごとに点数で評価することによる透明性の確保
※卒業生が県内に就職すれば返済免除となる奨学金制度の導入
　などを強く訴えました。（裏面に質疑の抜粋）

県立大学については、11 月末から始まる定例会に予算を伴う議案が提出される予定ですので、いよいよその是非を議会として判断しなければなりません。西九州新幹線の未整備区間についても少し動きが出てきました。入札が不落となった市村記念体育館の改修工事の件もあります。重要案件山積です。もうすぐ始まる11月定例会では、皆様から頂く様々なご意見を踏まえながらしっかりと議論して参ります。

これからは、(さすがに）寒くなっていくと思います。風邪など召されないようご自愛をお申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



旭地区で開催した県政報告会

ご意見ご要望は
携帯 090-2522-3944
E-mail ddonenak@kumin.ne.jp
ホームページアドレス
https://www.nakamurakeiichi.com/

Photo Gallery

7/13 豪雨による被害




数日前の豪雨による被害の確認。破壊された河川の井堰と陥没してしまった県道。井堰がないと田植えしたばかりの水田に水が流れないし、陥没した県道の先には人が住まわれている。市、県、国が連携して一日も早い復旧を目指します。



7/15 尊敬するお二人

久しぶりの東京。安倍総理を偲んで黙祷を行った後、高市早苗大臣と櫻井よしこ先生のご講話を拝聴。今の日本で、政治家が、そしてその端くれである自分が何をなすべきなのか？体の芯が熱くなる会合だった。

8/26 議員野球大会



コロナ禍では中止が続いた九州各県議会議員親善野球大会。各県の輪番制で、宮崎県が主催の今年は、オリックス・バファローズのキャンプ地、宮崎市内の立派な野球場で。結果はともかく、無事に生きて(ケガなく)帰ることができました (^^)



9/2 県政報告会

地元の旭地区で県政報告会を開催。旭地区以外からも多くの皆様にお集まりいただき心からの感謝。豪雨対策、アサヒビールの工場、西九州新幹線、県立大学など、地元の課題、県政の課題などについてご報告。頂戴した貴重なご意見の数々をしっかりと受け止め、今後の活動に活かしていきます!

9/17 再開した敬老会

祖父母、そして父が生まれ育った村田町の敬老会。詐欺対策の講演会、居合道、ビンゴゲームなどなど、盛りだくさんの内容に、参加された皆さんも大満足だったのでは。よく存じ上げている数名の方から、「自分も敬老会に参加する歳になった」と照れながら話しかけられたのが印象的だった。あっという間に自分も…(^^;



10/9 日帰りの「かごしま国体」

スポーツの日。朝から日帰りで「かごしま国体」に出場している佐賀県選手団を応援。姶良市の警察学校ではライフル射撃。一度のミスも許されないという緊張感がガラス越しでもびんびんと伝わってきた。来年はいよいよ佐賀県開催。SAGA2024 に向け、会場の運営、ボランティアの体制、おもてなしのあり方なども勉強。有意義な日帰り強行軍だった。





10/28 戦没者追悼式

約100名の遺族と多くのご来賓の皆様のご参加のもと挙行された鳥栖市戦没者追悼式。心を込めて式辞を述べさせていただいた。事前の準備から当日の運営まで、素晴らしいチームワークをみせていただいた鳥栖市役所のみなさんには本当に感謝。戦争の悲惨さを語り継ぎ、ご英霊の顕彰と慰霊事業を継続していくために、来年はもっと多くの戦没者の“孫”に参加いただけるよう努力したい。

11/2 保育士の処遇改善



鳥栖市保育協会の皆さんと、鳥栖市長に対して保育士の処遇改善などを要望。人口の増加と税収UPが鳥栖市の発展ならば、鳥栖市に(移り)住む若い人たちが、安心して働きながら子どもを産み育てることができる環境が不可欠。そのためには保育園の受け入れ態勢、つまりは保育士の確保も不可欠。そのことを改めて強く認識。市長も「知恵を絞らなければ」と言われていた。大いに期待したい。



11/6 国道 34 のバイパス

東京で国道 34 号のバイパス整備の陳情。関係する市町の首長さん、議長さんたちと一緒に議員会館と国交省へ。今回の一番の収穫は、参加した首長さんたちの間で、バイパスをどこに通すかという線を、今後協議しながら引きましょう、となったこと。線を引いて、地元の理解もある程度得られた状態になれば、国交省も本気にならざるをえない。

11/9 花とみどりの祭り

第 3 回花とみどりの祭りの式典に参加し一言ごあいさつ。佐賀県は 2028 年の「全国都市緑化フェア」の開催を目指していて、昨年熊本県で開催された同フェアを、知事、県議団、そして緑化団体のみなさんも熱心に視察。鳥栖市としても、今回の祭りなどを通して緑化推進の機運を高めていただくようお願い申し上げた。



文教厚生常任委員会での質問 抜粋（要約）

1 特別支援教育（鳥栖特別支援学校）について

中村：令和５年度末で閉園となる九千部学園の跡地の活用について。閉園後は特別支援学校として新たに整備されると承知しているが、開校年度、名称、規模などは？

答弁：令和８年４月に開校する予定。名称は「佐賀県立鳥栖特別支援学校」と考えている。鳥栖市と基山町の知的障害のある児童生徒を対象とし、小学部、中学部、高等部を設置する予定。児童生徒数については、現時点で概ね120人程度と見込んでいる。

中村：佐賀県では教員不足の状態が続いている。教員の確保は大丈夫か？

答弁：開校時の状況を踏まえ、適切に配置を行っていきたい。

中村：「仏作って魂入れず」とならないよう、しっかりと教員を確保いただくようお願い申し上げておく。



今年度末で閉園となる九千部学園の卒園式

2 拉致問題と人権教育について

中村：拉致被害者の親の世代の家族が、拉致被害者ご本人と抱き合うことなしに、拉致問題の解決はない。その親の世代の家族の年齢が高齢化していることを考えれば、残された時間は極めて少なくなってきている。時間がない。このことに関する県の認識は？

答弁：…一刻も早く解決を図るべき問題であると認識している。

中村：学校現場で教えなければならない人権もいろいろあると思う。そして、それらの人権に重たい、軽い、の違いはない。しかし、今しかない、今でなくてもいい、その違いはあるのだと思う。拉致問題に関しては、一刻の猶予も許されない状況である。学校での人権教育の中でも、優先的に取り組んでもらいたいと切に願うが、教育長のご答弁を。

答弁：拉致問題は一刻も早い解決を目指さなければならない、我が国の重要課題である。県教委としても、国と連携して取り組みを進めていきたいと考えている。今後、佐賀県議会拉致議連で制作された啓発リーフレットなどの新たな教材を活用するなどして、児童生徒が拉致問題について学び、自分のこととして考えていけるよう、学校教育の充実を図り、拉致問題の理解促進にしっかりと取り組んでいく。


救う会佐賀の総会に参加

3 教育現場における生成AI（ChatGPT）の活用について

中村：生成AIを児童生徒が宿題に利用することについて、県教委の考えは？

答弁：課題に対して生成ＡＩの安易な使用につながらないよう、教師側の工夫は必要だと考えている。…夏季休業、夏休みが目前に迫っていることから、課題を出す際の工夫や児童生徒に注意喚起すべき例を含めて、教育活動における留意点を近日中に通知する予定。

中村：生成ＡＩがなかった時代には我々はもう戻れず、生成ＡＩを無視した生活はできない。それは学校生活も同じ。今後、生成ＡＩのプラス面、マイナス面をよく理解し、教師、生徒、ともに適切に活用していくことが求められると思うが？

答弁：まずは教職員が生成ＡＩの特性を理解し、教育現場での適切な活用を進めていくことが大切。そして、これからの時代を生き抜く子どもたちには、生成ＡＩを含めた新たなデジタル技術の特性を理解し、適切に活用していく情報の活用能力を身につける必要があると考えている。

中村：最後に教育長のご所見を？

答弁：生成ＡＩなどの新たな技術に対応して、その特性を分かった上で使いこなすという情報活用能力を身につけるとことは必須。と同時に、ＡＩには難しいといわれる、人ならではの創造性、クリエイティブなこと、他者との協働、複雑なコミュニケーション・・・など、そういった資質能力を身につけることはとても大事だと思っている。


久しぶりにノーマスクで質問

佐賀県議会議員

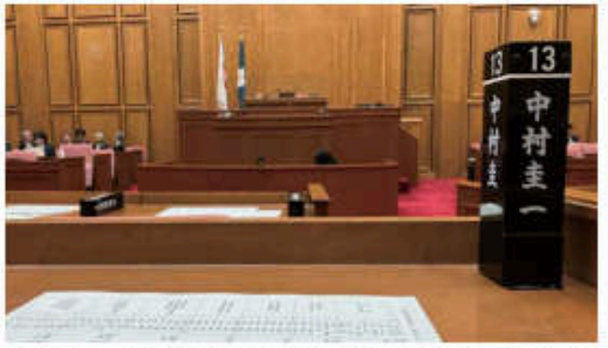
中村圭一

令和５年度６月定例会

vol.15

活動報告

「代議士」と「代弁者」



この４月の県議会議員選挙において、結果的には無投票という形になりましたが、２期目の当選をさせていただきました。これからの４年間、県政の場で働かせていただけることに感謝し、また４年後には２期８年間分の審判を、まとめて下されるのだということを肝に銘じ、誠心誠意活動してまいります。

私は、政治家の体の半分は、「代議士」（皆様の代わりに議論する人）でできていて、もう半分は、「代弁者」（皆様の声を政治に活かす人）でできていると思っています。

議員の一番の仕事は、おかしいと思った時に、はっきりと「No」と言うことです。２期目も、決してブレることなく、皆様の「代議士」としての役割を全うしていきます。

また、長かったコロナ禍。議員としての活動も大きく制限され、皆様とのコミュニケーションが思うように取れませんでした。１期目は途中で断念してしまった各地区での県政報告会を、今期は市内の全地区で開催したいと思っています。お住まいの地区で開催する際には、ぜひご参加いただき、「代弁者」としての私に、様々なご意見・ご要望をお聞かせください。

７月上旬の集中豪雨、皆様大丈夫でしたでしょうか？被害にあわれた皆様には、心からのお見舞いを申し上げます。梅雨も明け、これから夏本番です。熱中症などにくれぐれもご注意くださいますようお願い申し上げ、２期目の最初にお配りする活動報告でのご挨拶とさせていただきます。

６月定例会で可決した補正予算〈一部抜粋〉

※下記を含む６月補正予算の主要事項は→

事業名	概要	予算額（千円）
プロスポーツ等活用応援機運醸成事業費	注目度が高まっているプロスポーツチーム（サガン鳥栖、久光スプリングス、佐賀バルーナーズ）の応援機運を醸成することで、新しいスポーツシーンを創出。	141,376
物価高騰対応支援金事業費	食糧費や光熱費等の高騰の影響が長期化している福祉施設や保育所等に対して支援金を交付。	1,387,664
子育て支援CSO物価高騰対応支援金事業費	CSOが運営するこども宅食や子どもの居場所などの活動を支援することを通じて、物価高騰の影響を受けている低所得の子育て世帯を支援。	6,450

ご意見ご要望は
携帯 090-2522-3944
E-mail ddonenak@kumin.ne.jp
ホームページアドレス
https://www.nakamurakeiichi.com/

Photo Gallery

4/11



コロナ禍の影響で、県議としては初めて参加することができた烏栖西中学校の入学式。ＰＴＡ会長も務めた学校。当時を思い出しながら、懐かしく校歌を斉唱。新入生のみんなには、校長先生の式辞にあった「夢の根っこ」（なりたい自分）を、３年間かけて育ててほしい。



4/29

昭和の日に、これも４年ぶりに行われた宿の鉦浮立。一度止まってしまったものを、もう一度動かすには相当な力が必要。降り続ける雨をまったく気にすることなく鉦を打つ姿に、脈々と受け継がれてきた地域の伝統を守ろうとする気概を感じた、見事な浮立だった。

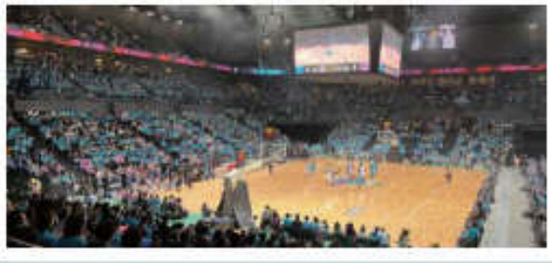
5/7

烏栖市の新庁舎落成式。職員として母が40年以上、自分も市議として10年弱お世話になった旧庁舎への名残は尽きないけれども、新しい庁舎には、烏栖市の発展と防災の拠点としての役割を存分に果たしていってほしい。傍聴席がぐっと近くなった新しい議場も見学。





5/7



完成したばかりのSAGAアリーナで、佐賀バルーナーズの試合を観戦。ピカピカのアリーナに集まった4500人以上の観客の声援を受けて、プレーオフ第２戦に勝利したバルーナーズ。この勢いのまま、Ｂ２リーグで見事に優勝！今季のＢ１での躍動を大いに期待。

5/11

改選後初の臨時県議会。正副議長をはじめとした議会内の人事のため。自分は文教厚生常任委員会と新幹線問題対策等特別委員会に所属することに。また、特別委員会では昨年度に引き続き副委員長を拝命。新幹線の未整備区間に関する議論の進展など、実りの多い委員会になるよう委員長を補佐していく所存。改選後の恒例、全議員での写真撮影も。



5/22

烏栖駅の東側、烏栖スタジアムの隣に、久光スプリングスのトレーニング拠点として建設されたサロンパスアリーナを見学。一般のスポーツやイベント等にも開放されていて、佐賀の地域スポーツ活動育成の拠点、子どもや女性がはばたくトレーニングアリーナ、にもなるとのこと。また、海外チームとの強化試合なども想定され、貴重な国際交流の拠点にも。市民・県民に愛されるアリーナになりますように。







5/27

烏栖西中学校の体育大会。自分が若かりし頃は、足の速い選抜選手で行うリレーしかなかったけれども、今はそれとは別に、学年の全生徒が、男女混合で行うリレーがあって、これが観ていてとっても楽しい。背の高い生徒、低い生徒、足の速い生徒、遅い生徒、男子と女子。みんなが混ぜ混ぜ。そしてみんながみんなを応援。生徒たちの真剣な顔、喜ぶ顔、悔しがる顔、ぜんぶが眩しかった！

6/4

烏栖市保育会の総会に参加。長かったコロナ禍においても、保護者が安心して働け、子どもたちがすくすくと成長できたのは、保育士のみなさんのお蔭様だと、感謝のご挨拶。保育士不足や待機児童の問題、保育現場でのICTの利活用推進などなど、保育を取り巻く環境改善のため、園、市、県、国を結ぶパイプ役として微力を尽くしていこうと決意。





6/29

文教厚生常任委員会の現地視察。唐津西高等学校、唐津特別支援学校などを訪問。唐津西高校はボランティア部が有名で、全校生徒の1/4近い約100名が在籍。唐津の特産品販売、馬渡島に自生するゲンコウの復活プロジェクト、虹の松原クリーン大作戦の運営スタッフなど、多岐にわたって活動されているとのこと。素晴らしい！

7/10

九州北部を襲った線状降水帯による豪雨。県道中原烏栖線も通行止め。２年前には浸水してしまった西田川の排水機場はフル稼働しているものの、本流である筑後川から排水調整の要請があれば、内水氾濫の恐れも。幸いにも今回はそうはならなかったものの、流域治水の重要性を改めて痛感。





総務常任委員会での質問 抜粋(要約)

① デジタル田園都市国家構想の推進について

中村：デジタル田園都市国家構想とは？

答弁：政府が掲げる新しい資本主義を実現する上で重要な柱のひとつで、地方からデジタルの実装を進め、全国に新たな変革の波を起こしていこうとするもの。

中村：佐賀県における現在の取り組みは？

答弁：先進技術の実証として、5G を利用した映像配信による新たなスポーツ観戦の実証、自動運転モビリティの導入に向けた実証など。デジタル技術の活用として、簡単なスポーツテストを受けることで、自分に適性のあるスポーツを AI が提供するシステムや、全国トップレベルの収量を誇るキュウリの熟練農家の匠の技をデジタル技術を活用して伝承するシステムの開発など。

中村：県民に一番近いところにあり、この構想の主役である市町との連携は？

答弁：県の職員と市町の職員、合わせて 21 名が集まり、デジタルを活用した社会課題解決を研究していく研究会「DX21」を開催している。今後も、様々な形で情報交換や連携に取り組み、デジタルの実装を県と市町が一緒になって取り組むことで社会課題を解決し、人に優しく人生を豊かにする社会（佐賀 Society5.0）を創っていきたい。

② 行政手続きの簡素化及びオンライン化について

中村：まずは自動車税減免申請手続きの簡素化について。申請者の負担軽減のため、昨年 11 月定例会の一般質問において、通院・通学などの証明書の添付を不要とすべきと求めていたが？

答弁：現行の要件である病院や学校などの証明書の添付を廃止し、誓約に変えるなどの申請手続きの簡素化の検討を行っている。

中村：行政手続きのオンライン化についてはどのような取り組みを？

答弁：業務担当者が手続きの申請フォームを作成するなど、オンライン手続きの環境を職員自ら作り上げることができる「ノーコードツール」（マウス操作感覚でアプリケーションが作成できるツール）を導入した。例えば、「アマビエ」システムとして報道で紹介されたが、コロナの陽性者が自らオンラインで登録、医療機関にはコロナ陽性者数をオンラインで報告してもらう仕組みもノーコードツールにより構築した。

中村：行政手続きは、オンライン化するだけでは、かえって職員の負担増になりかねない。オンライン化と併せて簡素化することが重要だ。そうすることで初めて職員が事務作業に忙殺されることが減り、県民サービスの向上に直結する仕事に、より注力できるようになる。オンライン化及び簡素化への更なる取り組みに期待している。

委員会で伊万里市にあるコミュニティセンター（手前）と保育園（奥）の複合施設を視察。
一緒に建てることで延床面積とコストの削減になるだけでなく、世代を越えた交流も生まれてくるという、まさに一石二鳥の施設。講堂は共有しているとのこと。





私の質問に限らず、過去のものも含め、一般質問・委員会質問の全てを右記から視聴いただけます。 佐賀県議会映像検索システム 検索

佐賀県議会議員

中村圭一

活動報告 vol.14

令和４年度９月定例会

西九州新幹線が開業！


有志議員によるボランティア活動

９月定例会では、早急な措置を要するコロナ禍の原油価格・物価高騰対策などの一般会計約 106 億円、特別会計約 32 億円の予算等を可決成立させました。

その定例会が閉会した翌日の９月 23 日に、西九州新幹線（武雄温泉～長崎間）が部分開業しました。

開業後６日間の乗車率は39%（平日平均は27%）だったそうで、JR 九州の社長は「順調な滑り出し」だと発言されています。一方で、開業から３日後、在来線の踏切で事故があり、新幹線と乗り継ぐための特急に遅れが生じ、新幹線の上下２本が運休、下り１本が 12 分遅れるという事態が発生しました。在来線の事故が新幹線に影響を与える。新鳥栖～武雄温泉間は在来線を利用しているので、当然といえば当然なのですが、開業直後に思い知らされることになりました。

新鳥栖～武雄温泉間は、フル規格で結ぶか、（遠い未来におけるフリーゲージトレインの開発に一縷の望みをかけつつ）このまま対面乗換でいくのか、現実的にはこの２つの考え方しかありません。片方の「対面乗換」は９月 23 日に既に手に入れましたので、後はもう片方の「フル規格」を受け入れるかどうかを判断することになります。

しかし、今「フル規格」を選択したとしても、それが実現するのは早くても 12 年後になると言われています。最終的に選ぶかどうかは別として、県には、スケジュール感をもって、「フル規格」で整備する際の様々な課題（条件）について、もっと積極的に国や与党との協議を行ってほしい、と強く求めています。

９月定例会で可決した原油価格・物価高騰対策〈一部抜粋〉

※下記を含む９月補正予算の主だった事業は→

事業名	予算額(千円)	概要
園芸生産燃料費支援事業費	18,000	国による補助事業の対象とならない園芸生産用燃料の購入費用に対する補助
肥料価格高騰対策事業費	153,400	肥料価格高騰を受け、堆肥を活用した施肥体系への転換を推進するための取り組みに対する支援など
漁業用燃油削減対策支援事業費	35,000	漁船の燃費向上につながるエンジンメンテナンス費用に対する補助

ご意見 ご要望は
携帯 090-2522-3944
E-mail ddonenak@kumin.ne.jp
ホームページアドレス
https://www.nakamurakeiichi.com/

Photo Gallery

7/12～7/13





オイスカ国際活動推進議員連盟のメンバーで宮城県名取市などを訪問。震災で失われてしまった名取市の海岸林を、公益財団法人オイスカを中心としたボランティアが10ヶ年計画で見事に再生。植栽面積は72ヘクタール、植栽本数は37万本という、とてつもない規模（右上写真）に圧倒されると同時に、これを成し遂げたボランティアの皆さんにただただ脱帽。その海岸林の黒松の成長を妨げているツルマメの除去作業を実際に体験。





また翌日には、津波の直撃をうけたものの一人の犠牲も出さなかった「震災遺構中浜小学校」に未だに生々しく残っている津波の大きな爪痕を見学。
巨大な津波から９０名の命を守り抜いた校舎と、そして先生方に心からの敬意。

7/24

今年は３年ぶりに鳥栖山笠が本格開催。山車の上に乗せていただき祇園旗廻りや総かぶりなどを体験。ズボンの後ろポケットに入れていて３年前は大丈夫だった携帯電話が、浴び続けた力水（左下写真）によって今年は見事に水没(^^;





9/17

開業を６日後に控えた西九州新幹線に試乗。博多から特急に乗り、武雄温泉で西九州新幹線に対面乗換して長崎へ。長崎駅舎を一歩出ると、そこは三ツ星ホテルなどのビルの建設ラッシュ。新幹線の開業効果を最大限に発現させるために、長崎県は官民が一体となって頑張っておられる。佐賀県も負けてはいられない。





9/23

西九州新幹線の開業日。早朝５時30分から行われた出発式に参加。発車を待つ新幹線「かもめ」の隣のホームに入ってきた在来線の行先が、この日からの駅名変更によって、見慣れた「肥前山口」から「江北」に。新幹線は光を発し、そのことで影も作ると言われる。新幹線による光を強く大きく、そして影を薄く小さくしていかなければとの思いを新たに。

10/1

久光製薬㈱と茶道裏千家淡交会佐賀支部の共催による秋の茶会に。これもコロナの影響で３年ぶり。
お茶を点てられる時の所作ひとつひとつの美しいこと。また茶器などの道具類も、心をこめて、今日この日、この人たちのために、と選んでいただいている。久光製薬㈱の社員さんたちの温かいおもてなしは、まさに茶道の精神に通じているのだと、ど素人ながらそう得心。



一般質問 抜粋(要約)

① 全国都市緑化フェアについて



中村：このフェアを佐賀県内で開催することが、県内で"緑"に関わっておられる皆様の悲願であると、県議にならせていただくずっと前からお聞きしていた。…昨年11月、知事より、全国都市緑化フェアを令和10年度に佐賀県で開催したい旨を国交省に申し入れたことの発表がなされた。「全国都市緑化くまもとフェア」などの先行開催地の視察も行われたとのこと。それら視察などを踏まえ、佐賀県開催に向けた知事の想いをお聞かせいただきたい。

知事：現在、佐賀県では様々なフィールドで素晴らしい資源を磨き上げる活動を通じて、みんなで自発の地域づくりを頑張っていこうという動きがある。…こうした様々な人の想いと、「さがデザイン」による磨き上げも行って、佐賀らしいフェアとして、県民の皆さんとともに来訪者に感動を与えるような準備をしていきたいと考えている。

② 九州新幹線西九州ルートについて



中村：知事は佐賀新聞に掲載されたインタビューの中で、「新幹線については、国は佐賀駅を通るフル規格からびくとも動かない。そうすると、我々とは相いれない。我々がのめるフル規格になれば別として、そうでなければ、乗ることはない。」と発言されている。県の財政負担の額がどこまで下がるのか、どんな地域振興策が提示されるのか、並行在来線の利便性はどこまで確保できるのかなど、まだ何も分からない今の状態で、逆になぜ佐賀駅を通るフル規格とは「相いれない」と言いきれるのか？ご答弁を。

知事：…私の言っている意味は、「幅広い協議」をしたいということで、どれかに決め打ちをするということではないことを申し上げている。
（⇒　そうであれば、佐賀駅を通るフル規格も排除せずに"幅広く"協議すべき。）

③ 出産を悩まれている方への支援について

中村：10年前は全国で3番目に高かった佐賀県の人口妊娠中絶実施率は、それ以降は年々減少しているものの、令和2年においても、まだ全国で10番目に高い状態にある。…私は、産みたいと思っておられる女性が、様々な理由によって産むことを諦めなければならない佐賀県ではなく、産みたいと思っておられる女性が、安心して産み、そして育てることができる佐賀県であるべきであり、そういう佐賀県にしていくことが、行政の、そして政治の責任であると思っている。知事のお考えは？

知事：私は常々、県民の皆さんが幸せであってほしい、幸せになってほしいと願っている。そして、人工妊娠中絶の問題は非常にデリケートで難しい問題だと考えている。出産も含めて、様々なライフステージにおける悩みの相談に対応ができるような体制がとれているかが、何よりも大切なことだと思っている。県民の皆様の様々な想いに寄り添って支える県でありたいと思う。今後ともそのための努力を続けていきたい。

私の質問に限らず、過去のものも含め、一般質問・委員会質問の全てを右記から視聴いただけます。 佐賀県議会映像検索システム 検索

佐賀県議会議員

中村圭一

令和４年度６月定例会

活動報告 vol.13

アサヒビールが鳥栖市に！



短い梅雨が明け、猛暑の中で行われた参議院議員選挙において、前号にインタビュー記事を掲載した福岡資麿さんが再選を果たされました。参議院の任期は、解散なしの６年間。しっかりと連携させていただきながら、山積する鳥栖市や佐賀県の課題の解決に取り組んで参ります。

さて、６月定例会では、ガソリンや重油などの燃料をはじめ、飼料・原材料などの価格高騰に対応するための補正予算（下表参照）などを可決成立させました。この価格高騰対応については、その状況を注視しながら、必要となれば躊躇なく追加補正措置を行うよう、県には強く求めているところです（県もそうする意向）。

定例会終盤の６月23日には、アサヒビールの博多工場の移転先に鳥栖市（新産業集積エリア）が選ばれたというニュースが飛び込んできました。この件に関する所見は中面に記載していますが、なにかと暗いニュースの多いコロナ禍の鳥栖市にとって、久しぶりの明るいニュースでした。

この暑い夏の期間、皆様方がご健康でお過ごしになられますことと、豪雨による災害が発生しないことを願い、ごあいさつと致します。

６月定例会で可決された主要事項（一部抜粋）

※下記を含む６月補正予算の主だった事業は→

事業名	予算額(千円)	概要
学校給食費等支援事業	164,552	給食等の材料費が高騰する中、保育施設や学校等に対し材料費を補助・負担
就労継続支援事業所緊急対策事業費	48,400	原油・原材料の高騰の影響を受けている就労支援事業所に対し、緊急措置として応援金を交付
子育て支援 CSO 活動費補助	11,500	県内の CSO が運営するこども宅食、子どもの居場所及びコミュニティフリッジの活動を支援
中小事業者原油・原材料高緊急対策事業費	1,786,450	原油・原材料の高騰により収益が悪化している中小事業者に対し、緊急措置として燃油購入量に対して補助

ご意見 ご要望は
携帯 090-2522-3944
E-mail ddonenak@kumin.ne.jp
ホームページアドレス
https://www.nakamurakeiichi.com/

Photo Gallery

5/12





令和10年度に「全国都市緑化フェア」の開催を計画している佐賀県。
熊本市内で開催されていた今年のフェアを、県の造園建設業協会のみなさんと一緒に視察。
ニコライ・バーグマン氏監修の見事な「大花壇」から視線を上げると、復興のシンボル、熊本城が目に入るようになっている。
緑や花が成長していくように、震災からの復興に向けて歩み続ける熊本を感じてほしい、という主催者の思いが…。

5/21

議長のお声かけで、県議と議会事務局の職員合わせて25名で、サガン鳥栖対川崎フロンターレの試合を観戦。
首位（当時）のチームと引き分けなら上出来だと、大いに盛り上がった試合後の反省会には、知事も飛び入り参加。
ありがたいことに、知事にはサガン鳥栖下部組織の練習施設整備も計画いただいている。



5/27

会派の有志と一緒に、唐津東港から第七管区海上保安本部の巡視船「まつうら」に乗船。
船内では、海上保安庁の仕事（領海警備、治安確保、災害救助、自然保護などなど）について詳しく説明を受けた後に、闊達な意見交換も。
国の平和を守るための役割、自衛隊では担えない役割が、海の警察組織である海上保安庁にはあるのだと、今回よく理解させていただいた。



6/22

総務常任委員会の現地視察。
地図データの更新、地図データへのハザードマップの反映、パトカーの現場急行中の映像の共有、などの高度化がなされた警察通信指令システムを見学。
110番通報は年間4万件以上あり、時間帯としては16時～20時がピーク。問い合わせのようなものも実は多いとのこと。
緊急でないお問い合わせはお近くの警察署に<(_ _)>



6/23

2025年を目途に操業を終えるアサヒビールの博多工場の移転先が、鳥栖市が造成中の新産業集積エリア（幸津町）に決定。
新工場では主力の「スーパードライ」や「クリアアサヒ」をはじめ、缶酎ハイや清涼飲料水も製造予定。
また、将来的には新たな雇用（地元含む）も発生する見通しだとのこと。
地元の市議さんたちと連携し、地域のみなさんの声をしっかりとお聞きしながら、工場の建設・操業に対する「不安」の解消と「期待」の実現のため、地元に住む県議としての責任を果たしていかなければ。



不　安
工事中の騒音・粉塵など
工事中の車両の数とルート
完成後の雨水の流れ（豪雨の影響）
操業時の騒音・異臭など
操業時の車両（通勤・配送）の数とルート
ビール園（未定）来場者による喧騒や渋滞など
その他

期　待
市の税収増（⇒住民サービスの向上）
地元からの雇用（正規・非正規）
旭駅周辺の整備（駅トイレ復活、踏切改良など）
市との防災協定（水害時の避難場所提供など）
ビール園（未定）による地域の活性化（地産地消、雇用など）
地区まち協などの地元との連携（祭りやイベントへの参加・協賛など）
その他

地域交流・県土整備常任委員会での質問　抜粋(要約)

❶ 鳥栖市には開発できる土地がない！

中村：鳥栖市議会において、鳥栖市の都市計画に関する会派横断的な勉強会が設けられようとしている。その勉強会から、区域区分（線引き）の決定権者である県に対して、何かしらの意見が提出されるようなことがあれば、県はそれをどのように受け止めるのか？

答弁：鳥栖市の中で十分議論された上で提出された意見については、まずは内容をしっかりと確認し、まちづくりの主体である鳥栖市や関係する基山町と議論していきたい。

❷ 出水期までに下野排水機場の能力ＵＰを！

中村：（出水期を控え）少なくとも毎秒６㎥という下野排水機場のもともとの排水能力までは、何かしらの形で対応していただきたいと、生命と財産がかかっている地元の皆さまのお顔を思い浮かべながら切に願うが？

答弁：現在は毎秒 1.5 ㎥の仮設排水ポンプを設置しているが、令和４年度の出水期を迎えるにあたり、追加で仮設排水ポンプ毎秒 4.5 ㎥を増強する…。今年の出水期に向け、今後も継続して筑後川河川事務所や鳥栖市と情報を共有し、しっかりと連携して取り組んでいく。


昨夏に水没した下野排水機場

❸ SAGA アリーナのこけら落とし公演にフランシュシュを！

中村：現在建設中のＳＡＧＡアリーナで、実は既にこけら落とし公演を行ったグループがある。"なぞなぞ" みたいだが、それはアニメ「ゾンビランドサガ」の中で佐賀県を救うために結成されたご当地アイドルグループ、フランシュシュである。SAGA アリーナを生かすには、佐賀ならではのコンテンツで差別化すべき。フランシュシュの公演は、まさにうってつけのコンテンツ。実現に向けて前向きに取り組んでは？

答弁：フランシュシュのライブは私も行ったことがあり、大変多くの方で賑わっていた・・・。また、ゾンビランドサガそのものが佐賀県一円を舞台にしているので、ライブの前後に聖地巡礼といった形で県内を回っていただくような効果も想定され、（フランシュシュのこけら落とし公演は）魅力あるコンテンツのひとつだと認識している。


建設中のSAGAアリーナ

❹ SAGA アリーナのコンテンツといえば久光スプリングス！

中村：現在、鳥栖市の駅前不動産スタジアムの横に、久光スプリングスの練習拠点が建設中である。この施設完成後（つまり久光スプリングスの佐賀県への完全移転後）の連携について伺う。

答弁：新練習拠点は、県民の方への開放も予定されており…今後、県内のバレーボールの振興に活用させていただきたいと考えている。来春、久光スプリングスが完全移籍することから、それを迎え入れるためにも、令和４年度から、更に県全体の応援機運の醸成を図っていきたい。久光スプリングスがＳＡＧＡアリーナで活躍することで、ＳＡＧＡサンライズパークを中心にエリアー帯が躍動するよう、これまで以上にチームとしっかり協議しながら、関係団体の皆様と一緒になって様々な取り組みを行っていきたい。

私の質問に限らず、過去のものも含め、一般質問・委員会質問の全てを右記から視聴いただけます。　佐賀県議会映像検索システム　検索

佐賀県議会議員

中村圭一

令和３年度２月定例会

活動報告 vol.12

任期最後の年に・・・

新年度がスタートしましたが、早いもので、今年度は県議としての任期４年の最終年度になります。鳥栖市の皆様の代弁者として、残された期間、決意を新たに働いて参る所存ですので、ぜひお気軽に“使って”いただければと思います。

さて、１か月以上かけて行われた２月定例会では、総額 5,710 億円（対前年比 2.6%増）の一般会計予算などを可決承認しました。この予算によって、佐賀県が「最小の経費で最大の効果」を挙げていくよう、議員としての役割を果たして参ります。


福岡さんとのインタビュー記事は中面にて

今回の活動報告では、参議院議員の福岡たかまろ先生のインタビュー記事を中面に掲載しています。県の抱える国政課題、将来の鳥栖市の姿などだけでなく、プライベートについてもフランクにお話いただきました。大臣への登竜門といわれている議院運営委員長という重責を担われ、また今夏（7/10 投開票予定）に改選を控えるという、大変お忙しい中にお時間をいただいた福岡先生、誠にありがとうございました。

２月定例会で可決された主要事項〈一部抜粋〉

※下記を含む令和４年度当初予算の主だった事業は→

細事項名	予算額(千円)	目的
ヤングケアラー支援推進事業費	2,633	ヤングケアラー（※）について、関係者への研修を実施する。 （※）病気や障害のある家族の介護・面倒に忙殺されていて、学校に通えなかったり、同世代との人間関係を構築できないでいる子どもたち。
骨髄等移植支援事業費	4,868	骨髄等移植のドナーになることの心理的・刑事的負担を軽減することにより、協力しやすい環境づくりを推進する。
ゆめさが・地域活動支援事業費補助	9,633	ゆめさが大学の卒業生が地域活動の担い手として積極的に活躍するための支援を行うことにより、シニアが元気に活躍する地域社会の実現を目指す。

ご意見ご要望は　携帯 090-2522-3944　E-mail ddonenak@kumin.ne.jp

ホームページアドレス
https://www.nakamurakeiichi.com/

参議院議員福岡たかまろさん インタビュー



まずは、ご家族のお話を。

私が４５歳、妻が４２歳の時にようやく授かった、もうじき３歳になる息子との３人家族です。
そもそも休みがなく、子どもと一緒にいられる時間は少ないですが、１日の中で１～２時間が空いたら、子どもと公園に行ったりしています。また、一緒にいる時の家族の食事は全部私が作っています。佐賀のおいしいお米や旬の野菜などでつくる食事によって育っていく子どもを見ながら、自分も子どもの成長に関わっているなと実感しています。

政治家になられたきっかけは？

祖父が政治家だったこともありますが、社会人になって東京からたまに帰省してきた時に、自分が東京でやっている仕事と佐賀の実態とのギャップに愕然とすることがたくさんありました。なんとか生まれ育った地域を活力あるものにしたいという思いが一番のきっかけです。

政治家としての信念は？

政治の上での師は、大学の剣道部の先輩でもあった故橋本龍太郎先生です。先生の「政治は弱者のためにある」というお考えが、今の私の信念にもなっています。病気、障害、失業など、様々な理由で生活がままならない人がたくさんおられます。そこに政治が介在することで、どんな方でも生きがいをもって生活していただける環境をつくる。それが政治の役割だ、という信念のもとで日々活動しています。

政治家としてのライフワークは？

私が国会議員として最初に手掛けた法案が、障害のあるなしに関わらず、地域の方々と共に生活を営んでいただこうという「障害者自立支援法」(今の障害者総合支援法) でした。高齢者福祉、障害福祉、または児童福祉、なんでもそうですが、そういう立場にある方々に、ある一か所の施設に集まっていただくのではなく、皆さんがどういう環境にあろうと、同じ地域の中で共に暮らしていける社会をつくるというのが、私の中では一つの大きなライフワークになっています。



新型コロナの今後は？

社会をどう回していくのかということと、感染対策をどう講じるのかのバランスが大事です。今３回目のワクチンを多くの方に接種してもらっていますが、ワクチンを接種していただくことによって、免疫力を高めていただく。そうすれば、いろんな行事・イベントが開催できるような環境もつくれます。一方で、ワクチンを接種しても感染することもあります。重症化した方のための医療提供体制をしっかりと整えることは言わずもがなですが、経口薬もだいぶん出てきているので、そういうものもしっかりと組み合わせながら、早く皆さん方に日常生活を取り戻していただける環境をつくっていくというのが大切だと思っています。

県の抱える国政課題、オスプレイの佐賀空港への配備については？

国際情勢がこれだけ混沌としてくると、また佐賀もこれだけ立て続けに災害に見舞われると、飛行速度が速くて、島嶼部（大小の島々）にも垂直に離着陸できて、一度に多くの物資も運搬できるオスプレイの配備の重要性はますます高まっていると思います。一方で、騒音だけではなく、機体の安全性の問題、有明海への影響など、地域の方々のご心配の声もたくさんいただいています。オスプレイ配備の必要性を説明するのと同時に、地域の方々のそうした懸念をひとつひとつ払拭して、ご理解をいただいていくことが大事です。実は私は佐賀空港が位置する川副町に生まれましたから、同じ地域の方々のご不安にしっかりと寄り添っていくことも私の担いだと思っています。

出口の見えない国政課題、西九州新幹線については？

いよいよ今秋に武雄温泉～長崎間が開業しますが、新鳥栖～武雄温泉間で、ずっと対面乗り換えを続けるという選択肢はないと思っています。なんらかの形で繋げなければなりません。そして今後佐賀県が発展していく上で、新大阪まで直接乗り入れができるということは、やっぱりひとつの大きな武器になります。そう考えた時に、また長期的視野に立った時に、高速で走れるもの（＝フル規格）で新鳥栖～武雄温泉間を繋ぐことは大事だと思っています。一方で強調しておきたいのは、県民の中に、時間短縮効果がさほどないことに対して、県民の税金がこんなに使われるのかという不満や、今のＪＲ利用者の利便性が損なわれるのではないかという懸念があることです。従来のスキームが変わったこと（フリーゲージトレインの開発断念）の責任は、佐賀県にはまったくありません。県選出の国会議員として、佐賀県の財政的な負担が最小限で済むような形にもっていくための努力はしていかなければいけないと思っています。また、国と県は、いろいろとボタンを掛け違えている部分があって、その掛け違えたボタンを少しずつ元に戻していく、そのための環境を作っていくことも、地元の国会議員の役割だろうとも思っています。



今秋開業する嬉野温泉駅

これからの鳥栖市については？

もともと道州制の議論があった時に、九州の州都には鳥栖市が相応しいという声がありました。道路においても、鉄道においても、すべて鳥栖がハブになっています。いろいろなものが集積する軸になっている強さが鳥栖にはあります。今後も様々なインフラ整備を進めていき、多くの企業がメリットを感じて立地していただく、そういう環境づくりを更に強めていく必要があると思います。しかし、鳥栖には市街化調整区域が多くて、ニーズはあっても提供できる土地がないという課題があります。鳥栖だけでなく九州全体の発展を考えた時に、乗り越えていかなければならない大きな課題です。農地の確保を含め、土地利用をもっと広域で調整することもひとつの考え方だと思います。その課題を解決し、重粒子線治療施設(ハイマット)がある新鳥栖駅周辺に、様々な疾患の最先端の医療施設や研究機関を誘致すれば、そこに九州全体、もしくは西日本全域から、関係する多くの方々が、治療、研究、情報交換などのために集まるようになります。そういう「強み」を活かしたまちづくりが鳥栖でなされればいいな、またそのお手伝いができればいいなと思っています。



新鳥栖駅とサガハイマット

一般質問 抜粋(要約)

① 九州新幹線西九州ルートについて（佐賀駅ルートと空港ルートの比較・検証）

中村：「佐賀駅ルート」よりも、建設費負担の額がべらぼうに高く、時間短縮効果、投資効果及び収支改善効果といった効果も極めて低い、さらには、宝の海である有明海にも悪影響を及ぼす可能性もあり、新鳥栖駅が分岐駅にならない、この「空港ルート」こそが、佐賀県にとって得るものがなく、失うものが大きいと思うが、知事の所見を伺う。

佐賀駅ルート vs. 佐賀空港ルート

		佐賀駅ルート	佐賀空港ルート
概算建設費		約6,200億円	約1兆1,300億円
想定工期		約12年	
短縮時間	佐賀ー博多	15分	9分
	佐賀ー新大阪	29分	23分
投資効果（B/C）		3.1	1.3
収支改善効果（JRの利益増額）		約86億円/年	約0億円/年

※国土交通省が試算（令和3年11月）

知事：「空港ルート」について国が様々なものを示された。でもそれは、一定の条件の下で、それこそトンネルを造り地下を通すとか…、いずれにしても、もっともっと骨太の議論をしようと我々は考えている…。

② 障害者の申請手続きの簡素化について （例：自動車税の減免手続き）



中村：障害のある人のために日常生活に不可欠の生活手段として、ご本人が運転される自動車についてだけでなく、同居の家族が使用される自動車についても、一定の要件を満たす場合には、申請にもとづき自動車税の減免が受けられる。そして、この場合は、専ら障害のある人の通院や通学などのために使用しているという、…通学や通院の証明の提出が求められている。しかし、時間も費用もかかる、「通学証明」、「通院証明」、そんなものを出していただく必要が、はたしてあるのか？障害のある人も、当たり前に学校に通う。障害があるので、通院もするだろう。それをわざわざ証明しろと言われる。「障害のあるなしにかかわらず、ともに暮らしやすい佐賀県をつくる条例」のもとで、障害をもった人も、普通に暮らし、地域の一員として、ともに生きる社会を目指しているはずの佐賀県が、「普通に暮らしている証明」を出せと言っている。大きな矛盾だと思う。障害者手帳さえお持ちであれば、ご家族が運転される自動車でも自動車税の減免をする。そうすべきだと思うがいかがか？

総務部長：家族が運転する場合の減免申請について、証明書類の省略など、手続きの簡素化を求める声があることも聞いている。…税の公平性の観点も踏まえながら申請者の負担軽減についながるために、どのような制度とするのがふさわしいのか、研究をしていきたい。

中村：「不正な申請の防止」ということであれば、申請していただく際に、当該自動車を「専ら身体障害者等の通学・通園・通院・通所・生業のために使用します」という宣誓書に署名いただけば済む話である。ぜひ、そのように改善していただきたいとお願い申し上げておく。また、この例のように、障害をもった人が不必要に何かを証明しなければならない、そんな手続きが他にもあるかもしれない。一度、全庁的にチェックをしていただき、もしそういうものがあれば、「障害のあるなしにかかわらず、ともに暮らしやすい佐賀県をつくる条例」の、その趣旨に沿った改善を、速やかに行っていただきたいと思うが、いかがか？

総務部長：確かにそういった例があるかもしれない。全庁調査に向け検討させていただきたいと思う。

私の質問に限らず、過去のものも含め、一般質問・委員会質問の全てを右記から視聴いただけます。 佐賀県議会映像検索システム 検索

佐賀県議会議員

中村圭一

活動報告 vol.11

令和３年度 11月定例会



今年こそアフターコロナの年に！



新年あけましておめでとうございます。

皆様の声の「ワンストップサービス」になると公言していた私です。本年も、地域のこと、市政のこと、県政のこと、そして国政のことでも、ぜひお気軽にご意見・ご要望くださいますようお願い申し上げます。

さて、昨年の終盤は40日近く県内コロナ感染者数ゼロという日が続く中、比較的に落ち着いた中で11月定例会が開催され、更なるコロナ対策、そして８月豪雨災害対策を主とする約129億円の補正予算を可決承認いたしました。その中には、洪水調節施設を整備することによるため池貯蓄機能の向上や、堆積土砂の浚渫による河川流下能力の確保などの「内水氾濫対策」の予算（約９億円）も含んでいます。年々激甚化している豪雨災害を防いでいくためには、このような取り組みを積み重ねていくことが重要であると認識しながら、今後も議員としての責任を果たしてまいります。

そして、その11月定例会が閉会するや否や、東京要請活動や常任委員会視察（内面に詳細）を行い、慌ただしくも充実した年末を過ごさせていただきました。しかし、年を越してからは、ご案内のとおり、佐賀県内にもオミクロン株によるコロナの第６波が押し寄せてきています。この波ができるだけ小さく、そして最後の波になることを、また皆様方の今年一年のご健勝とご多幸を心から願い、新年のご挨拶とさせていただきます。

11月定例会で可決された主要事項〈一部抜粋〉

※下記を含む令和３年度11月補正予算の主要事項の一覧は→

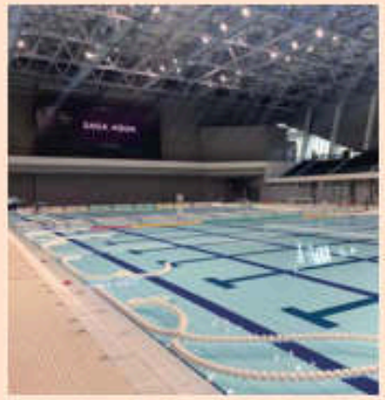
細事項名	予算額(千円)	目的
新型コロナウイス感染症対応医療提供体制強化事業費	6,444,241	変異株等による患者の増加に対応するため、更なる病床の確保に取り組むなど、医療提供体制を強化。
コミュニティ再生アシスト事業費	56,000	８月豪雨災害で被害を受けた地域の復興を支援するため、自治会等に対して支援金を交付。
河川保全費ほか（プロジェクトIF）	820,800	８月豪雨などの気候変動型の災害に対応するため、河川浚渫などの内水氾濫対策を実施。

ご意見 ご要望 は
携帯 090-2522-3944
E-mail ddonenak@kumin.ne.jp
ホームページアドレス
https://www.nakamurakeiichi.com/

Photo Gallery

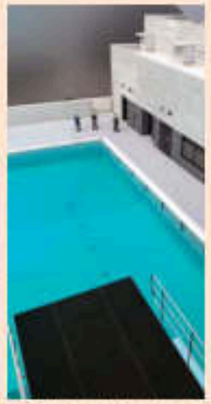
12/14 完成した「SAGA アクア」を視察

10 月 23 日にオープンした「SAGA アクア」を視察。
50m国際基準競泳プールと国内基準飛込プールを擁し、2024 年に行われる佐賀国スポでも使用される予定。



利用者に応じて水深を変更できる可動床を導入。
選手の躍動感をダイレクトに伝える最新の映像・音響施設も。





屋外飛込プールの一番高い飛込台は10m。
そこから見下ろした水面は・・・(^_^)



「SAGA アクア」のお隣りでは、佐賀国スポのメイン会場となる「SAGA アリーナ」の建設が着々と進行中。

12/20 自民党本部の高市早苗政調会長を訪問

永田町にある自民党本部を訪れ、超多忙な中お時間を作っていただいた高市政調会長と、本県が抱える国政課題について意見交換。"お忍び"とまでは言わないけれど、政治的な課題を共有する有志での上京。まさか高市会長がご本人のインスタグラムに上げられるとは・・・。



高市先生のインスタグラム。
会談の内容の一部もご紹介いただいた(^^;



名刺交換の際に、「お若いですね」と言っていただいた。
う〜ん、喜んでいいのか？

12/22〜24 常任委員会で２年ぶりの視察

地域交流・県土整備常任委員会で、長野県、群馬県、新潟県を視察。２日目に訪れた草津温泉が、観光経済新聞が主催している「にっぽんの温泉 100 選」において、19年連続のトップを獲得されたとのこと。ホテルの中で入湯・食事・買い物を完結させるのではなく、あえて（浴衣で）外に出てもらい、街並みを満喫しながら、レストランで食事を、お土産屋さんで買い物を楽しんでいただくという取り組みに、「なるほどなぁ」と得心。質疑応答の中では、本県の武雄や嬉野を例に挙げながら、温泉地の魅力づくりと外国人観光客の取り込みの両立について意見交換。



草津温泉のまち歩きの楽しみのひとつである伝統芸能「湯もみ」。



令和２年にオープンしたＧメッセ群馬。駅からは徒歩 15 分。
そこは本県のＳＡＧＡアリーナと一緒。しかしここには2,000 台の立体駐車場も併設されていて、そこがＳＡＧＡアリーナとは決定的に違うところ。お尋ねしたところ、正確なデータはないが、９割以上が車での来場だとのこと。
やっぱりそうだよな〜。。。



令和元年東日本台風、令和３年８月豪雨、令和３年９月豪雨と、立て続けに豪雨災害に見舞われている長野県。広範囲に及ぶ復旧工事については、県内企業だけでは到底受けきれないので、県外の企業との復興ＪＶ(２〜４社)に対して、10 か所くらいをまとめて発注する形をとっているとのこと。
本県をはるかに超える災害規模。一日も早い復旧・復興を心から祈念。

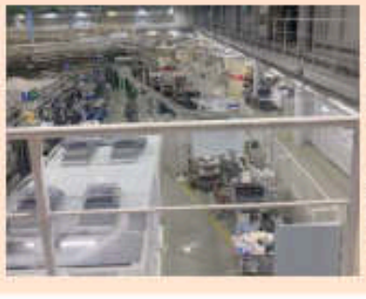
12/27 "量子"をキーワードに鳥栖市で勉強会

鳥栖市には、重粒子線によるガンの治療施設である「サガハイマット」、地域におけるイノベーション創出をけん引する「産業技術総合研究所（産総研）」、シンクロトロン放射光の利用した研究等を行う「九州シンクロトロン光研究センター」という最先端の医・産・学の施設が集約。この３者が"量子"というキーワードのもとで連携し、そこに、鳥栖市が世界に誇る貼り薬メーカー「久光製薬（株）」が加わることで、鳥栖市を創薬の一大拠点にしていく。そんな夢を共有するため、議長の旗振りのもとで、一期生の仲間と一緒にそれぞれの施設を訪問。この日を岐に、夢が目標に。



「サガハイマット」では中川原理事長からのご説明を拝聴。





「シンクロトロン光研究センター」の実験ホールには佐賀大学や九州大学のビームラインも。
どんな研究をしているのか、聞いてもたぶん理解できないだろうな〜。
研究者ってやっぱり凄い。



「産総研」で一番印象深かったのは、小型冷蔵庫くらいの大きさで半導体を作ることができる機械。
半導体市場の約半分がターゲットになるとのこと。その可能性の大きさに素人ながら興奮。

子ども虐待防止「オレンジリボン運動」へのご理解・ご協力を!

オレンジリボン運動とは・・・

子ども虐待防止に賛同される方が、それぞれの胸にオレンジリボンをつけることで、子ども虐待防止の意思を示し、さらに多くの人々の関心と賛同を広げていく活動。
リボンのオレンジ色は、子どもの明るい未来を表している。

11月5日

児童養護施設の職員さんたちと一緒に、子ども虐待防止「オレンジリボン運動」の一環として、佐賀県の男女参画・こども局長を訪問。児童虐待の悲しいニュースが後を絶たない。この運動の広がりが、児童虐待の撲滅につながりますように。。。



11月7日

一昨日に引き続きオレンジリボン運動。スタジアム前にて、サッカー観戦に向かわれるサポーターのみなさんに、児童虐待防止の啓発ビラとオレンジリボンを配布。虐待される子ども、そして虐待してしまう親を救うためには、この運動の推進と同時に、児童相談所全国共通ダイヤル「189」(イチ・ハヤ・ク)が広く知られることも大事だと痛感。



「189」にかけると、発信した電話から当該地域を特定し、管轄の児童相談所に電話を転送。通話料は無料。



佐賀県議会議員

中村圭一

活動報告 vol.10

令和３年度９月定例会

豪雨からの復旧・復興


8月豪雨災害現場を視察

衆議院議員選挙、烏栖市議会議員選挙と選挙が続き、通常よりも１か月遅い「活動報告」の配布となりました。市議選において当選された議員のみなさんとしっかりと連携しながら、烏栖市の（ひいては佐賀県の、そして九州の）発展のために働いていく所存です。

何十年に一度が本当に毎年襲ってきます。８月の豪雨によって被害に遭われた皆様に心からのお見舞いを申し上げます。水に浸かることを防ぐために稼働する排水ポンプ。それ自体が水没して動かなくなるという、冗談話にもならない事態が発生しました（下野排水機場）。このようなことが今後絶対に発生しないように、県には、国とも連携しながらしっかりと対策を講じてもらいます（中面に質問掲載）。

さて、９月定例会では、その８月豪雨からの復旧関連で約 135 億円、新型コロナウイルス感染症対策として約 66 億円、その他を含め約 302 億円の一般会計補正予算などを可決承認しました（下表参照）。

豪雨からの復旧・復興については、単に前の形に戻すのではなく、激甚化する災害に対応できるようにしていきます。また、新型コロナウイルスについては、現在のところ（11月 15日）、心配している第６波の襲来もありません。なんとかこのまま持ちこたえ、帰省を望まれる方々が帰省でき、みなさまがご家族に囲まれながら、よい年末年始をお迎えになられることを心から祈り、ご挨拶といたします。

９月定例会で可決された主要事項〈一部抜粋〉

※下記を含む令和3年度9月補正予算の主要事項の一覧は→ 第9号 第10号 第11号

細事項名	予算額(千円)	目的
佐賀型中小企業事業継続支援事業費	1,764,300	新型コロナウイルス感染症の影響により売上が減少した中小事業者に対し、厳しい中になっても少しでも事業を継続する力となるよう応援金を交付。(法人：20万円　個人：15万円)
市村記念体育館利活用推進事業費	367,852	文化・芸術施設等が集積している城内アリアに位置する市村記念体育館を、次世代を担う人材を育む文化・芸術体験及び創造的活動の拠点として整備。
災害対応機器等整備費	390,000	豪雨災害が激甚化・頻発化し、浸水被害が多発する中、県独自に排水ポンプ車を配備し、迅速かつ機動的に排水ができる体制を強化。 ※各土木事務所管内に１台（計５台）

ご意見 ご要望 は
携帯 090-2522-3944
E-mail ddonenak@kumin.ne.jp
ホームページアドレス
https://www.nakamurakeiichi.com/

地域交流・県土整備常任委員会での質問 抜粋(要約)

① 令和３年８月豪雨による内水氾濫について


浸水した排水機場

中村：今回の内水氾濫の原因を踏まえた今後の内水対策について伺う。

河川砂防課長：今回の災害の教訓を踏まえ、副知事をトップとした内水対策プロジェクトチームを立ち上げ、内水氾濫軽減のための対策や、内水状況の把握を進めていく取り組みを行う。その中で、河川の水位を低減するための河川の浚渫（しゅんせつ）や排水機場の耐水化などの対策を行っていく。今議会で予算をお願いしている排水ポンプ車の導入も対策のひとつ・・・。県の関係部局はもとより、国、市町、関係団体と連携して進めていくことが重要であり、流域全体として協力しあえる体制を構築しながら、しっかりと取り組んでいく。


急遽取りつけた国交省の排水ポンプ車

中村：内水氾濫による浸水が想定されている地域に住むひとりとしても、答弁どおりの取り組みを心から期待している。・・・今回の豪雨により浸水した**「下野排水機場に関する地元からの要望」**の内容と、それを受けての県の取り組みは？

河川砂防課長：

要望①　現在設置している仮設排水ポンプの能力向上
→　毎秒 1.5 ㎥では足りないということで、筑後川河川事務所と調整して、大雨の恐れがある場合には排水ポンプ車を配備していただくようお願いしている。

要望②　恒久的な排水施設の能力向上
→　排水機場が浸水しないように止水壁を今後設置していく。

要望③　遠隔による排水機場の水位の確認
→　インターネットを通じて水位を確認できるよう、県の河川情報「すい防くん」で内水位や外水位が確認できるように対応し、作業員の負担軽減を図っていく。

中村：「いつまでに」というご答弁がなかったが？

河川砂防課長：「いつまでに」というのは、なかなか言えないが、来年の出水期までに間に合うものについては、直ちにやっていきたい。

中村：間に合わないものもあると理解した。地元の皆様が安心して過ごせるよう、少しでも早く抜本的な対策を講じていただきたい。それまでの間は、臨時応急的な措置をしっかりと取っていただくよう強くお願いしておく。

② 九州新幹線の全線フル規格化について（佐賀市内に新たな駅は要らないという選択肢）


新鳥栖駅

交通政策課長：佐賀県としては、フル規格ありきの協議や、フル規格を実現するための協議には応じられない・・・。
一方で、長崎県が、フリーゲージトレインが導入できないのであれば全線フル規格を求めるというのは、長崎県内の様々な事情から、それは長崎県の立場としてはあるだろうと思っている。

中村：そう思うのであれば、「新鳥栖－武雄温泉間には新たな駅は要らない。その代わりにお金も払わない。それでよければ、長崎県のためにも必要な法改正やルール改正をして、どうぞ新鳥栖－武雄温泉間をフル規格で結んでください。」と国交省に提案されたらどうか？

地域交流部長：（質問したことには答えず）

中村：新鳥栖－武雄温泉間のフル規格での整備は求めていないし、それを前提とした協議も受け入れられない。だけれども、もしフル規格で整備するのであれば、（佐賀市内に）駅は当然要りますというのは、ちょっと虫が良すぎる、と私は思う。逆に国交省から「新鳥栖－武雄温泉間には新たな駅はつくらない代わりに、佐賀県の費用負担も最小限にするという案も、選択肢のひとつとしてテーブルの上に乗せていいですか？」と提案されえたならば、それについては、流石に拒否はしないと理解しておいていいか？

地域交流部長：・・・考えを持ち合わせていない。

中村：あくまでも選択肢のひとつとしての提案である。「幅広く協議する」と再三公言をされている県が、特定の選択肢だけ、協議する前から拒否するというのはあり得ない、と指摘しておく。

③ 九州新幹線の全線フル規格化について（分岐駅としての新鳥栖駅）

中村：われわれ鳥栖市民は、県外の方から「鳥栖市は通ったことはあるけど、降りたことないなぁ」と、そう言われ続けてきた。そういう、鳥栖を素通りする多くの人たちを惹きつけ、鳥栖のまちに足を踏み入れてもらうために、新幹線の分岐駅は譲れないのである。市町の懸命な取り組みをしっかりと支援していくのが県の役目であると、執行部の皆さんから何度も聞かされている。分岐駅としての新鳥栖駅を大前提として、これまでもまちづくりを行い、そしてこれからも懸命に行っていく鳥栖市を、県には全面的に支援していただきたい。そこで尋ねるが、佐賀駅を通るルート、空港を通るルート、佐賀市北部を通るルートの３つのルート、それぞれにメリット、デメリットがある。ついては、A４の用紙の真ん中に縦の線を引いて、それぞれのルートについて、左側にメリットを、右側にデメリットを箇条書きにしていく。その際に、「新鳥栖駅を分岐駅としない」というひとつの箇条があった時に、部長、あなたはそれを紙の左側、メリット側に書かれるか？それとも右側のデメリット側に書かれるか？ご答弁を。



JRTT の HP より

【九州新幹線の路線図】
筑後船小屋駅から佐賀空港を通って武雄温泉駅につなげるというルート案もある。

地域交流部長：分岐駅も当然考えるひとつであるけれども、そのことだけを見て語るのではなく、全体として佐賀県にとって何が望ましいのかという視点で考えることになる・・・。

中村：おっしゃるとおりである。いっぱい箇条があって、それらをメリット側、デメリット側に分けて、全体としてそのルートがどうかという判断をする。そのひとつである「新鳥栖駅を分岐駅しない」という箇条を、部長はどちら側に書かれるのかをお聞きしている。

地域交流部長：そこは多分確認することになる。

中村：少なくとも「デメリット側だ」と答弁いただけると思っていた。残念を通り越して、ちょっとびっくりしている。鳥栖市民の思いよりも大切な何かがあるのか・・・。

私の質問に限らず、過去のものも含め、一般質問・委員会質問の全てを右記から視聴いただけます。　佐賀県議会映像検索システム　検索

LiveS Beyond で伝承芸能（獅子舞や浮立など）をオンライン配信しませんか？

real x online



新型コロナウイルス感染症の影響により、地域のお祭りが中止を余儀なくされており、一度途切れてしまった伝承芸能（獅子舞や浮立など）は、アフターコロナになってもなかなか再開できないのではないか？
そこで、県では、LiveS Beyond（リアル公演とオンライン配信を組み合わせた文化芸術祭）の中で、伝承芸能団体による公演の開催及び配信を募集しています！

練習風景をビデオ撮影したものでも大丈夫
かかった経費についても県が負担（上限あり）

詳しくは LiveS BeyondのHPにてご確認ください。

Photo Gallery

5/12

佐賀県ヨットハーバーを同期の４議員で視察。指定管理の状況、新型コロナの影響などについてお話を伺った。新たに指定管理者となられた企業は、他にも多くのマリーナの管理を行われており、それらとの連携や蓄積されたノウハウの活用も大いに期待できそう。





5/28

九州地方整備局佐賀国道事務所において、自民党県議団６名での勉強会。県内の国道の整備状況や今後の計画、防災・減災５か年対策プログラムなどについて、所長様より詳しくレクチャーいただいた。また、それぞれの地元の課題などについても闊達な意見交換ができた有意義な時間だった。



6/28

地域交流・県土整備常任委員会の現地視察。2024年の国スポを控え、きれいに改築されたSHOWAハンバーガースタジアム唐津（総工事費約17.3億円うち県補助１億円）と、開通を間近に控えた佐賀福富道路（全体事業費約580億円）の工事の進捗状況を視察。





佐賀県議会議員

中村圭一

令和３年度６月定例会

活動報告 vol.9

コロナ禍での東京オリンピック



この活動報告がお手元に届く頃は、ちょうど東京オリンピックの開催期間中だと思います。感染予防が十二分になされることと、その中での日本選手団の活躍を、心から願っています。

さて、7月５日に閉会した６月定例会では、可決承認した72億円の一般会計補正予算のうち、56億円（全体の78%）が新型コロナ対策の様々な事業費になります（下表参照）。この予算が、県民の皆さんが安心して暮らせる日常の到来を早め、またコロナ禍で苦しまれている中小事業者の皆さんの事業継承の後押しになればと思っています。

新型コロナワクチンの接種に関しては、鳥栖市では高齢者の78%以上（7/12現在）がすでに終了し、40歳～64歳の皆様の接種も順次開始されています。若年層のワクチン接種に対しては慎重な意見もありますが、比較的に重症化率の高いとされている（私も含む）中高年の皆様におかれましては、（病院の先生とご相談のうえで、）前向きに接種をご検討いただければと思います。

次号では、コロナが終息に向かい、紙面でも明るい話題を提供できるようになっていることを願い、ご挨拶といたします。

６月定例会で可決された主要事項（一部抜粋）

※下記を含む令和3年度6月補正予算の主要事項の一覧は→

細事項名	予算額(千円)	目的
SSPアスリート寮整備支援事業費	350,041	高校生アスリートの寮を整備することにより、優秀な中高生アスリートの県外流出を防止するとともに、県内流入を促進（官民連携プロジェクト）※鳥栖市内にある久光製薬（株）の社員寮も活用
新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業費	400,000	県独自にワクチンの接種支援会場を開設し（県庁新館１F）、市町が行う高齢者への接種を支援するとともに、高齢者以外の接種（保育士など）についても機動的かつ柔軟に対応していく。
佐賀支え愛食事券事業費	543,000	県独自のプレミアム付き食事券の発行（1冊4,000円で5,000円分）

ご意見 ご要望は
携帯 090-2522-3944
E-mail ddonenak@kumin.ne.jp
ホームページアドレス
https://www.nakamurakeiichi.com/

一般質問 抜粋(要約)

❶ 先人が築かれてきた鳥栖市について （鳥栖をハート・オブ・九州に）



中村：元佐賀県議会副議長、前鳥栖市長の牟田秀敏先生がご逝去された。先生は、九州の心臓部を意味する「ハート・オブ・九州」という夢、スローガンを掲げ、物の流れ（物流）、人の流れ（人流）、そしてこれは私の造語だが、高度な情報、つまり知恵や知識の流れ（知流）、この３つ、物流、人流、知流の九州の拠点としての鳥栖を築いていかれた。・・・そして、この３月に策定した第７次鳥栖市総合計画の中で、鳥栖を「九州を繋ぎ、リードするまち」にするという目標を掲げている、今の橋本市長に引き継がれている。しかしながら、鳥栖市だけの力では、なかなかその掲げる目標の達成が厳しいのが実情でもある。・・・**鳥栖市がそのポテンシャルを活かしきれるように、**知事におかれては、**全面的に、そして能動的に鳥栖市を後押ししていただきたい**と強く願うところだが、いかがか？

知事：・・・鳥栖市自らが住民とともに未来を思い描いて、地域の皆さんと取り組むということを第一に考えることが大切。そして、県はそういう大切な鳥栖を力強く支援していきたいと思っている。・・・**鳥栖市は佐賀県にとって、佐賀県発展のフロントエンジンとなる宝箱である。ハード、ソフト両面で将来を見据えてしっかり支援して参りたい。**



ハートオブ九州のマーク

❷ 先人が築かれてきた鳥栖市について （分岐駅としての新鳥栖駅）

中村：牟田先生は、鳥栖はハート・オブ・九州であるべき、との熱い想いのもとで、長崎方面への分岐は鳥栖からしかあり得ないと、当時、ミスター新幹線と呼ばれていた鹿児島県選出の衆議院議員、小里貞利先生のところをはじめ、永田町や霞が関に何度も何度も通い、長崎方面への分岐駅として、当初計画になかった新鳥栖駅の設置を実現された。・・・先日、地元県議との公式な意見交換の場で、橋本市長に確認したところ、「鳥栖市として分岐駅は譲れない」ときっぱりとお答えされていた。・・・しかし、知事におかれては、「空港ルートについては在来線の問題は起きにくいと思う」と、新鳥栖駅を分岐駅としないルートを前提とされたかのような発言をされている。そこで念のために確認をさせていただく。県としては、新鳥栖～武雄温泉間の整備方式がどれになろうと、どんなルートになろうと、**長崎方面への分岐は、当然、佐賀県内の鳥栖市にある新鳥栖駅から**であると思っている。そう理解していいのか？

知事：・・・**新鳥栖～武雄温泉間がフル規格で整備されれば、私は、新鳥栖駅は交通結節点から通過駅へと一変する可能性が高い**と考えている。現在、交通結節点として新鳥栖駅と鳥栖駅を抱えている鳥栖市の可能性が大きく損なわれるのではないかと危惧している。

※知事のこの答弁の内容については、次回以降改めて議論（反論）していくつもりです。

私の質問に限らず、過去のものも含め、一般質問・委員会質問の全てを右記から視聴いただけます。 佐賀県議会映像検索システム 検索

❸ 九千部学園の閉園について



九千部学園（園HPより）

中村：九千部学園が令和５年度末をもって閉園する。閉園後、これまで学園が行ってきた**卒園生のサポートはどこが行っていくことになるのか？**

健康福祉部長：閉園後の卒園生のサポートについて、・・・今後、保護者や関係者と意見交換を行い、**閉園後も引き続き気軽に利用できる相談窓口の設置について検討**していく。

中村：寮生活を通した生活訓練など、**学園が担ってきた役割はどこかでしっかりと継承されていくのか？**

健康福祉部長：多くの障害者を一般就労で事業所に送り出してきた**九千部学園の持つ役割、ノウハウは、県にとって財産**であり、具体的な検討については今後になるが、そうした知見を**何らかの形で継承していきたい**と考えている。

中村：閉園された後のその跡地の活用についてお尋ねする。九千部学園がある場所は、九州新幹線の新鳥栖駅のすぐ近くである。長崎自動車道の山浦 PA の近い将来のスマートインター化も考慮すると、鳥栖市が九州の物流、人流、知流の拠点としてのまちづくりを行っていく上で、この上ない場所にある、まとまった広さの県有地になる。・・・県におかれては、**九千部学園の跡地については、**予断を持つことなく、跡地を俯瞰して見つめ、**鳥栖市、佐賀県、として九州にとって最善の活用策を検討**いただきたいと強く願うところであるが、いかがか？

健康福祉部長：これから跡地活用の検討の手続きを進めていきたいと考えている。**跡地の活用がよりよいものになるよう、様々な観点から全庁的にしっかりと議論をしていく。**

❹ コロナ禍における事業者支援について



中村：飲食店との取引関係が深い食材納入業者、酒類販売業者、おしぼり業者、運転代行業者などの事業者に対しては、佐賀型中小事業者応援金の 20 万円だけで、時短要請が延長されても、それ以上は何も交付されない。制度の建付け上、致し方がないことではある。しかし、飲食店と関係が深い事業者が、飲食店と同じように苦しまれていると分かっていても、今の制度の中では、手を差し伸べることができないことに、・・・申し訳ない気持ちでいっぱいになる。第５波は来る。そして、再度時短要請を出さなければならなくなる。その前提で、どうか**県におかれては、飲食店同様に、彼らにも支援ができるよう、今から知恵を絞っていただきたい**と、心から強く願うところだが、いかがか？

産業労働部長：長引くコロナ禍で傷んでいる事業者の方々に対して、佐賀型中小事業者応援金で、十分な支援ができているとは考えていないが、限られた活用できる財源の中で、何とか少しでも前を向いて事業を継続する力になればとの思いで、できる限りの事業者支援を実施している。今後とも、現場を大切に、感染の状況、あるいは事業者の状況、そして国の支援制度や活用できる財源なども踏まえて、**その時々の状況に応じて、戦略的、機動的に支援をしていけるように検討していく。**

❺ 中学校の歴史教科書の採択替えについて

中村：一冊の中学校の歴史教科書が一年遅れで新たに検定に合格した。・・・この教科書が検定に合格したことで、令和３年度中の採択替えが可能となった。これはこれまでに例がなかったことであると聞いているが、・・・**市町の教育委員会事務局のみの判断ではなく、通常の採択と同程度の研究を**した上で、今使っている教科書と比べてどちらの教科書が生徒にとってベターなのか、慎重に判断するべきであると思うが、県教育委員会の考えは？

教育長：県教育委員会では、文部科学省の通知と県の審議会の答申に基づき、**教科用図書の採択を適切に行うよう市町教育員会に通知した**ところ。採択権者である各市町教育委員会においては、この通知や答申を踏まえ、法令に基づき、**公正かつ適正に判断されるものと考えている。**

地域交流・県土整備常任委員会での質問　抜粋(要約)

❶ 聖火リレーにおけるコロナ対策について



中村：佐賀県の聖火リレーは、ゴールデンウィーク直後に実施されるため、ＧＷ期間中の帰省や旅行などによる感染者、しかも時期的にまだ発症していない（無自覚の）感染者が沿道にて感染を拡大させてしまう恐れがある。**沿道におけるコロナ対策**について伺う。

スポーツ課長：**住まいに近い場所で観覧**、…マスク着用、大声を出すことは控えていただき、**拍手や応援グッズ等で応援**…。また、応援のための人出をできるだけ減らして密を回避するために、…**自宅等でライブ映像を視聴**いただけるような工夫をする。

❷ 流域治水について

中村：**流域治水とは**どのような取り組みなのか？

河川砂防課長：…**流域全体のあらゆる関係者が協働し、浸水被害を減少させる対策**を取り入れたもの。具体的には、クリーク、ため池の活用、既存ダムの事前放流などの今も行っている取り組みのほかに、雨水の水田貯留（田んぼダム）、公園などの公共スペースの活用、排水機場や水門などの既存施設の運用改善など。

中村：流域治水の取り組みにおいて、市町はどのような役割を果たせばいいのか？

河川砂防課長：市町は、流域被害の状況や地域の水害特性を熟知…。市町の主体的な取り組みが重要だと考えている。

中村：今議会に流域治水推進事業費 2,000 万円の予算を計上しているが、その額で何件を補助採択する予定なのか？

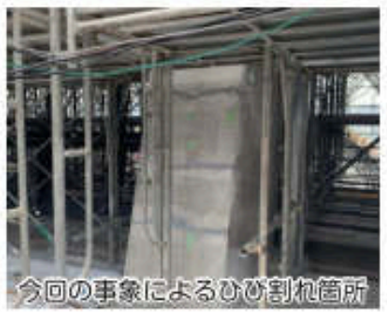
河川砂防課長：概ね３市町程度を補助対象として想定している。

中村：多くの市町が浸水被害対策の必要性を痛感している。**補助の活用を希望する市町が想定より多い場合は、補正予算を**組むなどして、時期を逸せずに漏れなくしっかりと支援していくべきだと思うが？

河川砂防課長：希望する市町が多ければ多いほどありがたい。市町の流域治水の推進を図るためにも、**増額補正をすることも含めて対応**してまいりたい。

❸ SAGA アクアについて


建設中の SAGA アクア


今回の事象によるひび割れ箇所

中村：SAGAアクア 50 メートル水泳場の工事において、建物の柱の上部が想定よりも外側に開いている状況が判明したことに関し、…議事録に残すことも大事だという思いで質問させていただく。…SAGA アクアの運用開始後に、今回の事象が原因で建物に新たなひび割れなどの不具合が発生する可能性はないのか？

SAGA サンライズパーク整備推進課長：県としても、第三者である大学の有識者にも意見を伺い、…建物の品質に影響がないことを確認している。加えて、施工者からは、建物完成後の定期的な点検についても、通常より長期間実施することや、仮に今回の事象に起因する不具合が発生した場合には、必要な補修等を行う旨の申し入れがあっている。

中村：施工者からの申し入れがあった、**長期間行うという定期的な点検の年数は？**

SAGA サンライズパーク整備推進課長：**通常２年**とされているところが、現在協議中であるが、**今回は建物の竣工後 10 年間**という申し入れ。10 年経過後は、その時点で再度協議するといったことも含めての申し入れである。

佐賀県議会議員

中村圭一

令和２年度２月定例会

活動報告 vol.8

65 歳以上の皆様、ワクチン接種の予約はお済みですか？


岩田さんとの対談の内容は中面にて

議会開会中に現職の議長が急逝されるという悲しく忘れられない２月定例会が、３月 19 日に閉会しました。新型コロナウイルス感染症の第４波が佐賀県にも襲いかかってくるという前提のもと、可決承認した 5,565 億円（対前年比 14.6%増）の中で、今年度もコロナ対策と経済対策を両立させていかなければなりません。私も、その思いで議会内外での活動を行って参ります。

さて、今月の 12 日から、県内の 65 歳以上の皆様への新型コロナワクチン接種が始まりました。この活動報告がお手元に届く頃には、鳥栖市内でも接種が始まっているのではないでしょうか。接種は皆様のかかりつけの病院で、無料で受けることができます。病院の先生にご相談された上で、できるだけ接種していただくようお願い申し上げます。

ワクチン接種に関するご質問やご不安などは、右記にお問い合わせ（ご相談）ください。

●接種ができる病院、郵送されてきた接種券などについて
TEL：0570-060500　(8:30～20:30　平日)

●ワクチンによる副反応などについて
TEL：0954-69-1105 (8:30～17:00　毎日)

２月定例会で可決された主要事項（一部抜粋）

※下記を含む令和3年度当初予算の主要事項の一覧は→

細事項名	予算額(千円)	目的
さが自発のチャレンジモデル創出事業費	24,598	地域づくり団体が行う「自発の地域づくり」の取り組みを、専門家等によってさらに磨き上げることにより先駆的なモデルを創出する。
がんゲノム医療体制整備事業費	10,695	確立した治療法がない難治性がん・希少がん患者等の治療の選択肢を広げるため、がんゲノム医療提供体制を強化する。
ママの毎日をアプリで応援事業費	20,000	母親が抱える様々な悩みをいつでも相談できるアプリを活用した支援体制を整備することにより、出産・子育ての環境の充実を図る。(フィンランドの取り組みを参考)
流域治水推進事業費	20,000	河川流域全体の関係者が協働し、水害を軽減させる流域治水対策の構築を図る。

ご意見 ご要望 は
携帯 090-2522-3944
E-mail ddonenak@kumin.ne.jp
ホームページアドレス
https://www.nakamurakeiichi.com/

衆議院議員岩田かずちかさんとの対談

※対談の内容は対談を行った日（3/9）までの情報・情勢に基づきます

中村：今日は衆議院議員の岩田かずちか先生にお忙しい中お時間をいただき、県政の諸課題などについて意見交換をさせていただくことになりました。以降、親しみをこめて「さん」づけで呼ばせて頂きます。それでは岩田さん、よろしくお願いします。

新型コロナウイルス感染症対策について

中村：まずはコロナ対策について伺います。

岩田：医療体制がきちんと確保されることと、ワクチンの供給がしっかりとできて、スムーズに接種が行われていくことが大切です。

中村：副反応が心配だという声もあります。

岩田：そうですね。副反応の問題も注視しながら進めていかないといけません。また、国と地方がしっかりと連携をとっていくことも大事です。

中村：はい、実はわれわれ自民党県議団で手分けして、全市町に出向き、ワクチン接種の体制を整備する上での疑問点や問題点などの聞き取りを行っています。伺ったすべてを整理してまとめたものを党本部にお届けする予定です。

岩田：県や県議会の果たすべき役割も大きいですね。

中村：経済の方はどうでしょうか？

岩田：県内では特に観光業や飲食業の分野で大変な思いをされています。そしてそのことが他業界へも波及していると承知しています。これからも状況を把握しながら、遅れることなく、効果がある手当てをしていかないといけないと思っています。

中村：感染対策、経済対策、この両立は難しいですよね。

岩田：本当に難しい。お叱りもあると思います。しかし、お叱りを甘んじて受け止めながら、その難しい舵取りをしていくのが与党の責任だと思っています。



九州新幹線西九州ルートについて

中村：与党のプロジェクトチームでは、新鳥栖~武雄温泉間はフル規格で整備すべきだということになっていますが、岩田さんは、佐賀市在住の国会議員であり、地元の様々な声も届いていると思います。岩田さんご自身は、この問題をどのようにお考えですか？

岩田：端的に、県の財政負担と並行在来線の問題がクリアできないと前に進まないと思っています。ですので、国と県との協議がなかなか進展していかないことに対しては、正直、困ったなと思っています。

中村：佐賀市民の声は？

岩田：一部ですが、博多まで行くのに新幹線はいらないという声はあります。それは鳥栖でも同じなのではないでしょうか？

中村：そうですね。鳥栖の人は、今でも十二分に便利なので、西九州ルートなんていらない、と言われる方もおられます。そういう市民の率直な思いは思いとして否定はしませんが、将来の鳥栖だけでなく、佐賀県、そして九州全体のことを考え、西九州ルートがどうあるべきか？そして、その時に新鳥栖駅と鳥栖市が、どのような役割を果たすべきなのか？これらを考えながら行動していくのが地元の議員の役目だと思っています。ご批判も覚悟しながらですね。

岩田：さきほど道州制の話もありましたが、県単位、市町単位で考えたら、いろいろな意見が出ると思いますが、県境を外して、九州を俯瞰で見た時に、「新幹線のネットワークをどうすべきか？」と聞かれたら、答えはひとつになるのだと思います。いずれにしろ、県民に正しい情報を提供していくという意味でも、国と県との協議は、ぜひ積極的に進めていってもらいたいですね。

中村：ですよね (*_*;


朝日山の山頂から見た新鳥栖駅

鳥栖市の将来像について

中村：持論からまず先に。鳥栖は、「ハート・オブ・九州」と呼ばれています。今は道州制の議論が下火になっていますが、国の予算の半分近くを借金に頼っているような現状において、国と地方の関係性を根本的に見直さないといけない時が、近い将来に必ずくると思っています。その時に、道州制でいうところの「州都」の機能をどこが担うべきなのか？私は、この鳥栖だと信じています。

岩田：道州制の議論が、今沈んでしまっているのは残念ですよね。アフターコロナの社会にとって大事なビジョンは、東京一極集中を卒業して、「多極分散型」にしていくことだと思います。とにかく、今は地方創生をやり遂げていくことが重要です。

中村：そうなると、九州における鳥栖の役割もますます大きくなりますね。

岩田：鳥栖がすでに九州の交通の要衝であることは間違いありません。そこにどんなプラスアルファを加えていくかが大事ではないでしょうか？

中村：そうですね。私は、鳥栖は、単なる物流拠点ではなく、人や情報が集まる場所になるべきだと思っています。例えば、新鳥栖駅周辺にコンベンションセンターがあれば、様々な業界団体の会議や見本市が、九州のどこからでも集いやすいこの鳥栖で開催されます。宿泊や飲食への補助金を出すことで、鳥栖のまちも大いに賑わうと思います。鳥栖の人間の勝手な思いですが…。

岩田：いやいや、そういうイメージはありだと思いますよ。東京でもコンベンションは、都心ではなく、有明や幕張などでやっていますしね。

中村：ありがとうございます。この実現のためには、コンベンションセンターもないとダメですが、山浦パーキングエリアのスマートインター化も不可欠です。

岩田：はい、それも含め、鳥栖の道路ビジョンについては、みなさんと連携しながら、しっかりと取り組んでいきます。

オスプレイの佐賀空港配備について

岩田：陸上自衛隊のオスプレイの佐賀空港への配備については、この一年が大事な一年であると位置づけています。そして、あくまでも候補地は佐賀空港だけです。国としては、漁協や地権者に対して、誠心誠意お願いするしかありませんし、海苔の漁期が終わるのを待って、地権者説明会を開かせていただきたいという考えです。

中村：地元の国会議員であり、防衛大臣政務官としてこの課題に直接関わってこられた岩田さんの役割とは？

岩田：中国のプレゼンスが大きくなっている中で、オスプレイの佐賀空港配備の重要性はますます高まっている。そのことを大臣政務官として痛感した一方で、地元の議員として、皆さんの心配の声があるのもよく分かっています。その声を丁寧に受け止めることが、私に課せられた役目だと認識しています。そこの橋渡しができればと思っています。

中村：まさに、岩田さんだからこそできることですね。

中村：今日はお忙しい中、ありがとうございました！くれぐれもお体を大切に、ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

一般質問 抜粋(要約)



❶ 自転車保険加入の促進について

中村：県は「佐賀県自転車活用推進計画」の策定作業をすすめている。自転車の活用は、環境面や健康面において優れており、積極的に推進すべきであると考えるが、一方で、全国的には、自転車の加害事故による高額賠償事例も少なからず発生している。自転車の活用を計画までつくって推進するのであれば、自転車保険についても、**条例によってきっちりと義務化、もしくは努力義務化すべき**であると考えるが、いかがか？

県民環境部長：検討段階だが、**努力義務の方向で検討**したい…。

❷ 鳥栖北部丘陵新都市テクノセンター用地について

中村：鳥栖プレミアム・アウトレットのほんのすぐ近くの当該用地は、分譲が進まず、鳥栖市からも**「分譲要件の緩和」についての要望**もなされている。このまま企業進出が実現しない場合、県ではどのような対応をとっていかれるのか？

産業労働部長：立地の見通しが立たない場合は、**対象業種の幅を広げていく**ということを検討…。

❸「コロナ交付金」※の活用のあり方について

※新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金

中村：来年の夏に主に使うような電光掲示板を購入することや、同じく早くても来年７月頃からしか使えるようにならないトイレの改修を行うこと…。それらの事業が必要でないとも、コロナと関係ないとも、県民のみなさんも、決して思っておられない。何で今？という一点の、しかし大きな疑問があるだけ。…今まさに第３波という大きな波を眼前にしている県民の、その心に寄り添い、**今、何をやるべきなのかを、改めて検討すべき。**

知事：ウィズコロナ、アフターコロナ等を見据えながらも、**将来の佐賀県、未来を担う子どもたちのために、**今苦しいけれども、何かその中での布石を打っておきたい。

❹ 佐賀誓いの鐘（仮称）について

中村：差別を否定する知事の「思い」を共有する、そういう県民の寄付によって「誓いの鐘」をつくる。私はそうすべきだと思うし、同時に、そうできると、たくさんの賛同者が集まると確信もしている。また、多くの疑問の声や、お怒りの声があがっている中で、このまま「コロナ交付金」を活用して鐘をつくっても、その鐘の音色が澄んだものになるはずがなく、また人々の心の奥まで響くはずがない。知事におかれては、この「誓いの鐘」の実現のさせ方について再考していただきたい。

知事：鐘の設置については、寄付ではなくて、税金を原資とした予算議案として上げる。これは予算800万円ですから、（佐賀県の人口）80万人でいうと、割り返すと十数円の浄財を集めて私が提案をしている…。

中村：であれば、国からの交付金を使うのではなく、まさに県民の税金、**一般財源から支出すべき**ではないか？

知事：私が発案したときには一般財源というふうに思っていた。…**ここは議論があるところ。**

私の質問に限らず、過去のものも含め、一般質問・委員会質問の全てを右記から視聴いただけます。 佐賀県議会映像検索システム 検索

佐賀県議会議員

中村圭一

令和２年度 11 月定例会

活動報告 vol.7



謹賀新年



新年あけましておめでとうございます。

昨年は、ウィズコロナの一年になってしまいました。ほとんどの集まりやイベントが中止となり、私にとっても、皆様とのコミュニケーションがなかなかとれないもどかしさを抱えたまま終わった一年でした。本年は、安全なワクチンが速やかに行き渡り、成功裏にオリンピックが開催できるなど、アフターコロナの日常が一日も早く訪れることを心から念じています。また、今の厳しい状況の中で、議員として何をすべきなのか自問自答しながら活動して参る所存です。

さて、11 月定例会では、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の使途（特に佐賀誓いの鐘）について、全国放送の情報番組で取り上げられるなど、県内外から異論が噴出しました。結果、実に 36 年ぶりに議会から修正案を提出・議決するという事態となりましたが、私に言わせると、36 年ぶりというのが異常です。これからも「是は是、非は非」という議会（議員）として本来あるべき姿を貫いていきたいと思っています。

令和３年度の予算を決める次の議会（２月）では、新たなコロナ対策予算も提出されてくると思われます。県民の皆様の切実なニーズに向き合った使途になるよう、しっかりと議論して参ります。

本年一年の皆様のご健勝とご多幸を心から願い、新年のご挨拶とさせていただきます。

令和３年１月吉日　　佐賀県議会議員　中村 圭一

11月定例会で可決された主要事項（一部抜粋）

細事項名	予算額(千円)	目的
ANA 連携促進事業費	10,750	ANA グループと県の様々な政策分野での連携を推進することにより、ANA との関係深化及び県政の活性化を図る。 （ANA グループから 10 名程度の出向社員を受け入れ）
勤労身体障害者教養文化体育館施設設備整備費	67,295	障害者スポーツの活動拠点である勤労身体障害者教養文化体育館を回収することにより、競技活動の発展を図るとともに、新型コロナウイルスをはじめとする感染症対策を講じる。（トイレ及び更衣室の床乾式化、トイレの様式化など）
中高生スポーツ大会 SSP推進事業費	58,090	中高生が参加するスポーツ大会の環境を充実させることにより、「新しい生活様式」に対応した大会運営の実現及び SSP 構想の推進を図る。 （電光掲示板やスコアボード等の購入）

ご意見 ご要望 は
携帯 090-2522-3944
E-mail ddonenak@kumin.ne.jp
ホームページアドレス
https://www.nakamurakeiichi.com/

Photo Gallery

10/12



自民党佐賀県連の政務調査会でとりまとめた要望書（県内各支部からの134項目と各種団体からの105項目）を、今年も知事に手渡し。各支部からの要望事項については、今年もほとんどが道路整備と災害対策。各種団体からの要望の今年の特徴はコロナ対策。知事からは、ただ「できる」「できない」だけでなく、より具体的な回答をいただけるとのこと。その回答をしっかりと精査して、今後の活動につなげていく所存。

10/21





常任委員会の視察で広島市へ。全国都市緑化ひろしまフェア「ひろしま はなのわ2020」の計画から開催までの、様々なお話を拝聴。原爆の投下によって、「75年間は草木も生えない」と言われた広島で、被爆からちょうど75年後に緑化フェアを開催する。その想いに対して心からの敬意。経済波及効果も高いこの「緑化フェア」を佐賀県でも開催してほしい、との要望が以前からあり、それにお応えするためのいいきっかけとなる視察だった。原爆ドーム(写真)は75年間で5回目の保存工事中。

10/26

地元旭地区の戦没者慰霊祭に、地区の青年部長として参加。11月からは、長年務めてこられた会長さんに代わり、私が地区遺族会の会長に。戦没者の慰霊と遺族のご労苦継承が、(私などの)孫の代、そしてひ孫の代へと継続できていくよう、誠心誠意、取り組んでいく所存。最初は先輩方に手取り足取り教えていただきながら。



11/2



新幹線問題対策等特別委員会が開催され、招致した参考人(JR九州取締役専務執行役員)に対して、会派から私を含む2名が質問。フル規格で整備した場合の並行在来線について、「経営分離を前提としない」とのご発言を引き出せたことが、今後の前向きな議論につながっていくことに期待。なかなか甘くはないけれども。

11/22



地域の誇りである音楽教育家の陶山聰先生が愛用されていたピアノの、地区まちづくり推進センターへの贈呈式に参加。陶山聰先生は、1999年に満92歳で亡くなられるまでに、校歌142曲を作詞・作曲される（もちろん私の小中母校の校歌も）など、県の音楽教育の向上に大きく貢献された、地域を代表する偉人。音楽を、そしてふるさと鳥栖をこよなく愛しておられた陶山先生愛用のグランドピアノが、末永く地域の皆さんに親しまれることになって、天国の陶山先生がなによりも喜んでおられるのでは。陶山聰顕彰会のみなさんによる合唱（写真）も素晴らしかった！

11/28

旭地区まちづくり推進協議会のクリーンアップ作戦に参加。沼川沿いを歩きながらゴミ拾い。コロナ禍の中でも、地域から多くのみなさんにマスク着用でご参加いただいた。まち協メンバーとして心からの感謝。しかし、後ろの方を歩いていると、ほとんど拾うゴミがなく、久しぶりにお会いするみなさんとマスク越しにお話しすることが主に(^^;



12/9



11月定例会の委員会の現地視察で、鳥栖朝倉線「味坂スマートインターチェンジ（仮称）工区」の道路改良事業の取り組み状況を視察。全体事業費約36億円。工期は令和5年度までの予定。このスマートインターチェンジの整備も物流拠点としての鳥栖市には必要なもの。しかし、九州の心臓部としての鳥栖市の発展に必要なのが山浦PAのスマートインター化。なんとしてもこれも実現させなければ。

12/11



OISCA西日本研修センターの研修生たちと一緒に、佐賀県農業試験センターにて、いちごの環境制御技術などについて学習。CO2施用等の環境制御に密植栽培を組み合わせることで、いちごの収穫量が県内平均の2倍以上になるとのこと。7年もの開発期間を経て2018年秋にデビューした「いちごさん」も試食。甘くて最高に美味しい！





12/26

ふるさと平田町の「ほんげんぎょう」の準備に今年も参加。近くの竹やぶから大きな竹を切って、それを担いで約400m先の会場まで運ぶ。大変な作業だけど大人数だと大丈夫。約2時間で立派なやぐらが完成。年男が点火する本番は1月9日の7時から。コロナ禍のため、毎年恒例の豚汁はなし。残念(+_+)



地域交流・県土整備常任委員会での質問 抜粋(要約)

❶ ジュニア・アスリートの支援について

中村：国民スポーツ大会佐賀大会が１年延期になることで、2023年に地元佐賀での出場が叶わなくなる、いわゆるターゲットエイジの中学３年生が、2023年の鹿児島大会の少年種別で、開催県枠のように、予選なしで出場できるようにならないものか？

担当課長：各都道府県や競技団体、そして選手たちの理解を得るのは、なかなか難しいと考えている。そのため、主に現在の中学３年生の選手が2023年鹿児島大会の九州ブロック予選を通過して、本大会に一人でも多く出場し、活躍してもらえるよう、選手強化の支援を充実していく…。



中村：選手強化の支援の充実。国スポ・全障スポ競技力向上推進本部の委員を拝命しているが、その委員としても、ぜひよろしくお願い申し上げる。

❷ (仮称)山浦スマートインターチェンジについて



中村：高速道路の山浦パーキングエリアのすぐ近くには、パーク・アンド・ライド駐車場を完備した新幹線の新鳥栖駅があり、山浦PAにスマートインターチェンジが設置され、高速道路と新幹線が結節されれば、九州一円からの人と物の流れが促進され、県東部地域の交流拠点としての重要度がさらに増加する。また、災害時の物資輸送の拠点として活用されている佐賀競馬場とのアクセス性も向上する。…(仮称)山浦スマートインターチェンジの設置効果は、県東部地域はもとより、県全体にも及ぶものである。県が主体となって、その実現に向けて取り組んでいただきたいが、如何か？

担当課長：鳥栖市において検討が進められることとなった際には、県としても、検討の熟度を見ながら、鳥栖市や国、関係機関と連携して対応してまいりたい。

中村：県が主体となれないのは分かった。しかし、県全体の元気のためでもある。少しでも前進するよう、ぜひイニシアチブを取っていただきたい。

❸ 屋外広告物の規制について

中村：屋外広告物を規制する屋外広告物条例の目的と、これまでの経緯は？

担当課長：屋外広告物条例は、県内の良好な景観を形成し、もしくは風致を維持し、または公衆に対する危害を防止することも目的として…。

中村：条例で規制されるずっと前から設置されている看板で、その看板がないと店舗への誘導ができない、そういう看板がある。それを条例で決まったから取り外せと言われる側も、そういわなければならない側も、私はかわいそうだと思う。いったん立ち止まって、条例に例外規定を設けるなど、制度のあり方を見直すべきでは？

担当課長：ご指摘の誘導看板のようなものについては、様々な観点から検証を行った上で、制度の見直しの必要性についても、今後検討して参りたい。



＜その他の質問項目＞
- 空港ビル整備事業費について
- 災害復旧について
- 九州新幹線西九州ルートについて

私の質問に限らず、過去のものも含め、一般質問・委員会質問の全てを右記から視聴いただけます。 佐賀県議会映像検索システム 検索

佐賀県議会議員

中村圭一

令和２年度９月定例会

活動報告 vol.6

九州新幹線西九州ルートの整備について
県はなぜ「環境アセス」を受け入れないのか？



９月定例会が30日に閉会しました。今議会での最大の争点は、九州新幹線西九州ルートに関して、「９月末までに」と国が求める環境アセスメント※を県が受け入れるかどうかでした。※環境アセスメントとは：大規模開発事業などによる環境への影響を、３～４年かけて事前に調査すること。

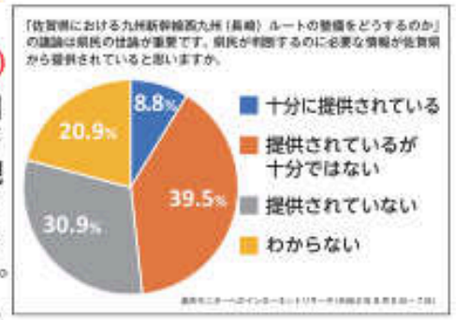
新鳥栖～武雄温泉間の整備方式は

①何もしない（在来線のまま）
②スーパー特急（在来線のレールをそのまま使用）
③ミニ新幹線（在来線に新幹線用のレールも整備）
④フリーゲージトレイン（車輪の幅が可変式）
⑤フル規格の新幹線（在来線とは別に高架でレールを整備）

以上の５つが選択肢となります。

では、①～⑤のどれがいいのか？（④は国が開発を断念）

圧倒的に情報が不足していて、まだ県民の多くが「分からない」という状態です(右パネル)。そのような中、９月末までに国が提案する環境アセスを受け入れないと、実質的に⑤の**「フル規格」**が、県民の選択肢から消えることになります。理由は、北陸新幹線の整備に置いていかれることになり、そうなると単独での予算の獲得が極めて難しくなるから(←それが霞が関の現実)。



一方で、今環境アセスを受け入れたからといって、それが**フル規格**を容認したことにはならないことは、国土交通省も保証しています(公式文書あり)。費用も全額国が負担します。つまり、環境アセスの受け入れは、佐賀県にとって、ノーリスク、ノーコストなのです。

環境アセスを行っている数年間で、国と県とでしっかりと協議をして、その結果が⑤の**フル規格**以外になるかもしれません。それならそれでいいのです。しかし問題は、今環境アセスを受け入れないまま協議を行い、その結果、「やっぱり**フル規格**がいい」となっても、もう手遅れになってしまうことです。

繰り返しますが、協議をする前の段階で、５つしかない選択肢のひとつを県民から奪うことは許されることではありません。そういう立場から、県は速やかに国の求める環境アセスを受け入れるべきであると、自民党として知事に要請書を提出、そして個人としても委員会で質問(上写真)をしたところです。

その結果は、残念ながらご周知のとおり(未だに県は環境アセスに同意せず)ですが、諦めることなく、この問題については、これからも県と対峙していきます。

ご意見 ご要望 は
携帯 090-2522-3944
E-mail ddonenak@kumin.ne.jp
ホームページアドレス
https://www.nakamurakeiichi.com/

Photo Gallery

7/13

新幹線問題対策等特別委員会で、武雄温泉駅、（仮称）嬉野温泉駅、長崎駅を視察。新幹線駅を中心にしたまちづくりにかけるそれぞれの自治体の熱い思いと、その思いに水を差す形になっている佐賀県。本当にこのままでいいのか？このままでは誰も得しないのではないか？では、議会（議員）として何をすべきなのか？改めて、いろいろと考えさせられた視察だった。



7/21



豪雨によって被害が発生した大木川を視察。国庫補助のために国による査定を受ける必要もあり、すぐに復旧工事に取り掛かれる訳ではない。それまでの間は、しっかりと安全対策を行うよう県東部土木事務所に要請。

8/17

旭地区まち協の夏休みの恒例行事「寺子屋」も、今年は人数を制限して、コロナ対策をしっかりと行った上で開催。自分もまち協の委員として、子どもたちと一緒に稲わらの「一輪挿し」づくり。肝心なところは先生のお手を借りて、なんとか出来上がったものがこれ(^-^;





8/20



国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会（SAGA2024）が、コロナの影響で、当初予定より一年先の2024年に佐賀県で開催される。その実行委員会が鳥栖市でも立ち上げられた（この時点ではまだSAGA2023）。鳥栖市で実施されるのは、少年男子サッカー、少年女子バレーボール、空手道、軟式野球、ゲートボール、室内ベタンクなど。天皇杯(総合優勝)目指して、関係者一丸となって頑張りましょう(^^)/

8/31



佐賀県議会オイスカ国際活動議員連盟と、日本で研修中の学生さんたちとの交流会。自己紹介で帰国後のそれぞれの目標を日本語で話してくれた皆さん。地域開発のリーダーとしての活躍を心から祈念。
アフターコロナになったら、公益財団法人オイスカが行っている途上国での植林活動などにもぜひ参加したい。



9/27



サガン鳥栖の試合が行われる前のスタジアム入口で、鳥栖ＬＣのみなさんと一緒に、７月の熊本豪雨災害のための募金活動を実施。災害から２か月以上経っていたので、みなさんの記憶が風化してしまっているのではと危惧していたけれども、予想を遥かに越える皆さんからご協力をいただいた。心配していた自分を反省。同時に心からの感謝!

9/29



自民党県連の政調会が県内各地を回り、地域の支部、そして友好団体から聴取した要望事項を取りまとめて知事に提出。合計 239 項目。毎年のことだけれども、支部からの要望で圧倒的に多いのは、道路と河川の整備・改良。しかも新規はわずかで、ほとんどが継続。
予算が限られている中で、一朝一夕にはご要望のお応えすることはできないけれども、前年の要望時から少しでも前進したといわれるように足跡を残していきたい。知事からも「しっかりと精査して、実のある回答を出したい」とのコメントが。

10/5



「鳥栖地域から未来のオリンピック選手を!」を合言葉に、卓球選手の強化や卓球競技の普及活動を支援していく後援会組織（鳥栖エリア卓球強化 PT）を、発起人のひとりとして立ち上げ。全国大会に出場する選手も輩出しはじめていて、身近な目標は 2024 年の佐賀国スポ。夢をもって頑張る選手たちを、ほんとに微力ではあるけれども、継続して応援していきたい。事務局は桜町にある鳥栖卓球センター内。

7/28



鳥栖市執行部と市選出県議会議員との意見交換会。市から県への要望事項について聞き取りを行い、それらの実現に向けて、県議もスクラムを組んで努力していくことを市に対してお約束申し上げた。また、コロナ禍の真っ只中、県と市がしっかりと連携することが大事。両者の立場の違いから生じる溝を埋めていくことも県議の役割であると認識しながら、今後も活動していく所存。

10/10

佐賀県が冠スポンサーを務めた、サガン鳥栖対浦和レッズの試合を観戦。通常であれば、真っ赤（浦和のチームカラー）に染まるアウェイのサポーター席はコロナ対策のために立入り禁止。それでも、販売したチケット（9,000 枚）はすべて完売したとのこと！あとは結果を…と思っていたけれども、終了間際に失点して 0-1 で惜敗。ドンマイ！次の試合、頑張って (^^)/



一般質問 抜粋(要約)

❶ 障害者の採用について



中村：知的障害、精神障害、身体障害、それらの障害の種別にかかわらず同じ採用試験を行うこと、これは確かに「平等」かもしれないが、決して「公平」ではない。…それぞれの障害の種別に応じた適切な試験になるように、知事にはぜひリーダーシップを発揮していただきたい。そうすることが、県における障害者雇用の促進にも、学力だけでは測れない、より有能な人材の採用にもつながると思うが？

知事：障害者の皆さん方もできるだけ多く庁内で活躍できる環境をつくりたいと願っている。しかし、県の仕事は、定型的な議論など必要とするのも多く、特に知的障害者の方とマッチングしにくい面がある。…昨年度から導入したチャレンジ雇用をしっかりと充実させていきたい。そういう就業の中で正規職員へのキャリアパスというものも意識してつくっていかなければならないと思っている。

❷ 道徳教育の副教材について

中村：この教材は、佐賀県教育委員会と某大学の教育学部の教授が、小中学校の道徳で活用できるものとして共同で制作したもので、電子黒板で使用する DVD である。教科書には検定があり、採択がある。しかし、このような教材にはそれらがない。果たして、１＋１＝２　のように明確な正解があるわけではない道徳の授業に、そういうノーチェックの副教材が馴染むのか？そういう心配もあり、私も、実際に DVD を取り寄せて、視聴してみた。すると、「マイナスイメージの決めつけをされるといやだよね。これを偏見って言うんだよ。」と教える、この教材自体に、決めつけ、偏見が散見された。いくつか具体的に示すと…

（パネルを使用しながら問題点を指摘）

せっかくつくった DVD 教材だが、例を挙げたように、誇張、決めつけ、偏りが散見され、とてもこのままでは使えない。学校への配布を中止すべきだと思うがいかがか？



教育長：…議員からまさに議会という重い場で様々な指摘をいただいた。そういう意見があることは、私たちも踏まえて今後の対応を考えていかなければならないと考えている。

中村：「分かりやすくした」という答弁もあった。分かりやすくすることと誇張することは全く違う。誇張が偏見へとつながる。…ここは立ち止まって、修正すべきを修正し、…最終的には、県 PTA 連合会を通すなどして、教材の内容に対しての保護者の理解を得る。学習指導要領が求めるように、道徳で使用する教材は、それくらい慎重かつ丁寧に扱うべきだと思うが、いかがか？

教育長：改めていろいろな方のご意見を聞いて、私たちとしてもこの教材を見直してみたいと思う。

私の質問に限らず、過去のものも含め、一般質問・委員会質問の全てを右記から視聴いただけます。 佐賀県議会映像検索システム 検索

佐賀県議会議員

中村圭一

令和元年度６月定例会

活動報告 vol.5

With コロナ、そして集中豪雨



２月定例会が３月19日に閉会した後、新型コロナウイルス感染症の拡大は深刻さを増し、４月の専決処分、５月臨時会、そして６月定例会と、合計約1,246億円のコロナ対策予算を承認・可決してきました。

国・県・市のすべてが、できる限りの対策を講じようと全力を注いできたことは事実ですが、その内容、タイミング、規模などにおいて、県民の皆様にとって十分なものになっていないのもまた事実なのだと認識しています。

特効薬やワクチンが開発される（早くても来年？）までは、いわゆる With コロナ。経済を回しながらコロナと付き合っていかなければなりません。「第２波は必ず来る！」との覚悟のもと、第１波での経験や反省を活かし、県議会の一員としての役割を果たして参ります。

すでに梅雨の豪雨災害（７月上旬）に見舞われました。これから９月の台風シーズンまで、気が抜けない日々となります。避難所でのコロナ対策も含め、喫緊の課題などにしっかりと取り組みながら、皆様とともにこの難局に立ち向かっていきたいと思っています。

皆様のご自愛を祈り、そして「近助」※を心からお願いし、ご挨拶とさせていただきます。

※近助とは：ご近所さん同士が、思いやり、助け合うこと。いざという時には、町区単位のイメージが強い「共助」では限界があり、向こう三軒両隣で助け合う「近助」が重要だと言われています。

令和２年７月吉日

佐賀県議会議員　中村 圭一

6 月定例会で可決された主要事項〈一部を抜粋〉

細事項名	予算額(千円)	目的
JAXAGA 宇宙教育文化振興事業費	23,000	JAXA と連携して、子どもたちの学びの機会を創出することにより、次代を担う子どもたちの科学に関する興味を育む。同時に、様々な視点が培われることで郷土への愛着の醸成を図る。
誇りつなぐプロスポーツ支援事業費	230,000	SSP 構想に掲げる「スポーツのチカラを活かした人づくり、地域づくり」を実現するたえには不可欠な存在であり、佐賀の「宝」、「誇り」であるプロスポーツチームに対する支援。 サガン鳥栖　100,000 千円 久光スプリングス　70,000 千円　など
観光需要緊急対策事業費	148,000	県内の観光業が深刻な影響を受けている状況を踏まえ、新たな「観光スタイル」に取り組む支援や、近県からの誘客を強化すること等により、県内観光需要の速やかな回復を図る。 ※県民を対象とした旅行商品の造成・販売の強化など

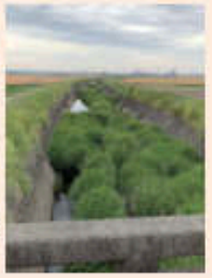
ご意見 ご要望は
携帯 090-2522-3944
E-mail ddonenak@kumin.ne.jp
ホームページアドレス
https://www.nakamurakeiichi.com/

Photo Gallery 豪雨災害を防ぐために…

5/18

地域の方々と前川（安楽寺町）の現状の確認。長年にわたって堆積した土砂から草（や木！）が生え放題。川の流れを妨げている。この解決（浚渫）が地域の強い願い。私も、豪雨災害のリスクを減らすためにも不可欠であると、昨年11月の委員会質疑の中で担当課に要請。
※地域の切実な声に応える形で、現在は浚渫工事が行われている。





6/24

委員会の視察で狩立・日ノ峯ダム（武雄市）へ。
大規模洪水をもたらすような大雨が予想される場合に、早ければ3日前から利水容量の一部を事前放流などする「洪水調整機能強化」についての説明を受ける。この機能強化が、豪雨災害を防ぐ一助となれば…。





7/7

豪雨後の朝、連絡を受けて駆けつけた市内の生活道路。連絡くださった方が、次々と進入してくる車の迂回誘導をされている（←心からの敬意）。
道路はまるで川。豪雨の度にこうなる。この抜本的な改善策である西田川の改修工事の早期完了を改めて心に誓う。





国・県・市による新型コロナウイルス感染症に関する（主な）支援策

（←鳥栖市のサイト）

もらえるもの・戻ってくるもの

個人事業主・企業向け

●**鳥栖市緊急事業支援給付金**	売上が対前年比50%未満の月がある（2月～7月） 個人事業主　上限15万円 中小企業　上限30万円　（申請期限：8/31）
●**持続化給付金**	売上が対前年比50%未満の月がある（1月～申請月） 個人事業主　最大100万円 中小企業　最大200万円　（申請期限：1/15）
●**事業者3密対策支援事業**	3密対策や新たな業態（デリバリー、オンライン等）への対応に対する支援　（補助率4/5以内、限度額8万円）
●**雇用調整助成金**	一時的な休業等により労働者の雇用維持を図った事業主（売上5%以上減）1日あたり一人15,000円（上限）
●**小学校休業等対応助成金**	小学校の休校等により労働者に有給を取得させた事業主 1日あたり一人15,000円（上限）
●**家賃支援給付金**	1か月の売上が対前年比50%以上減、または3か月連続で30%以上減 個人事業主　最大300万円 中小企業　最大600万円

個人・世帯向け

●**特別定額給付金**	1人あたり一律10万円を給付（申請期限：8/27）
●**応援クーポン券事業**	児童1人あたり1万円
●**住居確保給付金**	離職等により経済的に困窮し、住居を喪失した方（収入・預貯金が基準未満額）への給付金
●**国民健康保険傷病手当金**	新型コロナウイルスに特化した傷病手当制度（国民健康保険制度加入者）
●**後期高齢者医療傷病手当金**	新型コロナウイルスに特化した傷病手当制度（後期高齢者医療制度加入者）
●**マスクの配布**	基礎疾患をお持ちの方や妊娠中の方（1人あたり10枚）
●**医療従事者慰労金**	重点医療機関、その他病院、診療所、訪問看護ステーションなどの医療従事者や職員へ（最大で20万円）
●**子育て世帯への臨時特別給付金**	全市民1人あたり2,000円分のクーポン券配布

借りられるもの・免除されるもの

個人事業主・企業・農業者向け

◆**新型コロナウイルス感染症特別貸付（日本政策金融公庫）**	最近1か月の売上高が対前年比5%以上減など 最大　8,000万円　（実質無利子・無担保） 貸付期間　15年以内（運転資金）
◆**佐賀県型新型コロナウイルス感染症対応資金（国による全国一律の制度）**	セーフティネット保証4号・5号など 最大　4,000万円（3年間無利子、以降1.3%） 貸付期間　10年以内
◆**農林漁業セーフティネット資金**	認定農業者、認定新規就農者、ほか　限度額1,200万円 貸付期間10年以内

個人・世帯向け

◆**生活福祉資金貸付制度**	一時的に収入が減少した世帯へ貸付（無利子・保証人不要） 貸付上限10万円（特例20万円）
◆**鳥栖市育英資金**	12,000円/月以内

その他

◎**納税1年間猶予**	所得税、個人住民税、固定資産税など、税金を一時的に納付することができない方
◎**国民健康保険税および後期高齢者医療保険料の減免**	主たる生計維持者の収入が一定程度減少した世帯
◎**法人市民税の申告期限等の延長**	法人市民税の申告及び納付を期限内に行うことが困難な法人
◎**水道料金等の支払い猶予**	水道料金・下水道使用料等の支払いが一時的にできない方

※上記の詳しい内容や手続きの方法など、一面に掲載の連絡先まで、お気軽にお問合せください。

一般質問 抜粋(要約)

❶ 九州新幹線西九州ルートについて



中村：今定例会開会日の演告の中で、知事より「今議会における議論を踏まえながら」国土交通との協議については考えていく旨の発言があった。「議会における議論」とは何か？
議員それぞれが自身の信念に基づき、または地元の声を代弁する形で執行部に対して質問する。これは「議論」ではなく「質問」である。「議会における議論」とは、あくまでも議員間の協議・討議であり、その結果として生み出されたものが「議会としての意思」となる。知事から「今議会における議会としての議論を踏まえながら」と言われた時に、私は知事から、「あなたたち議員は、この新幹線問題に関して、個々としてではなく、議会として私に対峙できますか？」と挑戦状を叩きつけられた気がした。
われわれには、議会人としての矜持がある。だから私は、何かしらの「議会としての意思」を生み出すことができると信じている。…今後の「議会における議論」の結果として、議会から何かしらの「意思」が示された場合には、それをしっかり"踏まえて"いただきたいと思うがいかがか？

地域交流部長：今議会における議論を踏まえ、佐賀県から確認文書を提出したいと思っている。

4月11日現在の状況

現状では議論に必要な数字や条件があまりにも不足しているとして、自民党県議団より知事に対して、国土交通省が求めている「幅広い協議」に応じ、早急に協議を始めるよう求める要請書を3月19日に提出したが、いまだにその実現には至っていない。

❷ 豪雨対策（マイカーの水没対策）について

中村：一世帯あたりの自動車の保有台数が全国で12番目に多い佐賀県。…大雨時の浸水等の被害により、その自動車が使えなくなると、県民の生活が大きく制限されることとなり、生活再建が遅れることにもつながる。
県は、災害時に、県民の生命、身体、財産を守る責務を負っている。生命・身体を守ることは大前提とした上で、県民の生活に密着した大事な財産である自動車、これは家屋と違い移動させることが可能である、この移動可能な自動車についても災害からも守る。これは、ちょっと知恵を出し、そして汗をかけばできないことはないと思うが？県の認識について尋ねる。



危機管理・報道局長：自動車、マイカーを災害から守るということ、これはやはり自助の部分になる。…しかし、自治体としては被災後の生活再建を円滑に進めていくための車の確保について、自助を超えたところの対応を考えておくことは必要。今回の佐賀豪雨では、一般社団法人のカーシェアリング協会が、水没などで車を失った被災者の生活再建を後押しするため、車の無償貸出しを行った。…そうした取組みを後押しするような対応なども必要になってくると思う。

＜その他の質問項目＞
- 老人クラブ活動の活性化について
- 三世代同居について
- 小中連携による学力向上について
- 高齢者の運転免許更新について

私の質問に限らず、過去のものも含め、一般質問・委員会質問の全てを右記から視聴いただけます。 佐賀県議会映像検索システム 検索

佐賀県議会議員

中村圭一

令和元年度２月定例会

活動報告 vol.4

新型コロナウイルスとの戦い



新年度がスタートしました。

本来であれば、夢膨らみ、希望に満ち溢れる新年度。しかし、令和２年度は例年とは全く違います。新型コロナウイルスの感染拡大はとどまるところを知りません。４月７日には、とうとう７都府県で緊急事態宣言が発令されました。佐賀県でも、４月11日現在の感染者数は12人となっており、一人ひとりが「うつらない」ための、そして「うつさない」ための対策を講じることが必要です。

また、政府は総額108兆円の緊急経済対策を決定しましたが、それで十分だとは思っていません。地域の中小企業、飲食業、旅館業などの皆様からの切実な生の声を、しっかりと県や国へと伝え、なんとか皆様が持ち堪えることができるよう、微力を尽くしてまいります。

コロナとの戦いは長期戦です。団結してこの戦いに勝利しましょう！

令和２年４月吉日　　佐賀県議会議員　中村 圭一

２月定例会で可決された「新型コロナウイルス」対策関連予算〈一部抜粋〉

細事項名	予算額(千円)	目的
新型コロナウイルス感染症観光需要緊急対策事業費	50,000	感染症の影響により大幅に減少した観光客の旅行需要を、事態終息後速やかに回復させるため、県内各地域の旅館組合等への支援や割引旅行商品の造成等を行うとともに、県内の観光情報を発信する。
感染防止対策用品購入費	244,113	感染拡大に伴い、市場で感染防止対策用品が調達できない状況を踏まえ、マスクや消毒液を県が必要な施設に提供することにより、医療・福祉施設等における感染防止を図る。
新型コロナウイルス感染症資金繰り対策資金利子補給	52,000（債務負担行為）148,000	感染症の影響により、県内経済全体に深刻な影響が及んでいる状況を踏まえ、経営改善資金における保証料の補助に加え、利子についても県で全額補給することにより、中小企業・小規模企業者の資金繰りの円滑化を図る。

ご意見 ご要望は
携帯 090-2522-3944
E-mail ddonenak@kumin.ne.jp
ホームページアドレス
https://www.nakamurakeiichi.com/

Photo Gallery

1/13

鳥栖市消防団の出初式に参加。火災だけでなく、災害（近年は特に水害）の現場の最前線でも奮闘くださっている消防団員のみんさん。彼らがよりよい環境で活動できるようにしていくことが政治の役目だと、改めて深く心に刻ませていただいた。夜の第五分団との懇親会では、現場の生の声をたくさん拝聴。有意義な時間に感謝。



2/15

生まれ故郷の麓地区で県政報告・意見交換会を開催。地域の幹線道路のこと、新鳥栖駅周辺整備のこと、高齢者の運転免許証更新のこと、市立体育館のトイレ改修・空調設置のことなどなど、たくさんの貴重なご意見・ご要望を頂戴した。整理して、それらの実現に向け活動していく所存。多くの皆様のご参加に心から感謝！



2/22

鳥栖市が主催する基里地区の地区懇談会にオブザーバー的に参加。この日のご意見などを参考にしながら、次期の総合計画を策定していくとのこと。この基里地区以外にも、予定が重ならなかった、鳥栖地区、麓地区、旭地区、弥生が丘地区の懇談会にも参加。それぞれの地域の皆さんの不安、不便、苦情、意見、要望などなどを把握させていただく貴重な機会となった。自身の今後の活動にも活かしていきたい。



2/1

地元旭地区の文化祭では、今年も詐欺師役で防犯寸劇に出演。大いに笑っていただいた。会場には多くの高齢者のみなさんも。手を変え品を変え騙してくる特殊詐欺。被害はなかなか減らない。今回は「リフォーム詐欺」がテーマだったけど、これが少しでも啓蒙・啓発になれば。。。





3/4

前日の一般質問の内容について「とくダネ！」（フジテレビ朝の情報番組）の取材を受ける。新型コロナウイルス関連の暗いニュースばかりなので、少しは明るい話題もほしかったからと、わざわざ東京から来佐。しかし、その後の反響に、県議会議員としての発言の重さを痛感し、背筋がちょっと寒く。。。



2/11

長崎県議会の自民党政調会の皆さんとの意見交換会。佐賀空港と長崎空港からのインバウンド客の両県周遊策などについて、忌憚なく活発に意見交換を行った。九州新幹線西九州ルートに関しても当然議題となり、お互いの現状や考え方などについて、違いは違いとして認めながら、有意義な議論ができたと思う。「意見・要望あれば遠慮なく言って」と言う長崎側に、帰宅後に思いついたことを政調会を通して提案。





3/9

所属する総務常任委員会の現地視察。分校跡地を活用した「分校カフェharuhi」では、おそとでこたつ、星空キャンプ、むかし美人の会とつくる高菜漬けなどなど、聞いただけで楽しくなるような活動で、地域の活性化に取り組まれていた。地域興しのカギはブランディングであり、そのブランディングをするためにはデザインが最も重要だ、というお言葉に得心。カフェのランチ（←これも美味）と一緒に食べた、"むかし美人"のみなさん（下写真）の手作りだご汁の美味しいこと！このような取り組みを行っておられる主役の皆さんの背中を、後ろから押させていただくのが県の仕事だと改めて認識。





3/19

佐賀県の商工３団体と自民党県議団との意見交換会。新型コロナウイルスの旅館業や飲食業をはじめとした商工業への影響について、生の声を聞かせていただいた。国や県が資金繰り対策資金の保証料の補助や利子の全額補給を行っても、肝心の銀行が"貸し渋り"したら意味がない。新たな資金の借り入れより、現在の借入金の返済猶予や返済の条件変更が求められているケースが多いとも理解。県から金融機関に指示は出せない。では独自に何ができるのか？どこまで効果があるか分からないけど、せめて県税の納税緩和措置くらいは、県として実施すべきではないか。。。



4/1

フレスポ鳥栖にて献血活動を実施。新型コロナウイルスの感染拡大により、移動採血会場の実施が困難になったことなどにより、献血者数が減少しているとのこと。「献血にご協力ください!」というパネルを首から下げ、フレスポ内を歩き回って献血への協力依頼。「こんな時だから」と初めて献血される方もおられるなど、多くのみなさんにご協力いただいた。深謝！



決算特別委員会での質問 抜粋(要約)

❶ 県道久留米基山筑紫野線（バイパス）の冠水対策について





中村：県道久留米基山筑紫野線の一日当たりの交通量は？

道路課長：鳥栖市真木町で約 26,000 台…。

中村：それは多いのか？少ないのか？

道路課長：県管理道路としては多い…。

中村：当該道路の近年の豪雨冠水による通行規制の状況は？

道路課長：通行規制は計３回…。(H30/7/6、R1/7/21、R1/8/28)

中村：県内有数の幹線道路である当該道路が、豪雨のたびに最初に浸かり、そして最後まで浸かっているという、この由々しき現状に対する県の認識は？

道路課長：課題であると認識している。今回の雨の降り方や河川における排水状況、周辺の冠水状況、更には土地利用形態などについて確認を行い、今後の冠水対策につなげていきたい。

中村：当該道路とその周辺の冠水対策、特に交差・並行して流れる轟木川・前川の浚渫については、鳥栖市からも、自民党鳥栖市支部からも知事に対して要望している。県民（市民）の命と財産を守るための現場の最前線からの切実な要望に、県としてどう応えるのか？

道路課長：…地元鳥栖市と意見調整を行いながら、適切に河川維持管理を行いたい。

中村：答弁以上の取り組みを強く求める。

❷ 佐賀県警察スクールサポーターについて



中村：スクールサポーターの具体的な活動内容は？

人身安全・少年課長：派遣先や巡回先の中学校において、…問題少年等に対する声かけや活動、生徒指導会議等での指導・助言・情報提供など、…学校関係者とともに少年の健全育成上の問題解決に取り組んでいる。

中村：活動の効果は？

人身安全・少年課長：校内秩序が維持され、生徒や教職員が授業に専念できるようになった、問題事案に関する連絡調整がスムーズに行えたなどという評価を受けている。

中村：実は、私がＰＴＡ会長を務めていた中学校にもスクールサポーターを配置していただいていたので、その効果は実体験として承知している。…決算説明報告書には、「スクールサポーターの活動の反響は大きく、継続派遣や新規派遣の要望が多い。」と記載されている。仮にスクールサポーターを増員するとなった時に、人材の確保という点では大丈夫か？



人身安全・少年課長：少年非行防止活動等の経験を有する警察官ＯＢについては一定程度いる。

中村：人材的には問題ないとのこと。あとは予算だけ。スクールサポーター増員に向けた予算獲得に注力いただきたい。…ぜひ頑張ってください！

私の質問に限らず、過去のものも含め、一般質問・委員会質問の全てを右記から視聴いただけます。 佐賀県議会映像検索システム 検索

佐賀県議会議員

中村圭一

活動報告 vol.3

令和元年度 11月定例会



謹賀新年



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、幸多き新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。昨年の佐賀県は、７月・８月の豪雨によって甚大な被害を被った年でした。本年は災害のない一年となるように祈念いたしますと同時に、国・県・市が連携しながら防災・減災に努めてく、その一端を私もしっかりと担っていく所存です。

さて、昨年 11 月の決算特別委員会では、県土整備部・県警本部に対して、会派を代表する形で質問をさせていただきました（裏面に概要）。また、直後の11月定例会では、SAGA アリーナ建設にかかる 65億円もの補正予算に対して、侃々諤々の議論が行われ、新聞紙面も賑わせました（内面に詳細）。議会として出した結論は私の主張とは異なりましたが、過程において会派内でしっかりと討議ができたことは大きな収穫だったと思います。今後も、是は是、非は非として、はっきりと主張する議会であるために、私も新人だからこそできることを、愚直に行っていきたいと思っています。

また、大型事業が軒並み頓挫してしまっている八方塞がり状態の鳥栖市ですが、「鳥栖の元気が佐賀の元気！」をモットーに、県の力を多いに活用しながら、その打開のため、市の発展のためにも微力を尽くして参ります。

本年も皆様からのご指導・ご鞭撻、ご意見・ご要望をお心からお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年もよろしくお願い申し上げます！

令和２年１月吉日　　佐賀県議会議員　中村 圭一

11月定例会で可決された主要事項（一部抜粋）

細事項名	予算額(千円)	目的
SAGA サンライズパーク整備事業費	(継続費) 6,500,000	アリーナ建築工事の不落を受けて、建設市況の再調査を行うとともに、改めて施工方法の再検討を行ったうえで、必要な設計及び積算の見直しを行うなど。
災害救助対応費	1,209,713	令和元年佐賀県豪雨災害により生活の維持が困難になった被災者に対し、応急的一時的な救助を行う。
直轄河川事業負担金 広域河川改修費	1,240,633	令和元年の豪雨災害により被災した地域で、河川（筑後川など）の防災機能の向上を図る。
建設工事早期着手対策費	(債務負担行為) 1,395,440	翌年度発注予定の事業を一部繰り上げて発注することにより、雨期前における浸水対策、防災対策、安全対策などの事業効果の早期発現を図る。

ご意見 ご要望は 携帯 090-2522-3944 E-mail ddonenak@kumin.ne.jp

ホームページアドレス
https://www.nakamurakeiichi.com/

Photo Gallery

2019 10/6



陸上自衛隊目達原駐屯地の創立65周年記念行事。わが国を取り巻く安全保障環境は厳しさを増し、また、何十年に一度の災害が毎年襲ってくる時代。有事の際には、文字どおり身を呈して護ってもらい、災害時には佐賀県民も直接的にお世話になっている自衛隊。その存在を憲法の中に明記しなければ、との意を強くさせていただいた。

2019 10/20



1350年前(!)から始められたと伝えられている歳上の御田舞を初めて見学。高校生から低学年の小学生までの町の子どもたちが、しっかりと踊りと口上を覚えて、立派に役割を務めていた。次代に引き継いでいく(べき)地域の誇りがここにも！

2019 11/7



自民党佐賀県連の会長以下計12名で、知事に対して要望書を提出。8月から9月にかけて、県下40ある自民党支部から聴取した109の要望と、45の友好団体から頂戴した112の要望をまとめたもの。どれも現場の最前線からの切実な要望。今後の進捗をしっかりと注視していかなければ…。

2019 11/17

女性の皆様との懇談会を開催。地域のことから国政のことまで、女性ならではの視点で、たくさんのご意見・ご要望を頂戴した。しっかりと受け止め、誠心誠意取り組んでいく決意。ご参加いただいた皆様に心からの感謝 <(_ _)>





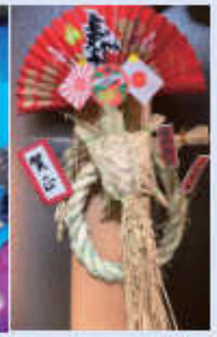
2019 11/22



鳥栖市老人クラブ連合会の福祉大会に参加。老人クラブ活動のメインテーマは「伸ばそう！健康寿命、担おう！地域づくりを」だとのこと。ここまで的を射ていて分かりやすいテーマは滅多にない。そのテーマに沿った老連の活動を支援していくことが政治の大事な仕事であると、改めて心に刻ませていただいた。

2019 12/22





田植えにも参加させていただいた「田んぼの学校」の最後の授業は、稲わらを使ったしめ縄づくり。手取り足取り教えてもらいながら初めてしめ縄を作る子どもたち。でもなかなかうまくいかない。私も同じ。最後は先生にほとんど頼りっきりになってできたのがこれ（写真）。わが家の玄関に飾らせていただきました(^^)

2020 1/3





地元の体育協会が主催する「新年歩こう会」に、妻と一緒に参加。皆さんと新年のご挨拶を交わしながら、朝日山の山頂を目指してウォーキング。山頂の宮地嶽神社では、地域の皆さんの今年一年のご健勝とご多幸を祈念。

2020 1/4





年末の準備にも参加させていただいた、ふるさと平田町のほんげんぎょう。朝の7時に年男が点火するとあっという間に炎に包まれる。その炎で餅を焼いたり、スルメを焙ったり。ご婦人たちが前日から準備された豚汁も絶品。今年も頑張るぞ！

SAGAアリーナ建設にかかる増額補正予算について

下記は、11月定例会に上程された議案の中で一番議論を呼んだ、SAGAアリーナ建設のための60億円の増額補正(197億円→257億円)について。

県の説明

東京五輪絡みの開発、その後の民間需要によって、鉄骨の価格が高騰したことが、今回の大幅な増額補正の主な要因である。しかし、令和5年度に佐賀県が主催する国民スポーツ大会（＝今の国体）までになんとしても完成させたい。なぜなら国民スポーツ大会は、SAGAサンライズパークを全国にアピールする“絶好の機会”だから。

私の主張

確かに“絶好の機会”であるかもしれないが、“唯一の機会”ではない。SAGAサンライズパークを全国にアピールする機会は国スポ以降もいくらでもあるはず。またそういう機会をつくっていくことが県の仕事。
国スポはSAGAアリーナがなければ開催できない、ということではない。鉄骨の価格が異常に高騰している今、また国スポまで完成させたいという県の足もとを見られている中、60億円もの追い銭をしてまでアリーナ建設を強行すべきではない。鉄骨の価格が落ち着きついた時期に、国スポにこだわらず（＝足もとを見られることなく）建設を進めることで、今回の補正額60億円の多くが節約できる。よって、今回の補正予算案は議会として認めるべきではない。

議会が出した結論

予算案は認めるものの、同時に予算案に対する付帯決議に全議員が賛成するという形（←県政史上初）で幕。
付帯決議の骨子：
※今後は十分な説明責任を果たす
※国スポ・全障スポに影響がないように整備を進める
※事業費の更なる増加を抑え財源確保に努める
※完成後も多額の投資に見合う活用策を講じる など





所感 議会の出した結論は、私の主張とは異なりましたが、その結論に至るまで過程で、新人（＝私）の生意気な発言にも耳を傾けていただきながら、会派内でしっかりと討議ができたことは、大きな収穫でした。

総務常任委員会での質問 抜粋(要約)

今議会では、委員会の中で一問一答方式による質問をさせていただきました。やっぱり、していても、聴いていても、一問一答の方が（総括質問方式）よりもわかりやすい！

❶ 令和元年佐賀豪雨災害に対応するための予算編成について



中村：今回の豪雨災害への対応については、追加補正や予備費の活用など、予算面でも必要かつ迅速な対応がとられていると思う。
…しかし、被害全容が明らかになってくる今後においても予算に上限を設定することなく、さっそく次の補正予算に計上するなど、引き続き柔軟な予算編成を行なっていくべきであると考えるが如何か？

財政課長：…次の11月補正予算においても、豪雨災害からの復旧復興を図るため、被害を受けられた方々に寄り添った支援ができるよう、必要な予算を計上させていただきたい…。

❷ SSP構想と障害者スポーツについて

中村：（全障スポ佐賀大会での）成績やメダルの数が一義的な目標ではない、ということは理解できる。しかし代表選手の中には、より高い目標を持ってスポーツに取り組みたいと思っておられる方も少なくない。そういった選手の皆さんの競技力向上に対して、県としてどのような取り組みを行なっているのか、またそれに伴う予算措置はどうなっているのか、ご答弁を求める。

スポーツ課長：…競技団体や障がい者スポーツ協会と協力をし、練習の機会を増やしたり、他の出場選手と一緒に活動する場で、競い合いが行えるように…。予算としては、協会練習会の開催費用として859,000円、クラブチームなどの団体への活動補助として1,506,000円…。

中村：「それでは物足りない。もっと強くなりたい、もっと速くなりたい。」という声も実際にある。佐賀県から、パラリンピックの代表選手になるような全国レベルの選手や、パラリンピックでメダルが獲れるような世界レベルの選手が生まれることが、県の障害者スポーツの裾野の広がりや、県民の障害者スポーツへの理解の深まりに繋がっていくのではないか？そのためにも、障害者スポーツの競技力向上への、今よりも更に踏み込んだ取り組みが必要…。

❸ 地域交通の確保について



中村：…県内のある地域が、「住民のニーズを満たせていない今の地域交通を見直したい。でもそもそも、どんな地域交通の形態があって、そのどれが自分らの地域にマッチしているかさえ分からない。」と、県に助けを求めてきた際に、県はどのような形で、寄り添い、関わっていけるのか？

さが創生推進課長：県としても、広域的、技術的な観点から市町をしっかりと支援してまいりたい…。地域とともに知恵を出し、様々な工夫をしながら、地域や市町と一緒になって取り組んでいくことが重要…。

中村：…ぜひ主体的に関わっていただくよう強くお願いする。

私の質問に限らず、過去のものも含め、一般質問・委員会質問の全てを右記から視聴いただけます。 佐賀県議会映像検索システム 検索

佐賀県議会議員

中村圭一

令和元年度９月定例会

活動報告 vol.2



何十年に一度が毎年襲ってくる時代に…



まずもって、７月の東部地区を中心とした豪雨、そして８月の佐賀豪雨で犠牲になられた方々へのお悔やみと、被災された全ての皆様へのお見舞いを衷心より申し上げます。１日も早い復旧・復興のため、補正予算も前倒しして承認させていただきしたが、被害の全容が明らかになっていく今後におきましても、新たな補正予算を要求・承認するなど、しっかりと復旧・復興に努めて参ります。

また、何十年に一度が毎年襲ってくるような時代です。

泥縄的な災害対策ではなく、短期的にやらなければならないこと、中長期的にしっかりと予算付けしながらやるべきこと、それらをきちんと整理して、また国・県・市の役割も明確化しながら、減災・防災にも取り組んでいくよう、議会の中で強く訴え続けて参ります。

さて、県議として２回目の９月定例会では、所属する総務常任委員会において、豪雨災害に対応するための予算編成、地域交通の確保などについて質問する機会を得ました（概要は裏面）。また、豪雨による被害を受けた県内中小企業者・小規模企業者に対する補助金について、自民党として正式に要請することで、もともとは８月豪雨の被災者だけだった対象を、７月豪雨の被災者（鳥栖市内の事業者）にも広げることができました。対象となる事業者の皆様には、是非この補助制度（補助率：2/3、上限：25万円）を活用いただければと思います。

10月には２つの委員会視察、11月上旬には決算特別委員会、下旬からは定例会と、有り難くも年末まで忙しくさせていただきますが、ご意見・ご要望等は常時受付けていますので、ご遠慮なく下記までご連絡下さいますようお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

令和元年 10 月吉日　　佐賀県議会議員　中村 圭一

９月定例会で可決された主要事項

	細事項名	予算額(千円)	目的
	東アジア等誘客拡大・強化事業	25,000	韓国からのインバウンド宿泊者が急減する状況の中、中国、台湾、タイ、シンガポールにおける、市場拡大・強化に向けた、新たな旅行社とのタイアップ商品造成など
	子どもを見守る防犯カメラ設置事業費補助	3,000	犯罪から子どもたちを守る体制の強化のために、市町が設置する防犯カメラに係る経費に対する補助（補助率：1/3、上限：10万円／台）
	交通事故ワースト脱却推進プロジェクト事業費	2,500	ペダルを踏み間違えた際の急加速を抑制する安全運転支援装置を普及促進するための体験試乗会など
災害復旧	中小企業者等被害対策事業費	216,152	豪雨災害により浸水等の被害を受けた県内中小企業者・小規模企業者に対し、事業活動の再開に必要な費用の一部を支援
復旧関連	観光需要対策事業	31,000	豪雨災害により低減した観光客の旅行需要を早急に回復するための宿泊割引キャンペーンなど

ご意見 ご要望 は
携帯 090-2522-3944
Email ddonenak@kumin.ne.jp
ホームページアドレス
https://www.nakamurakeiichi.com/

Photo Gallery




7/14

鳥栖山笠に初めて参加。山笠＝暑い夏、というイメージ。しかし、初日は力水が可愛く感じられるほどの雨に打たれながら寒さに震えることに。それでも、山車の上に乗っての「かぶり」など、とても貴重な体験をさせていただいた。お世話になった初日の２番山の本通町の若獅子会の皆さん、２日目の中央区の牛若会の皆さん、本当にありがとうございました(^^)/



8/31

８月佐賀豪雨の被災地を視察。水浸しになり廃棄を待つ商品の山々の横での復旧作業。一時集積所集まって来る廃棄物の荷降ろし作業。油の除去作業と家屋の復旧が同時並行的に行われている現場。ボランティアの皆さんが懸命に活動されているお姿に、多くを学ばせていただいた。県議としての自分は何をすべきなのか、しっかりと考え行動していく決意を新たに。



9/4

佐賀県医療センター好生館と県議会との意見交換会。充実した救命救急の設備を活かしながら、県民の命を最前線で守ってくださっていることに感謝。一方で、ハイスペックのドクターカー（写真）があるものの、それに乗って現場まで行く肝心の医師が不足していて、出動したくてもできないケースも多いという苦しい現実も理解。



8/12

お盆・終戦の日を前に、遺族会の皆さんと、旭地区の忠魂碑まわりの清掃。猛暑の中、汗をかきながら作業されている皆さん。こういう活動を引き継いでいくためにも、青年部の組織の充実を急がなければ！



9/11

９月議会に上程されている議案の勉強会。８月豪雨の復旧・復興関連予算のひとつに対して、7/21の豪雨被害（鳥栖市）が対象外なのは理不尽だと訴える。
※その後、自民党から正式に要請してもらい、７月豪雨（鳥栖市）も補助の対象に。



9/15

武雄市で、災害ボランティアの皆さん（この日は120名）に対するボランティア活動。現場に出発される前に、お茶や経口補水液、塩飴、軍手、マスク、タオルなどをお渡しする。そして夕方には、たっぷりと汗をかいて帰ってこられた皆さんを冷たいかき氷でおもてなし。「おいしい！」と喜んでいただく皆さんの笑顔が眩しい。



9/22

令和５年に開催される全障スポ大会佐賀大会の育成指定選手認定証交付式に出席。競技力向上推進本部の委員として、育成指定選手に認定された10競技83名の選手の皆さん、おめでとうございます！選手の皆さんがよりよい環境のもとで競技力向上に取り組んでいただけるよう取り組むことが我々の務めだと自覚。



9/25

総務常任委員会の現地視察で武雄温泉街を訪問し、県豪雨被害の状況や、当時とその後の予約キャンセルの状況など詳しく拝聴。韓国人観光客の大幅減少に加え、豪雨及び風評によるキャンセルで、ダブルパンチになっていると。県として行っている宿泊割引キャンペーンなどの誘客促進策ではまだまだ足りないと痛感。



8/21【県政報告・意見交換会の開催】

＜当日のアンケートの結果＞

九州新幹線 西九州ルートについて	フル規格	ミニ新幹線	必要なし	その他
	17	5	5	2
旭地区の ミニバスについて	今のままで	ルート等の改善を	ミニバスでは限界あり	その他
	3	8	17	1

＜いただいたご意見・ご要望＞

※SDGsの普及啓発を
※消費増税に伴う対策を
※高校でも不登校のサポート支援を
※洪水・浸水対策を
※鳥栖駅周辺整備を早く
※長期ビジョンでの開発、インフラ整備を
※運転免許返納者への優遇策を
※市と県はもっと連携して　　など

初めての県政報告・意見交換会は、地元の旭地区で。生憎の雨の中、本当に多くの皆さんにお集まりいただき心からの感謝。皆さんからのご意見は、やっぱり豪雨対策と買い物難民対策がメイン。頂戴したご意見・ご要望を真摯に受け止め、県政の場で活動して参ります！



10/5

絶好の運動会日和の下、市内保育園の運動会にお呼ばれ。挨拶中に何度も返事をしてくれる（笑）かわいい園児たちに、「緊張せずに頑張ってね」とご挨拶。考えてみたら、自分もそろそろ孫がいても可笑しくない年に…

一般質問 抜粋(要約)

初議会でいきなり一般質問をする機会をいただきました(^^) 下記はその抜粋(要約)です。

❶ 県の浮揚・発展に向けての鳥栖市の位置付けについて



中村：鳥栖市が、国の力、県の力を借りながら、自身の抱える課題（幹線道路の慢性的な渋滞、洪水浸水対策、開発可能用地不足など）を解決し、より一層元気になっていくことが、延いては佐賀県の元気、つまり浮揚・発展につながると考えるが、県としての所見は？

政策部長：鳥栖市については、…ポテンシャルの高い地域だと認識している。また、…佐賀県の東の玄関口として大いに期待している。しかしながら、新産業集積エリアの整備がなかなか進まないこと…JR 鳥栖駅の橋上駅化が断念されるなど、せっかくのポテンシャルを活かし切れおらず、もったいなくて残念に感じている。

中村：県として、もっと戦略的かつ能動的な形での市町との関わっていくように求める。

❷ 人口減少対策について



中村：「自然減」対策として出生数を増やしていく施策(少子化対策)については、国も県も市町も、財政的に許される範囲の最大限で対策を講じてきた。しかし、なかなか数字として結果が表れてこない。もちろん、特効薬的に、何かひとつの施策ですべて解決、という単純な問題ではないが、ここまでやってダメなら、これまでとは違った視点、角度からの施策も検討してみる価値はあるのではないか？

政策部長：議員発言の通り、人口減少の抑制等について特効薬はないと、我々も確かにそう思う。だからこそ、様々なアイディアやご意見をお聞きしながら、既存の事業にとらわれることなく、柔軟に研究・検討を行っていく必要があると考えている。

❸ 県立高校における献血の推進について



中村：見込まれる血液製剤の需要増に備え、将来の献血を担う若年層、特に高校生への献血の普及が重要であると言われている中で、残念ながら県内の高校は献血活動に協力的だとは言えない。その現状を踏まえ、担当部局として、今後はどう取り組んでいくのか？また、お願いを受ける側の教育委員会はどうなのか？

健康福祉部長：今後はこれまでの取り組みに加え、県立学校長会などの機会を捉え、改めて各高校に献血の推進について関係機関と連携して働きかけていく。

教育長：引き続き通知文書等による依頼を行うとともに、献血を実施している高校の取り組みについて、県立学校校長会や体育主任研修会の折に周知し、改めて献血の意義や必要性について理解と協力を求めていく。

中村：更なる取り組みを行うとのこと。その成果を注視していきたい。

❹ 地域交通の確保について



❺ 高齢運転者の交通事故防止対策について

中村：交通弱者対策としては、単に交通空白地帯を埋めるということではなく、地域のニーズに合った、もっときめ細やかなサービスを行うことが重要である。しかし、簡単に解決策が見つかる問題ではないし、仮に１つの地域で解決策が見つかったとしも、残念ながらそれが他にも通用するとも限らない。そのような厳しい現実の中、県として、今後どのような具体的取り組みを行っていくのか？

地域交流部長：市町や地域が主体となって運行する自家用有償運送の取り組みなど、住民の皆さんの自発的な取り組みを応援していく。地域の方々が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、地域や市町と共に知恵を出し、様々な工夫をしていきながら、地域交通の確保に全力で取り組んでいく。

中村：地域交通に対する地域のニーズはいくつかには分類できるはず。その分類ごとに早く成功事例を確立し、それらを県内全地域へと広げていっていただいたい。また、交通弱者対策が高齢運転者による悲惨な事故を防止することにも繋がっている。取り組みの強化、加速化を強く求める。

私の質問に限らず、過去のものも含め、一般質問の全てを右記から視聴いただけます。 佐賀県議会映像検索システム 検索

佐賀県議会議員

中村圭一

活動報告 vol.1

令和元年度 ６月定例会

決意を新たに



本当に多くの皆様のご支援のお陰様で、この４月30日（奇しくも平成最後の日）から、佐賀県議会議員として活動をさせていただいております。この感謝の気持ちを胸に刻み、県民・市民の皆様のお役に立てるよう、誠心誠意働いてまいります。

「鳥栖の元気が佐賀の元気」

佐賀県の玄関口であり、九州の心臓部であるこの鳥栖が元気にならなければ、佐賀も元気になりません。しかし、鳥栖駅東西の連携、新産業集積エリア、新しいゴミ処理施設の問題などの課題が山積した今の八方塞がり状態の鳥栖を元気にするには、外からの力が必要不可欠です。今よりもっともっと県の力、そして県のお金を使って、鳥栖を整備、発展させていかなければなりません。そのことに全力で取り組んでまいります。

また、区長をさせていただいて痛いほど実感しているのが、大きい小さいに関わらず地域の皆さまのニーズやご要望、それを真っ先に受け止めるのが区長さんたちだということです。しかし、その区長さんたちの声も県政にはなかなか届いていきません。私は、選挙の際に「区長さんたちの代表として戦います。そして皆さんの代弁者として働かせてください。」と区長さんたちにそうお願いしました。地区の区長会長として、区長さんたちとの横の連携をしっかりと築いてきた私だからこそ、市民の皆さんと行政（国、県、市）とのパイプ役になれる、そう確信をしています。

ぜひ、皆さまの声のワンストップサービス、身近な県議として使っていただきたいと、決意を新たに心からお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

令和元年７月吉日

佐賀県議会議員　中村 圭一

ご意見 ご要望 は
携帯 090-2522-3944
E-mail ddonenak@kumin.ne.jp
ホームページアドレス
https://www.nakamurakeiichi.com/

Photo Gallery



4/29

鳥栖市の重要無形民族文化財に指定されている、宿の鉦浮立にご招待いただいた。地域の五穀豊穣と無病息災を祈り、なんと164年前から行われていたとのこと！来年は直会でお酒をご一緒できるよう日程調整して参加します(^^)/



5/12

自民党佐賀県連での研修会に参加。内容は、九州新幹線西九州ルートに関する与党プロジェクトチーム（福岡先生・古川先生）からの説明と質疑応答。県民の様々な思いを吸い上げ、未来の佐賀県、九州、延いては日本国のためにどうあるべきかという"県民の総意"を形成していくのは県議会の役目であると改めて自覚。



5/14

県議会の初日に全議員（38名）が並んで記念撮影。初心を忘れることなく、県民・市民のために、微力を尽くしていく、その決意を新たに。



6/1

鳥栖市ボランティア連絡協議会の総会。行政では聞き取れないほど小さい、けれども切実な声を受け止めながら、市民のニーズに合ったきめ細やかな活動をされている皆様。その皆様からいただくご意見・ご要望に応えていくことこそが、政治の果たすべき役割だと、改めてピンと背筋が伸びる思いに。



6/17

県議会議員として初めての一般質問。その日のラストバッターで、時間が予定終了時間の17時をまたぐ形になり、先輩議員たちからの「早く終われ光線」を受け、質問が早口になってしまったのが反省点(^^;
今回の質問に対する答弁をベースに、4年間しっかりと「鳥栖の元気が佐賀の元気」目指して頑張ります！



6/22

佐賀市内で行われた「佐賀のフル規格を考えるシンポジウム」に参加。どの目線で、どこを見つめるのか？九州新幹線西九州ルートの整備方法については、この違いで意見が分かれるのでは。しかし、そういう問題だからこそ、合議制の議決機関である県議会の最大会派である自民党県議団としての考え方を示す、少なくとも、その努力をしないといけない、との思いを強くさせていただいた。



6/23

弥生ヶ丘地区の子どもたちと一緒に田植えを体験(^^)
田植え、田んぼの生き物調査、案山子づくり、稲刈り・天日干し、千歯こきによる脱穀、しめ縄づくりなど、一年を通した「田んぼの学校」(県の補助事業)の活動の一環。参加した子どもたちの目がキラキラしていたのが、とても印象的だった。次の案山子づくりにも是非参加させていただきます！



6/25

総務常任委員会の議案審査。市議会との違いにちょっと戸惑うところも。前日の現地視察では、伊万里湾コンテナターミナルと佐賀星生学園へ。特に、不登校経験者や高校中退者等を多く受け入れている佐賀星生学園の「解決志向教育」について学べたことは大きな収穫だった。



6/26

東部地区の議員団（7名）で勉強会を行った後、佐賀国道事務所を訪問し、国道34号の交差点改良と将来のバイパス整備について要望。所長さんより事業の進捗状況、道路のストック効果などについて、詳しくご説明をいただいた。

6月定例会で成立した主な条例

佐賀県佐賀空港条例の一部を改正する条例

8月9日(金)から8月18日(日)までの10日間、深夜便を増便するための条例改正。これにより、羽田→佐賀の21:00→22:50、佐賀→羽田（金・土）の22:00→23:50、佐賀→羽田（日～木）の23:10→1:00が増便される。

佐賀県育英資金貸与条例の一部を改正する条例

「高額通学費加算」について、県内のどこに居住していても、希望する県内高校等へ通学できるよう、貸与限度額の上限を廃止。また、県内企業への就業を促進するため、高額通学費加算の返還免除要件を見直し。

6月定例会で可決された主要事業

細事項名	予算額(千円)	目的
消防防災ヘリコプター拠点施設整備費	328,796	九州佐賀国際空港の隣接地に、消防防災ヘリコプターの拠点施設を整備し、航空消防防災体制を構築することにより、地域防災力の充実・強化を図る。
移住支援事業費補助金	16,371	県が運営するマッチングサイトに掲載された求人情報により、県内企業に就業した場合等に移住支援金を支給する市町に補助金を交付。
外国人と共に暮らす佐賀県づくり事業費	19,586	外国人に関する相談体制の強化等により、外国人と日本人のコミュニケーションの円滑化を図り、共に暮らしやすい環境づくりを行う。
障害者ボランティア育成等事業費	3,353	手話通訳士の確保及び知識・技術の向上を図ることにより、聴覚障害者の情報保障、意思疎通支援を充実させ、聴覚障害者の社会参加を促進する。
保育対策等促進事業費補助	34,110	保育に係る周辺業務を担う保育支援者の配置の支援を行うことにより、保育士の負担を軽減し、保育の質の向上を図る。